



紅葉（奈良公園内）

紅葉の季節が訪れました  
 自然が生み出す芸術は素晴らしい  
 桜 楓の落葉樹の紅葉  
 赤はあくまで赤く  
 鮮やかな黄色 オレンジ  
 様々な紅葉が重なりあう  
 常緑樹の緑のキャンパスに  
 絵の具を散らしたような紅葉  
 透き通るような空の青  
 見えかくれする建物  
 淡い珊瑚色の光を浴び  
 紅葉がひとときわ綻く燃え上がる  
 まばゆいばかりの紅葉の海  
 繊細にして深奥な秋を伝えたく  
 今年もまた出かけました

秋色の空間（東大寺付近）



Photo essay

# 紅葉狩

題

題字 中田 蘭 石  
 撮影 由井 収  
 文 松 永 恵 一

紅葉（浄瑠璃寺）





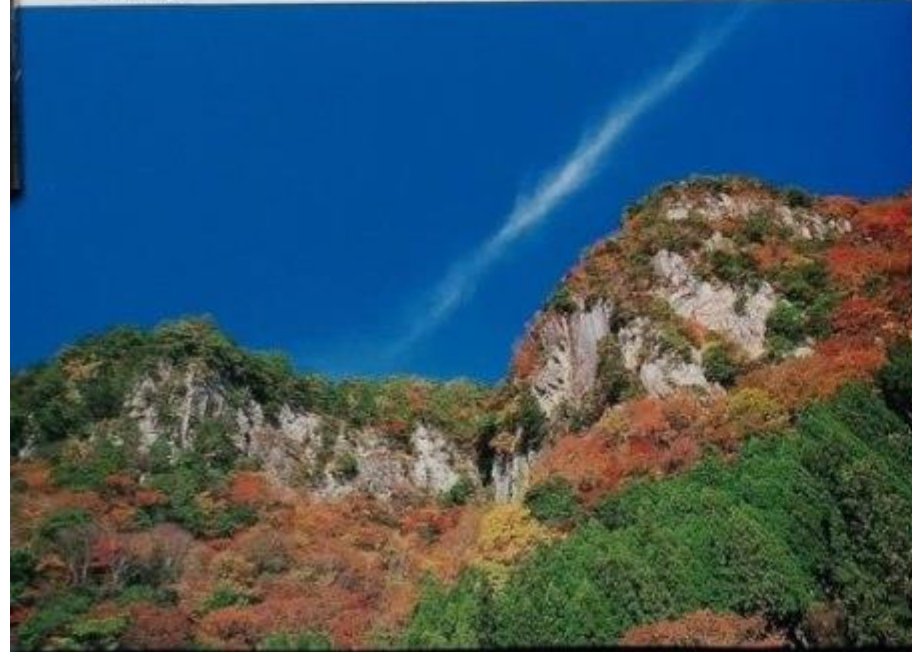
キノコ

# 季節の



晩秋の滝

飛行機雲

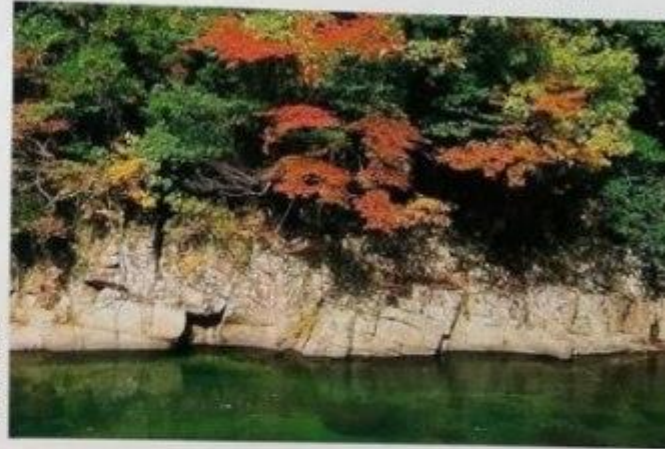


# 実景

香落溪

晩秋

撮影 武市通治



紅葉と清流

錦秋





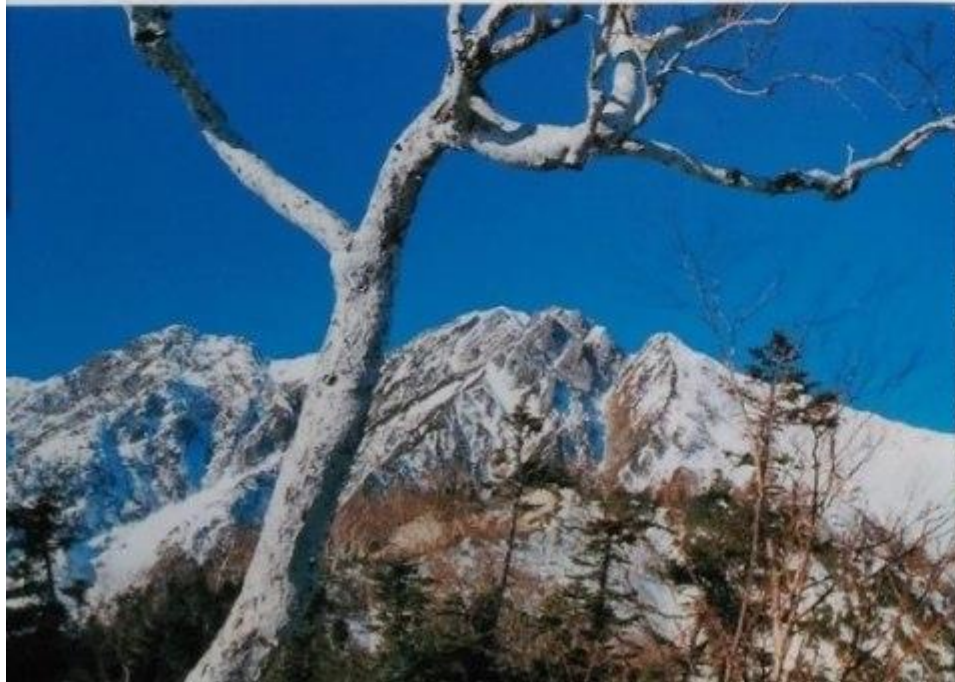
初舞山木平湿原（奥美濃） 松田 敏男



釈迦ヶ岳へ（大峰） 一芝 義雄

遠見尾根より五竜岳（北アルプス） 松田 敏男

由良川源流上谷（戸生演習林） 中川 光郎



# 残照三題 一晩秋の京都北山にて一

奥田 英一郎



残照2

残照1



残照3

## ●目次

表紙：松田敏男「天狗ノ窟と火打山」(妙高連峰)

●1名プロフィール ●1949年、京都生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳雑誌、山岳誌の編集多岐にわたる。(京都平安楽社、山アルプス山岳小説、東京ギョウリイ号、他) 京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

## 新小作 3冊 関西の山 2014年11・12月 晩秋 第79号

沿線ハイキングガイド	84	新ハイ関西山行計画	94
せせらぎ	88	新ハイ関西山行報告	102
サービスチェイン	90	編集後記・広告案内	112

コース	11	大師山・清水山城跡(湖西)	長宗 清司	74
ガイド	12	交野山(河内東部) (北河内)	慶佐次 隆一	76
1	13	栗屋山(河内東部)・猿ヶ馬場線(南北)	金谷 昭	78
2	14	茨川から藤原岳 真ノ谷を下(鈴鹿)	磯部 純	81
3	15	高野山金剛峯寺へ詣でて(山野)	松永 恵一	62
4	16	山のレポート) 山の地名を歩く(妙高守岳)	西尾 壽一	66
5	17	山のレポート) 大きな三角点(磨三角点)	生駒 登峰	68
6	18	山のレポート) 何でも無い山で道迷い	宮本 真幸	69
7	19	旗振り通信の研究(最終回)	柴田 昭彦	48
8	20	旗振り通信の資料Ⅲ・総索引	中村 敏文	59
9	21	三上山(近江富士) 登山(湖西)	柴田 昭彦	48
10	22	文学歴史探訪ハイイク	中村 敏文	59
11	23	荒川三山と赤石岳(南アルプス)	蟹見 守康	16
12	24	比良岳西方ピーク登高(比良)	小山 誠次	20
13	25	大長山と赤見山(飯沼岳)	木村 太郎	24
14	26	運高による山の紹介シリーズ19 △△79の山	松田 敏男	28
15	27	南木曾岳・鳥帽子山・千枚岳・高嶺	中島 仁志	30
16	28	佐賀の名峰・天山(九折)	内田 高弘	34
17	29	カイヤス一周の山旅(チベット)	磯部 純	44
18	30	注釈 三角点を訪ねて		
19	31	奥美濃前衛の山 天狗山(美濃)		

## 巻頭言

秋の収穫が終わり、田んぼにトシヤク(稲)が立ち並ぶ頃、村は秋祭りです。祭りといっても寒村のこと、近在の子やその孫たち親類(懇)一同が集ってのささやかな酒宴。農事に追われた一年の収穫を祝い、新米で箱(神し)寿司をつくり、獲れたての作物や山の幸で田舎料理が振る舞われる。雪に閉ざされる寂しい冬の一瞬の賑わいです。

私が小学生の頃、母の在所(山口県むつみ村)へはバスから降りて約半里強(3.3)の草深い山越え道を歩かないと行けませんでした。中間にタオ(谷)があつてそこを越えると数戸の集落が見えます。峠には数本の高い木が立ち、周りはススキに埋まっています。もうすぐだからと腹に励まされ、ひと休みしてからくだります。祭りの帰りにバスに乗り遅れ、てこぼこで曲がりくねった道路(当時)は地蔵を4〜5時間かけて歩き、夜中になつたこともありませう。50年もの昔のことです。

私が山歩きを好む原由が、何度も通つたその小さな峠道にあるように思われるのです。秋祭りの頃、峠を越えて見た母の村はとてきれいな紅葉に包まれていました。

新ハイキング関西(代巻) 村田 智俊



### 源流、山村痕跡を探る

長宗 清司

琵琶湖は、湖南・比叡・比良・湖西・湖北、そして鈴鹿の山並に囲まれている。琵琶湖に注ぐ川はこうした山々を水源としている。雨や雪解けで生まれた水はまず落ち葉にしみこみ、シダやコケを伝って一滴一滴の小さなせせらぎとなり、やがて小さな食む小川に成長する。山の深さ落差によって小滝となり落下する。川幅が広くなると中洲が生まれ深淵には水が渦巻くふと姿が消えたかと思うと、伏流して人家の脇に湧き出たりもする。

川を上流に向かうと、谷間には古い歴史をもつ山村の痕跡が数多く残っている。車のない時

代は、いくつもの峠を歩いて越えなければこれらの村へはたどり着けなかった。いまは、林道やトンネルで容易に訪れることができるようになった反面、住民の移動で過疎や廃村となった。昔、そこには山に生きる人々の姿があり温もりがあっただろう。今はその面影はない。

「郷愁か……」。私は近頃山の風や空気を味わうだけでなく、峠一つ越えた過去の古い村の歴史やそこに至る道筋、小峠を探るのに明け暮れている。琵琶湖周辺の深い山々は、求める者を受け入れてくれるおらかさがある。

川をさっすかにさかのぼり、昔あった村を過ぎて山に入ると、奥山といわれる深い源流地帯になる。湖北・湖西の山は冬に雪が積もり、標高5000付近からはブナやミズナラの林となる。自然林の森は貴重な生物を育み、澄んだ水や空気をつくり、コケや

落ち葉の下や大木の根元にいっぱい水を溜めて、季節を問わず徐々に放出する。源流地帯のゆるやかな地形は生き物にとって理想的な環境である。

私がいま一番関心をもって居るのは、湖西・今津町の百瀬川上流地域から北のマキノ町「大谷山」に至る山域である。百瀬川上流(川原谷)には数え切れないほどの堰堤とダムが地図に記されている。スキー場でおなじみの箱館山の北面にある人造湖「処女湖」と平地の北の台地(スキの植林帯)が、実は、河川争奪による侵食によって出来た台地であること。そして、その北の深い谷を流れる百瀬川の上流部が「昔は、石田川の源流だった」ことを、二十余年前に発行された「地図の風景」という本で知った。

福井県との国境を分水界に、現在は百瀬川の源流として「神奈川」が流れている。このあた



### 随想

(山の)

り、争奪前はまだ平坦谷が残存していて、明治時代まで水田があったという。すぐ上流のスモモノキのある場所には集落も存在していたらしいし、マキノ町村西にある「大蔵神社」の奥の院「金峯神社」までが「宮の谷」の尾根にあったという。標高5000付近あたりより下流は、日本海側斜面の栗嶺谷によって川幅が短縮され、水量と運搬力が激減した。その結果、「萱谷」あたりが押し出す砂礫を下流へ運び切れなくなると、先の台地付近に湖沼をつくった(だとすれば、カキツバタで有名な「平池」はこの名残かと大胆に推測してみたくなる)。

あふれた水は低い鞍部を越えて、この川筋の直下までのびてきている百瀬川の源流に落ち込み、河川争奪を完了した。その後、百瀬川が比高5000の間に滝や旱瀬を生み、下流に向かって岩を刻み始め、現在の平

地部まで徐々に刻まれていった。こうして流れ着いた大量の砂礫が山麓扇状地を一層大型につくりかえ、日本最高ともいわれる百瀬川下流の「天井川」が出現した。

今年、京都の山仲間と百瀬川上流を探索した。川沿いを歩ける境界まで行き、左の尾根にかすかにある獣道を追って深い登り、家族旅行村「ピラデスト今津」のオートキャンプ場にたどり着いた。ここは「近江坂」の途中にある台地。今は酒波林道が整備されているが、昔の尾根道は一部残っている。車道が最後、酒波谷に下る「アービンカーブ」のあたりで、山道が山麓の「酒波寺」へと続いている。

百瀬川の左岸、町域の尾根上に笹ヶ峰があり、ここをさらに北に入ると右の尾根「田原城跡」から合流する地点の「花地」に着く。この山域は「大谷山」から南にのびた山並の「原山」で

ある。

昔このあたりは人が行き交った峠道で、山麓の「森西」「辻」「石庭」あたりから入会山(炭焼き、薪を取る共同管理の山)の原山へ出入りした。その関係で、百瀬川源流(今の神奈川)あたりまで人が出入りした名残が、古文書などの文献に地名や遺跡として記されている。ジャキメキ・面影馬場・イモジヤグニ・足跡馬の滝といった奇妙な地名が残っている。

いっころまで人が住んでいたのか、これからの調査で明らかにしたい。そしてできれば先に紹介した「ピラデスト今津」と「大谷山」へのルートの設定を試みたいと思っている。



### 山の数を数える

生駒 登峰

次々と山に登る。いつの間にか百を超え千を越す。何も数を数えて登っているわけではない。ただ自分の登りたい山、登ったことのない未知の山に引かれて登っているだけである。しかし登った山の数は確実に増えている。

山の数え方もいろいろで、標高500m以上の山だけを数えるとか、近くに連なる山は数えないとか、人それぞれである。私は三角点さえあれば標高に関係なく、また三角点が無くても地形図に山名が記載されていれば記録に留めている。

同じ山に何百回、何千回と登る記録もあるが、私にはなじめない山登りである。私も同じ山に登らないわけで

はないが、初めての山とは感動が全く違う。私は絶えず新しい感動を求めて未知の山を目指している。

百名山ばかりである。日本百名山・近畿百名山・関西百名山などなど、区切りのよい数に魅せられた百名山ブームで、特に中高年の登山者にはこれらの完全登が生き甲斐にもなり、全国を駆け回ることになる。

何も良い山が百とか二百とかの区切りのよい数であるわけではないのだが、人々は百とか千とかの区切りのよい数に引かれる。

日本百名山の著者深田久弥氏も述べているように、百に限定するには無理があり、苦勞したとある。ならば自分が名山と思う山を全て記載したらどうなるか。それでは日本128名山とかになって、全く迫力に欠けるだろう。結果は人々の興味を引かず、今ほどの賑わいにはなら

なかっただろう。

ちなみに、国土地理院が発表した日本の山岳標高一覧には、1003山が記載されている。また私が目標としている1等三角点は972点である。山に限らず区切りのよい数は人を魅了する力がある。百人力とか千人力、百人に一人などと言われる。

本来物の数を限定するには無理があるが、ひとたび百とか二百とかの良い数が示されると、人々はこの数に魅せられて、競って数に挑戦し、登山に専念するのだろう。

このことは、人々の生き方にも活力を与え、登山の広がりにも大変寄与することとなり、また旅行社も賑わうことになる。「後いくつで百名山完登だ」と励んでいる人達は生き生きとしていて、その人の人生にも大いに貢献していることになる。もっとも励み過ぎて、百名山



### 随想

(山のエッセイ)

を完登してから、山への興味が薄れた岳友もいる。

私も数に関係なく山に登ってはいるが、百名山など数を限って発表される山々は、つい数を数えてしまう。

著名な学者で、登山家でもある京都出身の今西錦司博士は、生涯に1552山を登られた。登りたい山を登られた結果であるが、大変な数である。その内容も日本全国にわたり、有名な山々はほとんど含まれ、標高も大体400m以上になっている。山の数などは後からついてくる結果であるが、それにしても大変な数である。私もそれにあやからうと頑張っているが、まだ博士の登られた山は1000山にも達していない。

数を数えながら山に登るなどということとは、本来の目的から外れたことと言わざるを得ないが、やはり数は気になる。金剛山や愛宕山などでは、考えられ

ない登頂の数字が示されていない。

日本百名山を初め、北海道百名山・東北百名山と、各地方や各県ごとにも百名山がつくられ、百名山ばかり。さらに「百名山・三百名山・五百峰」と、雑誌社がおおって名山がつくられている。「私は千三つ屋です」と笑っているが、国土地理院選定の1003山登頂に全国を駆け回っている岳友が何人もいる。

日本百名山を完登するには、百万円を超す費用が必要になるが、それも人生の生き甲斐になるならば、結構なことである。皆さん、今後ともせっせと数を数えながら山に登りましょう。

(今西錦司博士著書)

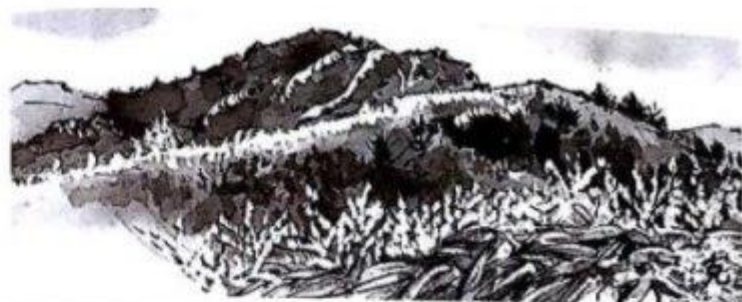
### 京都三山の歴史

綱本 逸雄

五山送り火などで知られる京都三山は、いうまでもなく北山・東山・西山のことを指す。三山が文献に登場するのは当然ながら平安遷都以後であり、当時から渡邊があり拡大されてきた。

「北山」は文献では「類聚国史」天長五年(828)八月二十四日条に「天夏地夏有り、丁丑(二十四)北山神を禱る」が早い例だろう。淳和天皇が除災のため勅使を派遣している。北山神というのは数地神社(北区衣笠)で、俗称「わら天神」。元は金閣寺の北にあったという。

また、「日本紀略」天徳四年(960)九月九日条に「権僧正観空(寛空)、供養北山蓮台寺(上古蓮台寺)と云、帝王編年記」寛仁元年(1017)五



随想 (山の)

東山ノ辺」などとあるように、華頂山・円山・栗田山・鳥辺山などの一帯は古くから都下の地とされた。また清水寺、祇園感神院(現八坂神社)をはじめ社寺も多く建立された。

世阿弥の謡曲『西行権』に「さてわれ春になり候へば、こゝかしこの花を見通り候、きのふは東山地主(神社)の桜を一件見たり候」と清水寺あたりは「花の名所」でもあった。

中世は『京葉集』(横山三)に「文明十五年(1483)六月二十七日准三宮大相公初めて東山の新府に移る。天子勅名を降して東山殿と為す」とあり、室町中期八代将軍足利義政が東山の山荘(観園寺)に移り、能楽、花、連歌などの芸術が開花し東山時代といわれた。

東山三十六峰を世に知らせたのは江戸後期の儒学者 頼山陽である。

西山は京都盆地の西に連なる

野社北ニ有リ、鹿苑寺(金園寺)ノ辺スヘテ北山ト云」と記し、『山州名勝志』は、この周辺を「洛陽の戎安の方なりといえども古より北山と称す」といっている。すなわち、古代から近世までは北山といえは衣笠から船岡山周辺の洛外の北西域を指した。

明治期でも、吉田東伍著『大日本地名辞書』が、「北山 衣笠村大字北山は南北に別れ、北を大北山と為す。凡北に愛宕郡岩倉村大宮村置峰村にも北山の名あれどその顯著なるはここなり。金園在るを以て殊に世に聞ゆ」としている。

北山が丹波山地一帯を指すようになるのはそれ以降で、今西錦司氏による近代登山の普及に起因している。『近畿の山と谷』(住友山岳会、一九三三)に「京都の入達が普通北山と称するの、市に近い北部の山々、たとへば大原、鞍馬、貴船、高

山の総称。古くは衣笠山・御室付近の山を指して西山と呼んだ。「西山なる御寺造りはてうつろはせ給はん程の御いそぎを」(源氏物語)「若菜」は「一条兼良の注釈書『花鳥余情』で「西山ナル御寺トハ仁和寺ヲイフ也」とある。「西山の奥なる所に行きたる」(更級日記)や、「なほしばし身をさりなんと思ひたちて、にし山に、れいのものする寺あり」(精神物語)とみえる。『日本紀略』『仁和寺堂院記』でも「仁和四年(888)八月一七日、西山御願寺(仁和寺)の金堂を供養し、又同寺で先帝の周忌御齋得会を行う」と載る。

また、西方浄土の信仰から都の西方の山は浄土の世界としてみられ、『続日本後記』承和七年(840)五月十三日条に淳和天皇の「御骨砕粉、奉し敬大原野西山山上」とみえる。この山は小塩山山頂の殿場だと

月十二日条に、三茎天皇を「藤船岡西辺、奉埋骨於北山小寺中」などとも見える。小寺は不詳だが、三茎天皇北山陵は北区衣笠にある。

上品蓮台寺がある船岡山西麓辺りから紙屋川にかけて蓮台野という。

散文では『源氏物語』に「北山になむ、ながしの寺といふ所に、かしこき行人(行者)待る(若菜)」とある。注釈書『河海抄』以来、鞍馬寺が定説だったが、北区大北山付近の地域などをいう説もある。『平家物語』に「大宮をのほりに、北山の辺雲林院へぞおほしける」(巻二、小教訓)とある。雲林院は船岡山東麓に町名として残る。衣笠山の山麓には西園寺公経が山荘を営み、足利義満がこれを受け継ぎ北山殿(のち鹿苑寺)を造り北山文化を築いた。

近世では『山城名勝志』は「北山 今大北山小北山二村平

尾あたりを意味してあるようであるが、三高、京大派の山岳人では、その範囲が著しく拡大されて、近江、丹波から若狭域にまで及んでゐる。むしろ丹波高原と題したほうが適切」と述べている。

東山は今日、京都市の鴨川以東の比叡山から福寿山までの山地の総称とする。古くは山麓の鴨東地域もそう呼ばれた。

文獻では前撰漢詩集「文華秀麗集」(818)に嵯峨天皇の漢詩「和光法師遊東山之作」が早い例だろう。清少納言「枕草子」(三巻本)二五三段で「月有明の、東の山ぎははほそく出づるほど、いとあはれなり」とある。

『日本後記』弘仁二年(811)五月二十三日条に「坂上田村麻呂・栗田別業に觀る」、『日本紀略』康保二年(965)四月二十七日条に「今夕、藤故右大臣(藤原賴忠)於南白川

される。鎌倉初期の史論書『愚管抄』(五)に「西山吉峰の往生院にて最後十全成就して決定往生したりと世に云ふありしが」とか、『華頂要略』に「入道道覚親王、承久三年(一二二二)七月大乱後龍居西山善峯寺」などとある。

また、前述した『西行権』に「けふはまた西山西行の庵室の花さかりなるよし承り!花見の入ひとを伴ひ」と花の名所だった。庵室は西行行旅のある勝持寺だが(小倉山説もある)、『太平記』巻三十九でも佐々木道誓が「京中ノ道々ノ物ノ上手共、独そ不我皆引員シテ、大原野ノ花ノ下ニ宴ヲ設ケ」と、同寺で盛大に開いている。細川幽斎(藤孝)の「大原野千句連歌」(巻五)で、同寺の花を賞し、いつしか「花の寺」と称はれるようになった。

## 新ハイ例会・南アルプスボレボレ縦走

# 荒川三山と赤石岳

鷺見守康

南アルプス

2001年の夏から、荒川三山と赤石岳は南アルプスの「はるかなる山岳」であった。台風による道路通行止めのため2年連続して山行中止に追い込まれており、K・Mさんなどは「呪われてるんじゃない？」と軽口をたたいたものだった。今夏も同じような結果になれば、私の気力はすっかり萎えてしまい、例会山行として目のみすることはなかったかもしれない。

朝5時前に畑薙ロッジに着き、朝食をとって6時に再出発。6時10分には東海フォレストの送迎バスのりばに到着した。始発時間は8時10分だが、東海フォレスト



大聖平から望む荒川中岳

ト係員に「新ハイキング関西」と申し出ると、早く並んでほしい、と言う。バスを動かすようだ。運がいい。2時間も早くなった。送迎バスは第一ダムを渡り、沼平のゲートからグーットの道を1時間はど走って私たちを千枚岳登山口に運んでくれた。

7時20分、滝見橋の手前を左手に入り、千枚小屋に向けて出発する。青空が広がり、道はゆるやかな登りである。時間にはかなりゆとりがあるので、気分も楽だ。

林内にホンシヤクナゲが現れ、林床にはヤマイワカガミの群落が出現した。かなりの規模の群落だ。花色は白色で葉は

清水平を出発してからも、ずっと私たちのすぐ前を歩いている男性3人のパーティがいた。大変ゆったりとしたペースである。先頭をダブルストックで歩く男性がかなり遅いのだ。だから、うっかりすると、このパーティの末尾に追いついて、何だか後から追い立てるような形になってしまふ。いっそのこと追い抜こうかとも考えたが、21人の長さではちょっとやりにくいし、そもそもそんなに急ぐ

わけでもない。そんなこんなで、ずっと相手のペースに合わせて歩いてきた。自分自身のペースをはずして取返してゆっく歩くとするのは、それは一つの技術であると言った人がいるが、最初はやはり苦痛だった。しかし、やがて「慣れ」というのか、少しずつペースがつかめてきたのだ。そして、このペースはわがパーティのメンバーに好評を博し、ついにこの山行中の一貫したペースとなったのだ。



荒川三山・赤石岳付近地図

私にとって大きな収穫であった。林床にシダ類が繁茂して一種独特な景観を見せる「わらびの段」を通り、「駒馬池」を右手に見て、やがて高茎草原のお花畑が現れると、きよ

うの目的地の千枚小屋に到着した。14時20分、小屋のテラスに上がり、振り返ると富士山が目に見え込んできた。頂上には雲に隠れているものの、優美な裾野をのびた姿が大きい。ここは南アルプス南部なのだ、と改めて感じ入る。

千枚小屋は大盛況で宿泊客が多く、私たちは別棟に入った。この山行中に宿泊した千枚小屋・荒川小屋・赤石小屋はいずれも東海フォレストの経営で、小屋の設備・規模・外観もよく似ている。比較的新しい建物ということもあり、清潔感がある。難点といえばトイレだろうか。赤石小屋以外は簡易水洗だが、宿泊棟から離れている。

食事もいい。かつて、南アの山小屋、とりわけ南部は食事が粗末だといわれたが、北アルプスの山小屋に比べても遜色ない。料金も考慮に入れば、むしろ上回っているかもしれない。そして、従業員への対応もいい。特に赤石小屋は光っていた。

翌朝は雨。未明から出発するとなれば気が重い。私たちの出発は7時であった。大多数の登山者がいなくなった山小



屋の空気はゆったりとしており、トイレ・洗面所も空いている。身仕度の時間も十分あり、ゆっくりできた。

千枚岳へは小屋から20分。千枚岳からいよいよ荒川三山の縦走に入った。残念ながら雨は止まず風も強くなった。濃厚なガスが全てを包み、期待の山岳展望は皆無。けれど、風雨のなかでもパーティィの空気は明るく、かつ快活だった。理由ははっきりしている。斜面の高き草原や稜線の風衝草原のすばらしさだ。南アルプス固有種のシロバナタカネヒランジとの出会いや、南アルプス麓一といわれる荒川中岳東斜面のお花畑に遭遇するや、パーティィからは何回も歓声が上がった。

11時20分、中岳避難小屋に到着。強風のため小屋で昼食休憩をとる。30分後、再出発。強風はいっこうに収まらず、女性陣の中には風にあおられて転倒し、腕を痛めたメンバーもあった。そんな私たちを励ましたのは、やはり高山の花だ。湿性の北アルプスのお花畑を見慣れた眼には、乾性のお花畑は風雨のなかでもどこか明るい雰囲気だ。強風に追い立てられるように、13時過ぎ、荒川小屋に到着した。

翌日、風はまだ残っていた。けれど、8時頃には風も静まり、山のガスも消えていった。大聖寺平から登り始めると、風が頬にさわやかで、次第に山岳展望が広がってきた。悪沢岳がひとまわ高く、背後に塩見岳・間ノ岳・仙丈ヶ岳など、南アルプスの山並を見通す。昨日は華麗な高山植物を愛で、きょうは壮大な山岳景観を堪能する。これこそ、南アルプス縦走の醍醐味だ。

10時30分、赤石岳山頂に立つ。すぐ南にどっしりとした風格の聖岳。西へは、荒川・大沢岳・中盛丸山、そして百間平を望んだ。昼食中にガスが湧いて山岳景観も消えてしまったが、未練を残すことなく下山を開始する。赤石カールのお花畑を鑑賞し、14時30分には赤石小屋に着いた。

赤石小屋の広場で、打ち上げのような酒宴を催した。ワイワイガヤガヤと山の話が弾むなか、S・Kさんのキリマンジャロの山旅の話が俄然人気を博した。特に、現地ポーターとの交流の際、ポーターが「ボレ、ボレ」と励ましてくれたといういきさつには、お色気話へとまぜっ返す人もあり、場は大いに盛り上がった。



小赤石岳と赤石岳(後方)

「ボレ、ボレ」とはスワヒリ語で「ゆっくり、ゆっくり」という意味なのだそう。私はその言葉がなぜか今回は印象的だった。

今回の山行は、千枚小屋・荒川小屋・赤石小屋にすべて宿泊という、3泊4日の余裕をもった日程だったが、前年と前々年の計画は、実は2泊3日の日程だった。サラリーマンならたいていの人がそうだった。

と思うのだが、私の場合も長年、切り詰めた日程で山を歩いてきた。特に、単独で山小屋泊まりの旅となれば、1日10時間ほど歩かなければもったいなくならなかった。だから、今回の3泊4日の計画を発表した後も、気持ちほなほな落ち着かなかった。けれど、いろいろな意味で、この日程が今回の山行を成功に導いたのは間違いないのだ。まさに「ボレボレ縦走万歳！」である。

夕食も終わり、日没までのひととき、赤石岳は、稀に見る壮麗なドラマを演じてくれた。沈みゆく太陽と赤石岳上空の雲と空、そして赤石岳の山肌の色彩が変幻自在に移り変わる。その有様は鬼気せまるような杜絶さで、この世のものとは思えなかった。あまりの美しさに登山者は悲鳴にも似た歓声をあげ、山小屋の従業員はカメラを手に外へ飛び出してきたのだ。

(平成15年7月16日〜20日歩く)

▲参考タイム▼  
(16日 晴れ) JR岐阜駅23・00(貸切バス)

◆ウォーキング W◆  
2気室切替式超軽量モデル

**神戸ザック**  
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

オリジナルザック & 登山用品専門店

イモック山道行くらぶ  
○11月21日 大嶽山系 青野ヶ峯〜白岩岳  
○12月19日 志保山系 六甲山系  
詳細はお問い合わせください。

★32ℓ★  
\*カラー ミントグリーン×モノクロ  
マゼンタ×モノクロ  
\*重 量 1560g  
\*素 材 高密度ナイロン  
\*価 格 ¥15,000

★28ℓ★  
\*カラー マゼンタ×モノクロ  
ネイビー×モノクロ  
レッド×モノクロ  
\*重 量 1400g  
\*素 材 高密度ナイロン  
\*価 格 ¥12,000

・両肩内ジッパー付き小ポケット  
・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を  
変えることが出来、ザックの歪みづれを防ぎます。  
・左右サイドファスナー付片側は  
内ポケット、もう一方は内側への  
アクセス用。  
・フロントポケットはメッシュと  
ゴムコード付  
・内部の仕切りフラップの縫製に  
より1〜2気室に切り替えて  
使い分けが可能です。  
・立体裁断により体にフィットし  
疲労感を軽減します。

TEL (078) 621-5851  
FAX (078) 821-3528

(17日 晴れのちくもり) (バス) 畑畑  
ロッジ4・50(朝食休憩) 6・00(バス)  
東海フォレスト送迎バスのりば6・10  
20(送迎バス) 千枚岳林道登山口?・15  
20〜清水平10・30〜45〜わらびの段手  
前11・10(昼食) 11・35〜わらびの段12・  
00〜見晴台12・10〜駒島の池13・30〜千  
枚小屋14・20(泊)

(18日 雨時々くもり) 千枚小屋?・50  
千枚岳8・20〜35〜丸山10・00〜悪沢  
岳10・45〜11・00〜中岳避難小屋11・20  
(昼食) 11・50〜荒川中岳12・00〜荒川  
小屋13・15(泊)

(19日 晴れ時々くもり) 荒川小屋6・  
30〜大聖寺平?・35〜50〜小赤石岳9・  
20〜55〜赤石小屋分岐10・10〜赤石岳10・  
30(昼食) 11・35〜分岐11・50〜富士見  
平13・50〜14・00〜赤石小屋14・30(泊)  
(20日 晴れ時々くもり) 赤石小屋5・  
30〜カンパの段6・50〜7・05〜槇島ロッ  
ジ8・55〜9・40(送迎バス) 東海フォ  
レスト送迎バスのりば10・40(貸切バス)  
口坂本温泉12・30(浴食) 13・20(バス)  
静岡インター付近レストラン14・30(昼  
食) 15・25(バス) 岐阜駅18・30(解散)  
△地図▽昭文社『塩見・赤石・聖』

# 比良岳西方ピーク登高

比良

## 小山誠次

写真1は蓬萊山から武奈ヶ岳方面を眺望したワン・ショットである。武奈ヶ岳・コヤマノ岳・シヤクシコバの頭より近く、檜鉢山よりさらに近く、写真の中央部分では、比良岳と同西方ピークとが鞍橋を形成し、連山となっている。さらに手前はまた別の小さなピークがある。最も手前の山は、汁谷より南側に位置する。

今回は坊村から白滝谷道を通って夫婦滝に到り、さらに南行して左手（東方）の比良岳西方ピークに取り付くことにした。

11月1日、本日は降水確率を全く気にしなくてもいい。出町柳駅発朽木行き京都バスは、定刻の7時45分を3分遅れ

で発車した。最後の空席に坐れたのは幸いであった。

例によって坊村では残り客が数人になるほど降車したが、そのうちの大部分の人は、紅葉彩る秋の御殿山コースに足を向けたようである。

明王谷を歩くのは、今年5月24日の檜鉢山北東尾根登高（本誌72号）以来であるが、なんとアスファルト舗装が8月15日～11月5日までの工事予定で実施されている。ジャリ道になって10分ほどして伊藤新道に出会った。

牛コバ到着後、身仕度を整えて白滝谷道に入った。周囲は黄葉・紅葉の最盛期の木々もあるが、すでに落葉して樹幹だ



さて、白滝谷を左岸に渡り、10分後再び右岸に渡って気持ちのいい道が続く。このコースは夫婦滝・白滝測・スベリ石など名所が多いが、スベリ石に到着するまでの、写真2・写真3も無名だが、



(写真2) ミニ夫婦滝



(写真3) 白い鏡面を滑落する滝

名所に加えてもいいのではなからうか。写真2は白滝谷本流にあり、ミニ夫婦滝ともいうべきであろう。進む水沫に、「瀬を卓みな台にせかる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ」という和歌が脳裏を過った。

また、写真3は本流治いを少し離れ、支谷の一つが本流に流れ込む直前の、白い鏡面のような岩上を滑落する滝で、もっと近づきたかったが、つるつるした岩から滑り、水に濡れそうになったので踏み止まった。

そうこうするうちに、本流を離れて山道を登って行き、途中シヤクナゲが一部群生している場所を通り過ぎた。時期によつては、鮮やかな濃いピンク色が目を爽ませてくれるだろう。が、最近、シヤクナゲと聞けば、踏み込んだら足を絡まれるという印象のほうが強く、なるべく避けて通りたい思いが支配的となっている。

さて、牛コバ出発の1時間半後に夫婦滝口に到着した。滝まで下りようと思っただら、一部道が崩壊していて途中で通行止めになっていた。ここからは伊藤新道からの道を合わせ、

(写真1) 蓬萊山から武奈ヶ岳を望む



けが来年に備えつつある木々のほうが多い。針葉樹はまだ色褪せていない緑色の葉が元氣そのものである。一方、地上近くではマムシグサの鮮やかな朱赤色の果実が目立っている。本によれば、この根茎（いも）をよく焼くか煮寄せば食用になるとあるが、筆者は山野草を口にすることが多いものの、未だ試食していない。ちよっと勇気が要りそうだ。

さらに上流を目指す、むしろゴンドラとリフトを利用して打見山山頂から汁谷をくだって来る人のほうが多く、犬連れの人も多くなってきた。どうも登山より下山のほうが主目的になっていよう。筆者は夫婦滝口から歩いて14分後、左手の山から小さな支谷が流れ込む地点で、いよいよ日本本流の比良岳西方ピーク登高にとりかかった。現在の高度は880mを指している、これから標高差140mほどの道無き登高である。

斜面そのものは木々の密生度も傾合で、ジグザグに進むだけの余裕もあつたが、なにも今の時期は落ち葉が堆積し、滑って足場の確保に少し難渋した。ピークの五合目、八合目位はコアジサイをよく見かけた。黄色くなつた葉が今にも落ちそうである。また、八合目より上部は背の低いクマザサが生い茂っている。全般に、落葉樹のなかに針葉樹の点在する疎林帯で、大木もなく、またシャクナゲのように足に絡む木もなかつた。

30分後、比良岳西方ピーク山頂に到着した。12時05分である。山頂は必ずしも見通しはよくないが、木々の合間より近隣の山々が見渡せる。しかし、葉が生い地を當時確認できるのも幸いであつた。比良岳山頂を出発して25分後、もう一つの小さいピークに達した。ピークの確認は、周囲を見廻しても近くに高い山が無いことによる。

地図上では、このまままっすぐ進めば汁谷に抜けられるはずなので、打見山の方向を確認しながら、下山にとりかかった。といっても、比良岳からのやや広い尾根筋をそのまま進むだけである。しばらく行くと、水音が微かに聞こえてきた。いずれかの支谷に出合うものと思つて、水音の方向に足を向けてさらに下山して行くと、汁谷沿いの湿原を前方遠くに認めた。その後、二筋の小さな流れを越えてようやく湿原にたどり着いた。やれやれ、やっと目的を果たしたという思いでいっぱいだった。

湿原は時期を過ぎたオクカラコウが咲いているだけで、湿原そのものは水が溜っていたので残念だった。汁谷を南行すると、途中で長池への案内標識が右手に見えてきた。ここからは本誌72号の山行計画で、筆者も参加した秦康夫氏リーダーの「比良を歩く25 葛川中村から蓮葉山」でのコースと同様、

茂っていれば、これも困難かもしれない。本日はここでいつもより少し早い時間帯の昼食タイムとなった。

食事中におもしろいことを発見した。太陽は正午過ぎなので真南近くの位置にあるはずなのに、磁石はなんと東を指している！ 南方の打見山や蓮葉山は山上の人工構造物のため、遠方からでも容易に同定できるが、これらの方向も磁石はやはり東を指している。当初、磁石を見て北に位置していた山は、いったい何という山かと考えた疑問もいっぺんに解決した。その山こそ磁石を90度補正すれば、比良岳なのである。これから目指す山を危うく間違ふところであつた。90度の補正は到底偏差ではない。山上で磁石が狂うことは以前に本で読んだことはあつたが、実際に体験したのは初めてである。

恐らく比良岳西方ピークの地下近所に磁鉄鉱の岩盤でもあるのかもしれない。さて、昼食後は比良岳を目指してくだり、写真1のように、なだらかな鞍橋を東に進んだ。磁石を見たらおかしくなるので、目の前の山だけを肉眼に据えていた。鞍橋にくだと木々が疎らになるとともに、背の低いクマザサが多くなる。また、

所どころではあるが、踏み跡が明瞭かと思えばまた不明瞭となつたり、複数の踏み跡が一部平行していたりして、人跡は十分に認められる。

ところが、比良岳に近づくとつれてクマザサの背が高くなり、やぶ漕ぎを意識せざるをえなくなつた。そして、西方ピークから20分して比良岳山頂に達した。縦走路はここからさらに東方向を走行しているはずだが、本日は比良岳山頂から、最初に写真1の解説で述べた「さらに」に手前はまた別の小さいピーク」を目標し、尾根筋をたどることとした。

クマザサの密度の薄い場所を選びながらのジグザグ歩行で、幸いにもクマザサが目線より低いので、周囲を見渡すことができた。もし、クマザサが筆者の身長より高かつたら、磁石を信頼していいのかという判断にも困るところであつた。また実際に何回か迷つたりもしたので、いっそう難儀したことであろう。

クマザサのやぶ漕ぎを繰り返して、漕ぎやすいやぶの方向とそうでない方向とが少し判読できたように思えた。また、打見山山頂からのスキーゲレンデが左手斜め上方に見えるのを目印として、現在ト道で足を痛めないように注意しながら、17時ちょうどにJR蓮葉駅に無事到着した。そして、17時02分発の普通電車で京都に戻つた。

ところで、薬師滝手前で筆者の前方50m位の距離において、女性の下山者に気がついたのである。薬師滝の広場で、ほんの10秒間寄り道をした後、再び下山を急いだ。それっきりアスファルト道に到着してもその女性の姿は見かけなかつた。

筆者は、小女郎が今でも里に残した愛児に会うため、時々下山して来ると思いたい。(平成15年11月1日歩く)

汁谷キャンプ場から雷草を経て、標高差220m程をえちらおちらと蓮葉山山頂までたどつた。やはり、先が見え過ぎていて、かつ単調な登高はいっそう疲れるようである。

写真1は、このとき蓮葉山の山頂から撮影したものである。今回の計画は、秦氏の山行に参加したときこの景観を眺望し、比良岳西方ピークに登高して比良岳までたどつたらおもしろいな、と考えたことを実行したものである。

約1ヶ月前の9月28日、写真1の手前の山々は一面に青々としたなかで、部分的にやや黒ずんで見えたが、本日は一面に黒ずんだなかに、黄褐色と赤色が点在し、遠く摺鉢山の杉の植林のみが青々としている。

14時58分、蓮葉山を後にして小女郎峠に向かった。小女郎峠からすぐの下山路は、昭文社の「比良山系」地図上では赤の点線になっていて、なるほどと頷けるぐらいの荒れ道であるが、整備され過ぎている道よりずっといい。

ここから1時間弱でアスファルト道に到つたが、それでもまだ標高460mもある。後はゆっくりと下りのアスファル

- A コースタイム V
- 坊村バス停(46分) 牛コバ(9分) 白滝谷左岸へ(10分) 右岸へ(16分) 写真2の滝(3分) 写真3の滝(8分) スベリ石(10分) 白壁淵(24分) 夫婦滝口(3分) 夫婦滝通行止地点(3分) 夫婦滝口(14分) 取付点(30分) 比良岳西方ピーク(20分) 比良岳(25分) もつ一つのピーク(13分) 汁谷の湿原(38分) 蓮葉山(16分) 小女郎峠(51分) 薬師滝(5分) アスファルト道出合(46分) JR蓮葉駅(八地図) 昭文社『比良山系』

白山の展望台を歩く

# 大長山と赤兎山

おね ちようざん あかうさぎ やま

木村太郎

加越国境

去年の秋に白山御前峰に登り、小原仕舞い前日の南竜山荘に泊まり、翌日別山を踏み、ブナの森であるチブリ尾根をくだった。まだ9月というのに白山御前峰では雪が舞い、南竜ヶ馬場の沢では薄氷が張っていた。

白山の春は遅く、白山の冬は早い。それゆえに登山適期が限られる。大阪からは前夜発でも日帰りは厳しい。白山は登る山というよりも、眺める山というイメージがある。同じ白山を眺めるにしても、白山山系の最前線からの眺めに勝るものはない。

卯の花腐しの季節に、晴れ間を選んで山友の信田さんと加越国境の大長山と赤

兎山へ行った。

吹田市を朝5時に出発し、北陸道の福井インターで降り、小原林道終点の登山口には9時前に到着。休日のせいか駐車場は三列に並んだ近郊の車でいっぱい、隣の草地に車を止めた。

実は赤兎山へは5年前の7月初旬、同じ小原峠からのコースで歩いている。その日はあいにくの曇り空で、楽しみにしていた白山は望めなかった。それでも赤兎山から赤池温泉にかけてのニッコウキスゲとササユリの群生をこころゆくまで堪能し、忘れられない山行きの思い出が残せた。

加越国境の稜線を形作っている山々は、

大長山のコバイケイソウ



取立山の5月のミスバシコウ、大長山の6月のコバイケイソウ、赤兎山の7月のニッコウキスゲと、順を追って高山の花が楽しめることも魅力になっている。今回は6月の山登りなので大長山をメインに、7月に例会を予定した赤兎山の下見を兼ねて歩こうというわけである。

登山口から沢沿いに道が付いている。沢地にはサンカヨウやエンレイソウが歡



小原峠

遊してくれていた。沢の流れに手を浸すと冷たく、雪解け水が混ざっているに違いない。水は滑溜で空は晴天、最高の登山日和である。写真好きの信田さんは、偏光レンズで覗いたような青空と、この日の群青色の天空を表現していた。

小原峠に登り着き、地蔵を安置した小祠のある場所までひと息入れる。白山神道の木標がある。峠は六省目の伏拝であり、越前馬場の平泉寺から白山へ歩かされてきた道を示している。白山開山の泰澄は越前大野から白山に入り、白山神道を

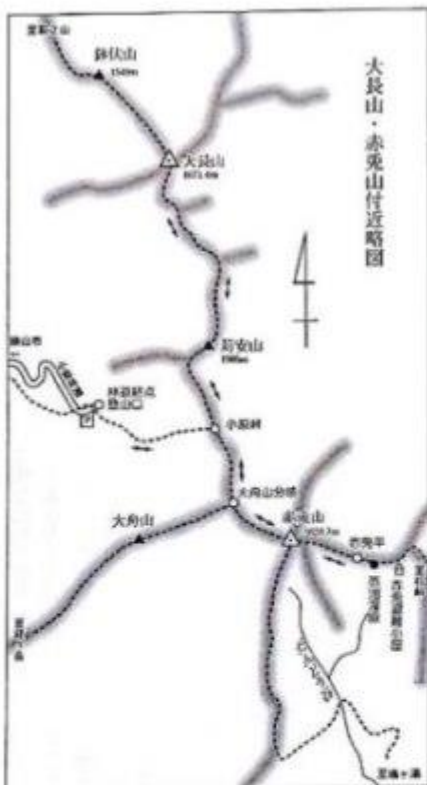
きわめた。白山登拝は越前からが最初である。

赤兎山への道に背を向け、峠から大長山への道に取りつく。登り始めてすぐの溝になった窪地に、大きめのザックが五つ六つ置かれていた。こんな所にザックをアオして登っているグループがいるのかと、解せない気持ちで歩いて行く。

しばらくして10数人の学生らしいグループとすれちがう。「学生さん？」最後尾の男性に聞くと、「関学です」と答えが返った。「この冬にニュースになった、あの関学のワンダーフォーゲルの人たちのの？」ともう一度尋ねてみると、「はい、きょうはその時の荷物を回収に来てるんです」と言った。

窪地に置かれていたザックは、彼等が引き上げてきた荷物の一部だったのだ。大長山への道は前に歩いた赤兎山への道とくらべて狭く、長雨の後でぬかるんで歩きにくかった。無雪期になり後始末に来て、この悪路を何度か往復した学生たちも楽ではなかっただろう。

道は悪くても、ブナを主体とした落葉樹林の道で気分は悪からうはずがない。小原峠から赤兎山への道で、美しいブナ



大長山・赤兎山付近略図

林を歩いた日のことを思い出させる景色。尾根道の途中に小池がいくつああって、木の柱葉にモリアオガエルがタマゴを生みつけていた光景。程からたどる赤兎山の道でも、記憶にある種せない自然にまた会えるだろう。

大長山への途中には、あざやかなヤマフツジが咲いている。信田さんはばくに「ムラサキヤシオかもしれない」と言う。関西の低山ではとくに終わったタムシバが、この季節でも白いきれいな花びらを見せている。秋に赤く色づく木の実と同じように、枝先に純白のかざりをつけたムシカリの花は、緑の林のなかでもすぐに見つけることができる。

夢中になって歩いていたら、いつの間にか赤安山のピークを乗り越えていたらしい。突如右手に白山連峰が顔を出した。5月に山行の下見の折、取立山から見た真っ白の白山はこの季節、歌舞伎の際取りにも似た残雪の濃淡をつけている。まるで立て役者のように凛々しい。

前方には大長山が、大長山の名とは思えない三角錐の引き締まった容姿を見せている。やせ尾根にまたがっている形の、大長山と尾根上から対面しているの

台地状ではなく鋭角の山に見えているのだ。大長山の山頂は、背インクを流したごとくに一点の雲もなく、ぼくたち道来の登山者を手招きしているようだ。

大長山に近づいてからの登りは、岩肌を露にした根尾根の急登になる。高木が無くなり、道端でイワカガミがやさしく揺れ、頑強れと声をかけてくれる。削ぎ落ちた東斜面に残雪が光っているが、白山の雪を鏡面で見ていると錯覚しそうになる。大長山頂下の根尾根は細く急傾斜で、豪雪にはばまれれば立ち往生しても当然のように思われる。

大長山（1671m）の頂上に立つ。眺めは全方位、ささざるものない極上の山岳景観が広がる。白山の展望台という評判にたがわない、白山から別山・三ノ峰等々のスカイラインが目まぶしい。

山頂部はコバイケイソウが群生し、庭園のようなたずまいである。ぼくが登頂記念に三角点に触っていると、信田さんは愛妻へ写メールを送るため、携帯でコバイケイソウを撮っていた。背景に白山連峰、巖ヶ岳や荒島岳、大日山や取立山など、コバイケイソウを写すためにカメラをどの方向に変えても、加越周辺の

名だたる山々が画面に入ってくる。

雪が無くなった大長山の山頂で、雪よりも白い花穂を驚かす美しいコバイケイソウを見たのは初めてだった。いつもぼくが見ているバイケイソウの花は、細い花穂で貧相なものばかり。京都神近郊の低山ばかり歩いていて、高山植物の花図鑑に載るようなコバイケイソウを見たことがなかったのである。

小原峠に戻った。窪地に置かれていた大きめのザック類は無くなっていった。その代わりに道標の立つ峠の片隅に小さめのザックが集められ、ロープで結ばれていた。たぶん大長山から回収されたザック類を駐車場へ運搬している最中なのだろう。

峠から赤兎山への懐かしい道をとる。記憶から欠落していた急登の試験を、身体を包み込んだブナの木々が癒してくれた。大舟山分岐を過ぎると視界が開け、気分も明るくなってくる。ゆるやかな道になって気持ちにゆとりができ、岩陰に白い小さな花を見つけた。ゴゼンタチバナの花だった。

白山最高峰御前峰のゴゼンを名に冠しているゴゼンタチバナ。赤兎山が白山に

連なる支峰だということを無言で教えてくれたのだ。歩いてきた左方を振り返ると、大長山が山容をワイドに広げ、名の通り、大きな長い姿を誇示しはじめている。右方には大舟山に連なる巖ヶ岳、さらには荒島岳が控え、前方には白山の雄姿があった。

名に高さ越の白山ゆきなれて  
伊吹の嶽をなにとこそ見ね



赤池深原より赤兎山

平安時代に地方官として赴任した父に付き従って、都から越前へ住いを移していた時代の紫式部の歌である。雪に装われた気高い越の白山を見なれてしまうと、伊吹山など他の山の雪など何ほどのものでもありません。因附のあった越前平野から見て紫式部が感動してやまなかった越の白山。その名高い白山を眺める最前線を進んでいるのだ。

丸みを帯びた山容、赤い地肌の出る雪形、赤兎山の山名の由来には諸説があるが、頂上に近づくとたたりから高懸情緒のただよう道になる。赤兎山（1629m）から赤兎野の方に目を向ける。5年前には、丘一面にニコワキスゲが群生していたっけ……赤い屋根の遊覧小屋を目標し、花たちが眠っている赤池深原の木道を渡りながら思い出していた。

春なれど白雲のみゆきいやつもり  
解くべきほどのいつときなきかな

（紫式部集一七八）

越前の紫式部のもとに、「春には水がとけるもの、閉ざしている心を私がうちとけさせてあげたい」と、都から手紙で言い寄ってきた男がいた。紫式部がその

返答に、「春になりましたが、こちらの白山の雪はいよいよ積もって、解けることはいつのことかしれませんよ」と返した歌である。

万年雪をいたかくような白く気高い白山も、花々のためにわずかの季節だけ素顔をさらす時がある。求愛してきた男に歌で拒絶した紫式部だったが、その男藤原宣孝と結ばれることになる。才女といわれる紫式部の、堅い心を打ち解けさせたのは、白山の雪が解け花の季節が来た時だったのだろうか。

ムラサキは夏になると白色の小さな花を開く。その名の紫式部も恋に落ちた。白山山系の花の季節は目の前に近づいている。（平成16年6月13日歩く）

#### Aコースタイム

小原林道終点駐車場（40分）小原峠（1時間30分）大長山（1時間10分）小原峠（40分）赤兎山（赤池深原周遊30分）赤兎山（30分）小原峠（30分）小原林道終点駐車場

△地形図▽  
2万5千1加賀市ノ瀬・願教寺山

新ハイ関西79号  
標高△△79mの山

南木曾岳	(1679m)	木曾
烏帽子山	(1879m)	吾妻連峰
千枚岳	(2879m)	南アルプス
高嶺	(2779m)	南アルプス

南木曾岳

南木曾岳は、御嶽・木曾駒ヶ岳と並んで木曾三岳の一つである。どう考えても他の二つの山に比べて格下と感じてしまおうけれど、信仰のうえではそのような表現にも首肯する歴史があったのだから。

山上一帯は複雑な地形をしている。ササ原が広がっていたり、古木の櫛が凄然と佇んでいたりと、大きな岩も散在している。標高の割には風格のある魅力的な山だ。またコウヤマキが群立していることでも有名で、かつての信仰の山の面影が残っている。二度登っているが、季節を

変えて再訪したい山だ。

なお、三角点は2ヶ所程低い地点に設置されている。(平成元年8月14日歩く)

Aコースタイム

關川の支流額付川沿いの林道終点(3時間) 南木曾岳(2時間) 林道終点  
△地形図V2万5千 南木曾岳・兀岳

烏帽子山

烏帽子山への西側からの登りは、吾妻連峰の山脈のなかでは異端的な印象だった。というのは、それまで湿原が次々と現れたり、深い樹林のなかを進むといった穏やかな景観が続いていたのに、突然、

千枚岳

高嶺

南アルプスの代表的な山を二つ挙げるとしたら、まず第一に北岳を推すことには誰も異論ないだろう。

そもそも一つ一つの山は赤石岳ではないだろう。南アルプスの山脈名が赤石山脈と呼ばれていることから察して、北岳を差し置いて名前を冠するに値する山なのだ。その貫禄ある風格は他の追随を許さない。名漢と謳われる赤石沢を擁する奥深い原生の樹林が大きな山体の大半を占めていることも、南アルプスらしきの代表格にふさわしい特質といえよう。

千枚岳から望む赤石岳。高嶺から眺める北岳。この二つの山岳展望は写真集でよく登場する南アルプスの代表的な構図だ。これら二山を美しく立派に望める二つの山の標高が、ちょうど1000m近いの山という偶然に気づいた時、南アルプスが大好きな私にとっては大発見をしたような喜びがあった。

どちらの山も何度か登っているが、千枚岳では初回から最高の赤石岳を眼にす

早朝の弥兵衛平湿原



烏帽子山の登りだけは累々と重なった大きな岩の間をぬって登る道だったからだ。

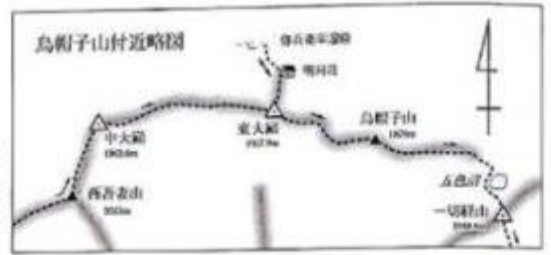
特に前日に泊まった明月荘(弥兵衛平小屋)は弥兵衛平湿原のすぐそばに建っている。夕方に早朝に1時間以上かけてゆっくりと湿原の日暮れと日の出前後の美しく、とても清々しい光景に浸れた。その反動としてより印象深くなったのかも知れない。

ることができた。千枚小屋に泊まり、夜明け前に千枚岳に登って、適用紙を広げて夜明けを待った。真夏なのに素手が凍えるように冷たくなった。沢の音、鳥のさえずりを聞きながら、闇に眠る赤石岳が、朝日に光り輝く赤石岳へと姿を刻々と変えていく時の、荘厳な宇宙に静た。

一方、高嶺は1979年・82年・92年と三度登ったが、霧または雨に遭い続けた。北岳の絵を描こうと目指しては画材道具のボックスに終始するばかりだった。が、ついに2002年、北岳の最も美しい姿を捉えることができた。

大神沢の雪渓全容がダイナミックに望め、パットレスを中心にして池山尾根と小太郎尾根が両翼を大きく広げた形でそびえ立つ北岳の姿は、躍動感に満ち溢れて、胸のすく大観だった。

(1回目)千枚岳・昭和53年7月31日歩く  
(4回目)高嶺・平成14年8月21日歩く  
Aコースタイム  
千枚小屋(40分) 千枚岳(4時間) 二軒小屋 草川小屋(3時間) 高嶺(4時間) 南御室小屋  
△地形図V昭文社「塩見・赤石」甲斐駒・北岳



頂きからはたどってきた西吾妻山・中大嶺・東大嶺、そして縦走路からはすれから大きい中吾妻山、眼下には割愛したことがとても惜しまれた谷地平原原などが、優しい表情を呈している大展望があった。

(平成14年8月7日歩く)  
Aコースタイム  
明月荘(3時間) 烏帽子山(4時間) 数ヶ所 平湿原小屋  
△地形図V昭文社「登峰・吾妻」

# 佐賀の名峰・天山

中島仁志

九州

私が関東から青春18きっぷを使い、夜行快速列車を駆使した西日本の山旅を始めたのは平成14年3月からである。山頂が県内にある山を二座以上訪れるという妙な目標を立て、時期を春期と初冬にしぼり、低コストでの山遊びを楽しみながら計画し、少しずつ実行に移している。当然ながら同行者など期待できない。九州の山旅の基本パターンは、翌日関西の山を歩いてから夜行快速列車に乗り継いで九州に行く。日帰り九州の山をそれぞれ二座ほど移り歩き、再度夜行快速列車で関西に出て、もう一座を楽しんでから関東に戻る。単独行だから、最寄り駅から登山口までは歩くかバス便で、

よほどのことがない限りタクシーは使わない。

平成15年末の九州の山旅に選んだのは、平尾台(福岡)・俣山(熊本)・天山(佐賀)であった。いずれも県内に山頂を持つ山一座ずつ。前座になる関西では数日前の積雪のため、無理をしないで安土城址等を散策してから、予定通り「ムーンライト九州」に乗る。

幸いに九州に入ってから好天続き。初日は日田彦山線の石原町駅から登山口の吹上峠まで歩き、平尾台のカルスト台地を楽しみながら最高峰の俣山(7122)に往復し、帰路も石原町駅まで歩く。2日目の俣山(10955)は南阿蘇鉄

広大な天山山頂



道の長陽駅が起点、山腹で分岐点を誤り思わぬ難路をたどって3時間以上の遅れで山頂に到達した。夜遅く佐賀のユースホステルに着き、九州最終日の天山に備えた。

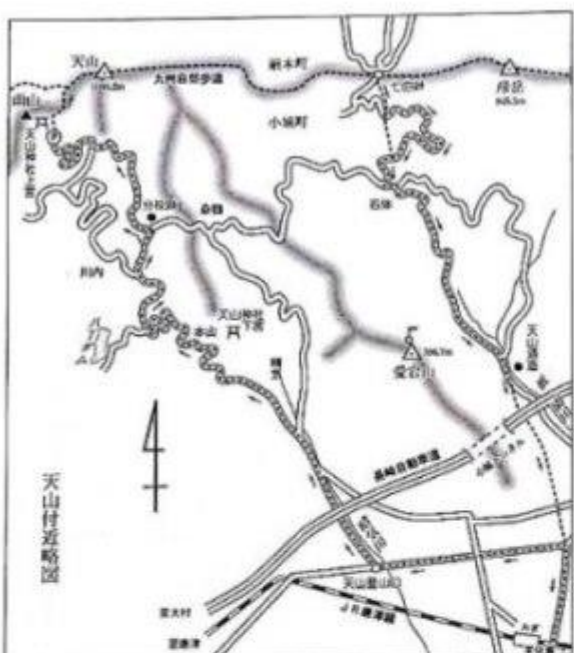
九州最後の日も、朝もやながら晴れ。食事を7時に用意していただけ、バスでJR佐賀駅に出て、予定の唐津線の列車である長い車道を歩いてたどることにした。佐賀駅からはバスと古い資料にあるが、その詳細な情報が得にくく、地図で見ると小坂駅からならその地点(天山登山口のバス停)まで4、5程度なので、所要時間を1時間増すことにした。羊羹の町小坂の名を知ったのは小学校時代で、当地出身の力士・小坂ノ花による。さらに天山も確か中学時代に力士名で知ったのが最初だった。

小坂の下町から国道を西に進み、晴気川の手前で「天山方面」の標識を見て、晴気川に沿う道に入る。前述のバス停地点である。前方には高速道路、その背後に前衛の小山がいくつか並んで、天山の主峰はその奥に隠れている。高速道の下をくぐり、その先で天山神社下宮のある集落を横目に左側の広い道を進む。前衛の山々が左右に広がり、車道もその中を縫いながら進むのだが、目指す天山はまだずっと遠くまで高い。国道の入口地点から天山神社上宮の駐車場まで12分、晴気集落からでも10分である。

少しずつ背後から闇に照らされるようになった。冬だからそれほどでもないが、

に間に合った。

天山は、佐賀を代表する名峰なのだが、全国レベルの名山にはリストアップされていない。同県境の香取山や多良岳と比較してもそれ以上の存在感はあるはずなのだが、いわゆる「日本百名山」から外れると、遠路から九州の名山ツアーに



天山付近略図

来てもこの山に寄る人は少ないようである。(へそ曲がりの私は、このような山が気になる。佐賀平野から広がる山の姿は顕著であるが、問題はアプローチで、山腹の集落をつなぐ車道がいくつか入り、山頂まで30分の所に車を置いて登れるのも、名山道家には気に入らないのだろうか。もっとも先述の両山も山頂近くまで車道がのび、名山亡者はけっこうツアーを組んで名山のつまみ食いをしていようなのだ。単独行・⑤、1日をゆっくり歩くことの好きな私は、アプローチ

# 近江湖西の山を歩く

草川啓三著 A5判並製 一九九五円  
 若狭へとつづくいくつもの峠道、杜撰な気分が歩ける高原状の山、巨木の残る山深い山、山スキーの出来る山腰など、関西の奥座敷的な山域を美しいカラー写真とエッセイで紹介する。

好評発売中

## 新刊

おれにんげんたち  
 アルス・ワザラーはどこに  
 岡本武司著 四六判上製 一八九〇円  
 黒澤 明も感動したウスキーのタイガに、探検家アルセニエフの足跡をたどり、先住民アルスとの友情、自然と人間の関わりを豊富な資料で探究する。

★表示の価格は5%税込です

ナカニシヤ出版

http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区一乗寺木ノ本町15

☎075-723-0111 〒606-8161

暇かい時期ならばこたえるだろう。ダムへの道、その先で川内集落への道をそれぞれに分けて少し行った所が川内分校跡、標高500mあたりだから、ほぼ中間地点である。ここで右に折れるのは築鶴からの道で、下宮様由ならばこの地点で合流する。

左へさらに車道を淡々と進み、川内經由の道と合流し、少し傾斜が増してしばらく行けば、天山登山口の駐車場手前にとどろき、入口の無人小屋の前に山平が二頭いて、駐車場で昼食をとっていたら寄ってきてパンをねだる。母子らしく、しつこいがおとなしいのが救いである。

ひと息つけて、九州自然歩道でもある登路を進む。すぐに天山神社上宮と池があり、それを過ぎるとゆるい階段状の道

一気にくだり、後半はわざわざ遠廻りの車道をたどった。集落手前で整備された下り道が合流した。石体は標高300m近く、家が南に向かってのどかに点在している。

ここから小城の上町までは地図で距離を確認して、小休止後出発した。舗装路のゆるい下りで速くなる足どりを脚を痛めぬように気をつけながら進み、1時間



祇園川を隔てて天山酒造（背後は彦岳）

がササのなかをいく。15分も進むと、初めて開通に天山主峰が明るいカヤに包まれた姿をゆっくりと現し、その大きさに思わず圧倒された。標高差は100m程度なのだが、山の広がりがカヤの明るさなど、ここまで苦労してきた甲斐があった。左に兩山への道を分け、少し風が出てきて寒さを感じながらジリジリと登り、天山(1046.2m)頂上に達した。

この地域の最高峰である山頂からの四方への広がりも見事だった。一等三角点・大きな石像・阿蘇氏の墓が、広い山頂に少しずつ離れて置かれている。西の兩山はすでに低く小さく、東には彦岳方面への稜線、北には富士町から古湯温泉方面への高瀬川のゆったりとした流れ。そして南はたどってきた道とその奥下に小城の

ほどで町はずれの平らな所に降り立った。振り返ると、兩山・天山・七曲峠までの稜線、彦岳がすっきりと並んでいる。

道すがらの酒屋で地酒「天山」を買おうと、川(祇園川)を隔てた造り酒屋がその天山酒造のこと。高速道をくぐる手前で横道に入って一気に下町に出れば、あとは今朝の道で小城まで一本道。列車の持ち合わせも10分程度とちやうどよく、列車からは天山から彦岳への稜線がシルエットとなりかけていた。

彦岳駅に戻り、夕食と買い物のおと、予定通り博多駅に出て、「ムーンライト九州」で関西に向かう。

翌日は関西の知人に狐色のカヤが見事な岩湖山を案内していただき、例によって大垣駅から「ムーンライトながら」で東京に戻った。

(平成15年12月20日夜〜25日朝歩く・天山は24日)

### ▲参考タイム(天山)▼

JR佐賀駅7・42(電車) 小城駅7・58  
 一園道を右折8・45 ダム分岐10・05  
 川内分校跡10・45 55 天山登山道駐車場11・55 12・10 天山12・40 13・00

町。数年前に三百名山として多良岳と彦岳を訪れたが、山としての風格・魅力はそれらをしのぐように感じる。地酒「天山」に少し酔い、広い山頂で周囲の眺めを楽しんだ。

下山路は東に九州自然歩道の稜線をとどめた。前半はササとカヤの明るいプロムナードで、振り返ると改めて天山の雄大さを実感する。前方に彦岳を見ながら少しずつ高度を下げ、樹林帯に入り、あとは淡々と進むのみ。階段状のやや急な下りが終わった所に車道が入っていて、そこが七曲峠だった。

稜線は縦走路としてさらに彦岳まで続くが、予定通りここから下山する。このあたりは団体の時の山岳コースで道標が急に増える。石体集落へは前半は山道を

一七曲峠14・10 20 石体14・50 15・00 天山酒造前16・05 10 小城駅16・45 55 (電車) 佐賀駅17・17 18・33 (電車) 鳥栖駅19・10 27 (電車) 博多駅20・18 53 (ムーンライト九州) 大坂駅6・25

△地形図▽2万5千 古湯・小城  
 △費用(東京起色)▼  
 青春18きっぷ(6日分) 13800円

(注:関西起点では5日分:15000円)  
 ムーンライトながら(往復) 10200円  
 ムーンライト九州(往復) 10200円  
 立野駅(南阿蘇鉄道・往復) 長陽駅 4600円

国立病院バス停(バス)佐賀駅 2000円  
 熊本水前寺YH(宿泊のみ) 29000円  
 YH佐賀県青年会館(一泊2食) 41000円

▽YHは会員料金、会員外は10000円増



ヤマコウバシ



## カイラス一周の山旅

内田 嘉弘

## チベット

長谷川伝次郎著『ヒマラヤの旅』(中央公論社 昭和七年発行)に載っているカイラスの写真を見つけた時、この世にこのような山があるなんて……と驚いた。その写真のカイラスは釣鐘状で山頂は雪を被り、中腹は雪を全く着けない岩壁になり、下部は岩と雪の横縞模様になっていた。これは全く人を寄せつけない山だ。カイラスはヒンドゥー教・仏教・ジャイナ教・ボン教の四宗教の世界軸になっている聖山である。

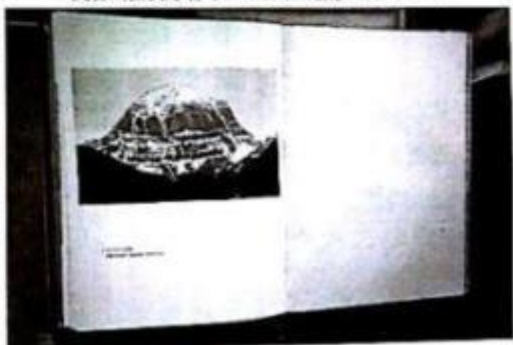
カイラスへ行くには、富士山とほぼ同じ高さのチベットのラサから高度4500m前後のチベット高原を西へ向かい、そしてカイラス一周の折には5660m

のドルマ・ラ(ラミ峠)を越えなければならぬ。そのためには事前には5000m以上の高度に身体を慣らしておく必要がある。そこで5000m級の大娘姑山(5025m)に登り(本誌75号)、9月13日に富士山へ出かけ、少しでも高所に順応しやすいように務めた。

## チベットへ

2003年9月27日ラサに入り、ポタラ宮・セラ寺・ノル布林カ雍宮・大昭寺を巡った。30日シガツェに向かいタルシンポ寺を訪れ、10月2日よりランドクルーザーに乗り、チベット高原を西へカイラスを目指した。4000m級の峠、ユ

長谷川伝次郎著『ヒマラヤの旅』のカイラス



ロン・ラ(4700m)、コング・ラ(4605m)を越えて六道班の招待所に着く。

10月3日、スグ・ラ(5120m)からドンジラ(6210m)の雪山を眺め、22道班から雪山二山のチエンツラムII峰(6276m)とI峰(6280m)を見て、ヤルツァンポ河沿いに走り麓現に着く。10月4日、出発して右側の広がり奥



に双耳峰の山が裾野を広げていた。左が主峰(5674m)のようだ。次にネパールの国境に雪の峰々が望め、続いてムスタンの最高峰6369mの峠から6366m、6315m、6325m、6326m、6229mの山々が展開し出した。仲巴で昼食。しばらくして、左にネパールの山々が見えてきた。カンジロバ山群あたりだろうか。やがて、前方に砂丘が現れ、その背後にヤルツァンポ河が光り、西ネパールの山々が続き出した。同志社大学隊が2002年に初登頂した台形のカネユ・カンリ(6859m)やロンラ・カンリ(6647m)の峰々だ。4830mの峠を越えて牦羊の招待所に着く。

10月5日、褐色の荒涼たる景色のなか、4950m、5000mの峠を越え、マユム・ラ(5216m)を越え、4870mの峠を越えると正面にナムナニ(7694m)が大きな姿を現した。

## 待望のカイラスを見る

そして次の4700mの峠を越えると待望のカイラスが見え出し、しばらくして台地(4680m)で車が止まる。カイラスだ! 車から降り、カイラスを眺め

ていると涙が零れそうになり、私はカイラスに向かって合掌していた。スケッチブックを開けてカイラスを描こうとするが、手が震える。

河口懸海はこのあたりでカイラスを眺めている。

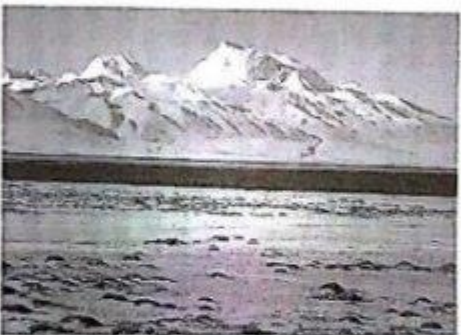
「その日は僅か三里半位しか歩かない。僅かに西北の空を眺めますと大きく響いて居る。その峠が即ちチベット語のカン・リンポチュエで、インドではマウント・カイラスという。昔の名カン・チーゼといっている。その雪峰は世界の霊場といわれているほどであってヒマラヤ雪山中の峰を草め、全く天然の曼陀羅を成して居る。その霊場の方向に対してまず私は自分の罪業を懺悔し百八遍の礼拝を行い、それからかねて自分が作っておきました二十六の誓願文を読んで誓いを立てました。」と著書『チベット旅行記』で書いている。

その台地から少しくだるとマナサロワール湖畔(4630m)に着き、テントを張る。河口懸海はこの湖とその周辺のことを、

「こうして五里ばかり進みますと例のマナサロワール湖に到着した。その景色の



カイラスを見る



ナムナニ (7894日)

素晴らしきは実に今眠に見るがごとく蒙  
杜雄大にして清浄靈妙の有様が躍々と  
して湖辺に現われて居る。池の形は八葉  
蓮華の花の開いたごとく八如の鏡のうね  
うねとうねうねして居るがごとく、そうして  
湖中の水は澄み返って空の碧々色と相映  
じ全く浄波瑠のごとき光を放って居る。  
それから自分の居る所より西北の隅に当っ  
てはマウント・カイラスの霊峰が巍然と  
して碧空に聳え、その周囲には小さな雪

峰が幾つも重なり重なり取り巻いて居  
る。その有様は五百羅漢が釈迦牟尼仏を  
囲み説法を聞いて居るような有様に見え  
て居る。成程天然の曼陀羅であるという  
ことはその形によって察せられた。」と  
述べている。  
カイラスとマナサロワール湖は、ヒン  
ドゥー教・ジャイナ教・仏教・ボン教の  
共通の聖地となっている。古来、自然崇  
拝だったものが、それぞれの宗教の教義

いう霊峰がそのようだ。

### オオカミが出る

昨夜、コックも私達とテントに寝てい  
たが、夜中オオカミが近くで吠えていた  
からと言って車に逃げ込んでいった。私  
は犬が吠えていたとばかり思っていたが、  
あれはオオカミだったのだ。案内書には  
「チャンクローチベット・オオカミ。カン・  
リンボチエ周辺でよく見かけるが、人を  
襲ったという話は聞いた事がない。」  
〔関西チベット〕高木軍旗著〕とある。青  
蔵高原では2800から5400に分  
布し、西藏自治区での生息数は4800  
頭以下と推定されている。

10月6日、ダルチュンを目指す。カイ  
ラスが大きくなくなってきたが、ダルチュン  
に近づくと前山が迫ってきて、カイラス  
は頂上の白い部分がわずかに見えるのみ  
となった。ダルチュンの入口にある聖  
湖賓館が今日の宿泊所である。このホテ  
ルの裏に村に通じるバザールがあって村  
は山際まで広がっていた。ホテルの右側  
が巡礼者のテント場、今しがたトラッ  
クで到着したばかりの巡礼者達が歌いな  
がら楽しそうにテントを張っていた。近

くにダルチュン・チュ(チャール川)の流  
れがあるからテント場としては最適なの  
だ。

その周辺にはクチバシの赤いハシブト  
カラスよりやや小型のベニハシガラスが  
30羽ほどいる。このベニハシガラスは優  
れた飛翔力をもっている見事な飛行をす  
る。目の前を急降下して行くのを見ると、  
まるでハヤブサと見間違えうほどだった。

### カイラス一周・1日目(10月7日)

10月7日、カイラスの回り方はヒンドゥー  
教・仏教・ジャイナ教は時計回りでボン  
教は逆回りだ。私たちは時計回り、タル  
ボチエまでは車が入れるのでそこで車  
を利用する。ダルチュンから西へ少しく  
だつてラ・チュ泊りに滞り、タルボチエ  
に着いた。タルボチエとは、釈迦の生誕  
祭で立てられる天と地を繋ぐ宇宙軸とし  
ての柱で、四方から強風によって支えら  
れ無数のタルチョ(お経を詠いたハンカチ  
大のもの)が結び付けられているもので、  
車はそれを時計回りに回って止まった。  
タルボチエの背後に三角形のカイラスが  
顔を出していた。ここは出発点ではなく、  
ドライバー達は折りを擇びて再び車に乗

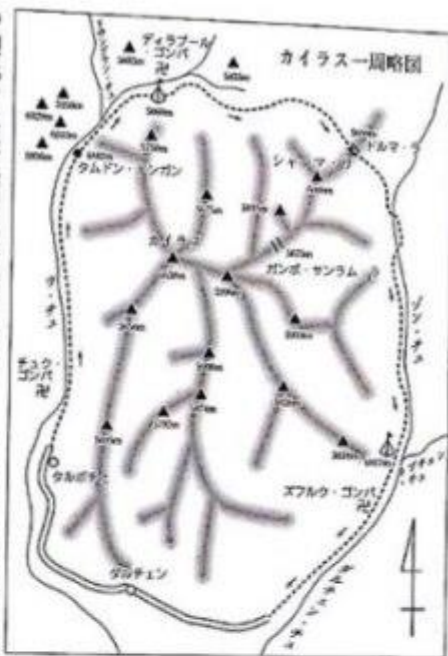
によって解釈したため、複数の宗教の聖  
地になったのだろう。

マナサロワール湖を隔てて大きなナム  
ナニ(7694日)と、その左には衛屋峰  
グナラ(6903日)がそびえている。ナ  
ムナニは1985年中国登山協会と京都  
大学・同志社大学の合同登山隊が初登頂。  
1990年にスイス隊が第二登。199  
7年にはアメリカ隊がグナラに初登頂後、  
ナムナニに向かったが7500で敗退  
している。1998年日本山岳会福岡支  
部が第三登。1999年には日本ヒマラ  
ヤ協会隊がグナラに第二登し、引き続い  
てナムナニ北麓から東壁上部を左上する  
ルートで登頂。2001年には関西大学  
隊がたったの2名で登頂に成功してい  
る。

ナムナニについて河口慧海の文には  
「その美しきと言えれば世界唯一の浄土で  
あるのみならず、川の西北岸に立ってい  
るマウント・カイラスの中には生きた菩  
薩や仏も居られ、それから生きたところ  
の五百羅漢も住んで居られる。また南岸  
に在るマンリーという霊峰には生きた仙  
人が五百人も居って……」とあって、ナ  
ムナニの名は出ていないが、マンリーと

り、2000日位定めて止まった。いよいよ  
よここからがスタートだ。車での移動は  
9.5だった。カイラス一周は52.5ある。  
帰りの3.5は程は車が迎えに来てくれるか  
ら実際に歩く距離は40.5だ。ここで歩く  
人とヤクまたは馬に乗る人に分かれる。  
川は左の方で流れているようだが見え  
ない。このスタート地点の河原の幅は1  
.5ないしそれ以上あって台地状だ。左  
の山側は中腹から茶色の横縞模様の岩壁  
になっていて、その岩壁の基部(486  
0日)にチュク・ゴンパの建物が見える。  
カイラスの周りには五つのゴンパがあっ  
たが、チベット動乱と文化大革命の際、  
全て破壊されたという。

「チュク・ゴンパは、川を渡った対岸の  
中腹にあるが、徹底的に破壊されていた  
ため、ドルジュが指差さなかつたならば、  
通り過ぎたであろう。川幅の最も狭くな  
った所を急いで渡った。冷たくて、足がき  
れそうだが、ゴンパは見えているの、急  
な坂道は意外と時間がかかる。途中で穴  
に落ちている老女に出会う。ゴンパはさ  
らに上だ。河口慧海によれば、ブータン  
王に属するこのゴンパは、当時最も収入  
の多い寺であったというが、今では瓦礫



の山だ。」と玉村和彦氏は「聖山巡礼」(山と溪谷社)に書いておられるが、その後再建されて現在は建物があることが確認できる。

チュク・ゴンバを左上に見ながら台地状の広い河原を歩き出す。巡礼者達は1日で廻るが私達は2泊3日だ。左に小屋がある。巡礼者用の宿泊所であろうか。河原が狭まってきてラ・チュの流れが近付き岸辺を歩くようになる。タマと呼ばれる40〜50m程の湖が河岸近くに生え

ているだけで、他には一切緑は見当たらない。兩岸は岩壁が続く。カイルス側に二つの尖った岩峰の鞍部から縦溝の切れ込みが白い凍った滝が見える。ラ・チュはゆるいU字形だから昔は水河であったのだろう。金茶色、柑子色の壁が兩岸に続いて河岸の派路はゆるい登り下りを繰り返して徐々に登っていく。正面に雪のないゆるやかな稜線を描く5603m峰を目指して進むことになる。対岸(西側)には山頂付近を横断し雪を付けた5936m峰、6010m峰、5938m峰の切り立った岩峰が続いている。やがてカイルス側から広い谷が二本流れてきて、カイルス西面が姿を現した。山頂の雪庇が大きく張り出し、その下から中腹にかけて横から何かで扶りとられ

たように横縞の白い雪と岩の壁が走っている。ここから見上げるカイルスは神々しさよりも悪魔の住処のように見え、怪物のようにも見え、そして手前に槍のような小悪魔のような岩がある。この場所が河口慈海もカイルスを眺めている。著書『チベット旅行記』の中で、

「そこがすがすがしなわちこの天然の曼陀羅における純粋の所であるのです。その名をセルジュンすなわち黄金漢という。もちろん黄金があるのではないけれども実に奇々妙々な岩壁が巖然として虚空を劈くごとくにと峙って居る。その岩壁の向こうに玉のごとき雪峰が顔を出して居る。その姿を見るだけでも勇ましいという感に堪えんほどであるのにその碧空に時々の幾筋かの流が落ちて居る。その杜撰と云えようもないのです。随分幅が広いのもあって火山見えて居りましたがその内最も大きなのを選ぶと七つばかりある。その流の形状の奇なることは千仞の雪峰より蛟龍が跳って岩下に飛び降りるかのとき態がある。あるいはまた徐々と布を引いたように落ちる滝もあり婉婉として白旗の流れて居るよ

うなものもある。」と書いている。

ここはタムドン・ドンガンで玉村和彦氏は「雪庇のある西面が美しい」と「聖山巡礼」に書いておられる。地形図では4882mの地点でカイルス・ビューとある。

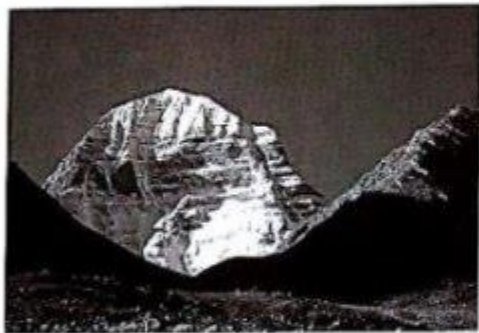
ここを過ぎて5938mの岩峰とその先の5695mの岩峰との間の谷ベルング・チュとの出合、続いて北からドワン・グラン・チュと出合う地点(4908m)



カイルス西面

は広くなっていて、巡礼路は東へと向きを変えていく。ゆるやかな登りで正面に褐色のドームの5835m峰が見え、登るにしたがって右斜面に雪の尖りが顔を出した。シャーマ・リ(6008m)のようだ。

対岸にはディラブル・ゴンバが望め、赤・黒・黄・藍色・空色の五色のペンキで「オンマニベニフム」と書かれた等身大のマニ石の左側を通って登って行くと、



カイルス北壁

カイルス側からの小さな谷を渡った。そして登り切ると台地状の広場に出て、テント一張と小屋があった(5608m)。右へ顔を回すと、あ、これだ! このカイルスだ! そこには長谷川伝次郎『ヒマラヤの旅』のカイルスが目の前にあった。この山姿が、私のカイルスの原点なのだ。覆い被さるように巨大な約筒が置かれている。中腹は岩と雪の縞模様線が走っていて、その姿に私は圧倒されてしまった。これがヒンドゥー教でいうリンガ(男形)であり、仏教でいう須弥山なのだ。1927年7月27日に長谷川伝次郎はこのカイルスを撮影したのだ。その様子を、

「真南に眺められる優勝の地にディリプー寺院があって、そこを宿泊所にした。寺院の下まで来て、河を渡ろうとして振り返ると、カイルスの峯が、霧の晴れた谷の間に全山容をすく手近に現はした。マサジも僕も狂気せんばかりに喜んだ。時計を見るともう七時だ。もっと近づいてドームの根基まで見たいものと、岩を這い上がって行った。折角登ると、その先が遮られている。また登って行く。時間は遠慮なく過ぎて、あたりは暗くなっ

た。……もう八時だ。薄霧が去来する間に、白銀のドームが眼前にほんのりと浮かぶ。急ぎ三脚を据えて、十五分間の露出でカメラに撮った。」と筆習「ヒマラヤの旅」に書いてある。私が生まれる10年前のことなのだ。

また、河口湖海はデイラプール・ゴンパから1900年カイラスを眺めている。「そうしてその坊さんが私と遙かに相対して居る山について説明してくれた。その門前の南方に当って中央に巖然として聳えて居る大いなる雪峰はチーゼすなわち釈迦牟尼の体である。その前の東方の小さな雪峰はこれは文殊菩薩の姿である。中央にあるのが観世音菩薩、西にあるのが金剛手菩薩の像である。それからいろいろの外に見えて居る細かい峰について説明をしましたが、委しい事はこの雪峰チーゼの雲梯史を翻訳すれば分かることでありますからここには申しません。」(チベット旅行記)

雪峰チーゼはカイラスのことで、東方の小さい雪峰・文殊菩薩は5835呎、観世音菩薩は5675呎、金剛手菩薩は5750呎峰なのであろう。今朝スタートする時、「今日の泊まり



ドルマ・ラ

期期していった。クロハゲワシは体長100〜110cm、最大体重12kg、グラム、翼開長2・75呎、羽色は薄褐色だが、遠くから見ると黒色に見える。臍肉をめぐるといわれている鳥だ。しばらくして色褪せた衣類が散乱している広い斜面が続き、峠らしき地点(5400呎)に着いた。何となく気持ちの落ち着かない雰囲気、少し妖しい感じさえする場所だ。ケ

は5200呎地点のテント場」とリーダーの言葉だった。今いる地点は5060呎だからテント場はまだだ。地形図を見ると5200呎の上にチャロック・ドンガン(群賢池)とあるから、そこまで登らなければと家内と登ることになった。ドルマ・ラ・チュに架かる橋を渡って右岸を歩き、左上へと登ってデイラプール・ゴンパからの道と合流してチャロック・ドンガンに着いた。テント場があったから、本隊を待つことにした。ここはカイラスのドームの基部から東にのびている尾根が弓のように捲んで5996呎峰へのスカイラインがボーリング氷河の裏に見えている。西の方を眺めるとラ・チュを挟んで西側の山並が、左から6029呎、5938呎、6048呎、5927呎、6058呎のカイラスを囲む峰々が望める。10人程の巡礼者のグループが通り過ぎてドルマ・ラの方へ向かっている。1時間以上待ってから眼下の5060呎の地点に本隊の馬やヤクの列が到着するのが見えた。もうすぐ動き出すだろうと待ったが、動き出す気配がない。おかしい? ひょっとして5060呎地点がテント場かもしれないと下山すると、や

ルンのような石積にはカターが挟んであったりする。案内書「チベット」(旅行人)の地図にはこの近くに鳥糞場と書いてあるから、死者の衣類かと思ったが、衣類を脱ぎ捨ててここに置いていくのは縁起が良いとされている。私はこの妖しげな地から早く離れたかった。

地形は平坦に見えているが、徐々に上っている。右上へと遮礼路は続き、右奥の鞍部近くに雪が見えたのでそのあたりがドルマ・ラであろう。右下に凍った池が出てきた。振り返るとカイラスの尖ったドームが顔を出していた。

河口湖海はこのあたりで自分の体調と巡礼者が後悔している様子を次のように書いています。

「三途の脱れ坂(デイラプール・ゴンパからの坂道のこと)を一里ばかり登りますと非常に疲れて大分苦しくなりましたから少し薬なども飲むつもりで休みました。するとそこで面白い話を聞いたのです。それは向こうの釈迦牟尼如来といわれる雪峰チーゼに対して礼拝をして居る人がいる。その人は強盗の本場であるカムの人です。様子を見るに実に残忍なまた豪壮な姿であって胆胆など恐ろしい奴ですから、強

はりそこが今日の泊まり場であった。このテント場の周辺にはヒマラヤマーマーモットの穴があちこちにある。ヒマラヤマーマーモットは標高3500〜5200呎の高原に分布し、日当たりのよい丘陵地に巣穴を掘り、群れで暮らしている。リスの仲間であるアナグマのような体形で、日中は巣穴近くで後ろ足だけで垂直に立ってあたりを警戒している。到着した時が夕方だったので姿は見かけなかったが、私は、以前バミールのコムニズムのベイス・キャンプでその可愛い姿を見たことがある。

2日目(10月8日)、ドルマ・ラ越え翌朝、カイラス北面がモルゲンロートに輝き出し、それが収まる頃、私達はドルマ・ラ・チュに架かる橋を渡り、昨日間違って登った5200呎のチャロック・ドンガンのテント場を過ぎた。ゆるい登りになり、右にそびえる5835呎峰が後ろになると内院が広がり出した。奥に5675呎のガンボ・サンラム・ラが見える。遮礼路は広いゆるい斜面を登っている。私達はゆっくりとその路をたどるとクロハゲワシが目の前を音もなくスーと

盗本場の中でも一段勝れた悪徒であろうと思われたのです。その悪徒が大きな声で懺悔をして居る。未来の悪事の懺悔……ああ、カン・リイボチュよ。釈迦牟尼よ、三世十方の諸仏菩薩よ。私はこれまで幾人かの人を殺し、あまたの物品を奪い、人の女房を盗み、人と喧嘩口論をして人をぶんどった種々の大罪を此坂で確かに懺悔しました。だからこれまでの罪はすっかりなくなると私は信じます。これから後私が人を殺し人の物を奪い人の女房を取り人をぶんどる罪も此坂で確かに懺悔いたしておきます。……とこういう事なんです。実に驚かざるを得んではありませんか。」

登って行くくと谷は二つに分かれ、右の谷を斜め上へと路は続いている。ジグザグの登りになり雪が出てきて平坦な場所に出たが、峠はまだ先で、そこから雪を踏みしめてのゆるい登りが続き、ようやくドルマ・ラにたどり着いた。もう登りがないと思うとやれやれだった。今回の旅の最大の課題だった5660呎のドルマ・ラを歩いて越えられる見通しが立って嬉しかった。峠には白・赤・黄・緑色のタルチュが万国旗のように何

ベストシーズン到来！憧れのコースを歩いてみませんか。



**らくらくロジックで歩くタンポチエベレスト展望トレック12日間**  
10/20-31/23 ￥385,000～  
エベレストを眺めながら、ゆったり歩きます。マンツーマンポーター同行で1日の行動時間も少なく体力に自信のない方もご参加いただけます。

**ホテルシャンボチエ/ラマエベレスト展望トレック 9日間**  
10/26-11/6-12/21-12/28-1/15-2/15-3/12 ￥318,000～  
エベレストに挑戦する登山者も通る代表的なコースを歩くプランです。エベレストはもちろん高所にローツェ、ヌブツェなどの山々が目の前に広がります。

**アナプルナ・ダウラギリ大展望 シムソノ街道トレッキング12日間**  
11/10-3/9 ￥358,000～  
ホカウより一歩にシムソノへ、プーンヒンに立ててアナプルナ・ササワスやマチャブチャレ・ダウラギリ山群が広がります。

**初めてのネパールロイヤルトレックとティハール祭 8日間**  
11/10 ￥268,000～  
ネパールの歴史を4日間のトレッキングを楽しみ、南東コースです。トレッキング後は日光の景として有名な華やかな伝統祭ティハールを堪能します。

**らくらくロジックで歩くプーンヒルトレッキング11日間**  
11/21-3/13 ￥332,000～  
人気の高いプーンヒルを日程をばらばらしてゆったりと歩きます。マンツーマンポーターが同行。

**ロジックで歩くマラヤ大展望プーンヒルトレッキング9日間**  
10/23-11/13-12/7-12/25-1/18-2/18-3/15 ￥298,000～  
アナプルナ山群と、ダウラギリ山群の高標らしいV/P/ラマを眺めながらのトレッキングを楽しめます。



**ミルフォードトラックとマウントクック 12日間**  
11/21-12/5-12/19-1/16-2/17-3/6 ￥468,000～  
世界一美しい湖歩道ミルフォードトラックと西岸峰マウントクックを御座見ながら歩くハイキングを組み合わせた定番ツアーです。

**ミルフォード&ルートバーン マウントクック 14日間**  
1/7-2/19-3/7 ￥562,000～  
この道のトレッキングを二分するこの両コース(99km)の完歩を目指します。さらにマウントクックも1泊満喫ツアーです。

**ルートバーンとグリーンストーントラックグランドトラバース11日間**  
1/24-2/7-2/28 ￥455,000～  
プーンの原生林と山岳景観が魅力。全長75km、短いトレッキングでは地味ながらも1泊にお勧めです。

**ゆったりニュージーランド南島・北島周遊ハイキング 10日間**  
11/30 ￥428,000～  
南島ではミルフォードの白濁りのコース・マウントクック、北島ではトンガリロ国立公園、見所を兼ねたゆったり向きのコースです。

**サザンアルプスゆったりアラワーハイキング 7日間**  
11/16 ￥288,000～  
マウントクック国立公園とクィーンズタウンを訪れ、ニュージーランド独特の彩りを楽しみます。

**トンガリロ・クワッパとカウリの巨木の森 9日間**  
11/13 ￥398,000～  
北島の魅力を兼ねて新企画！見所する絶大の巨木は見るものものを任置、トンガリロにも価値します。

**高山病対策&高所登山に! 低酸素室**

「低酸素室とは、人工的に低酸素環境をつくり、高山病発症に有効なことを目的とする装置です。想定高度も3000m～4000mに調整することができ、初めて国内・海外の高峰を目指している方、山合やグループでの高山登山を計画されている方もお気軽にお問い合せください!

お問い合わせは… 山旅専門旅行会社

**アミューストラベル株式会社** 日本交通大印登録旅行業第1366号  
日本旅行業協会正会員 ゼンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-11-4 大阪駅前第4ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>  
E-mail: [antosa@amuse-travel.co.jp](mailto:antosa@amuse-travel.co.jp)

**06-6456-3366** FAX 06-6456-3377

本も岩から支柱へ、岩から岩へと張り巡らされていた。ドルマ・ラは観音菩薩の涙から生まれたという女神タール(多羅菩薩)のことだといわれている。

ドルマ・ラの東側には柔らかい白い三角形の6034峰、6002峰の岩峰が紺碧の空に迫っていた。降りかけると右下に直径10m程の丸い池が見えるが凍っていた。池の名はグリカンドという。ドルマ・ラからは急な下りが続く、この下りはヤクや馬に乗って降りるにはちょっと無理な坂道だし、五体投地礼でくだるのも大変な坂だ。ようやく台地状の地形に出て雪田を横切ってまた下りになる手前でナムナニがあなたに見え出した。うんざりする下りが続き、大きな岩がある地点に着く。宗教的な感じのする岩で何かを祀ってあるような雰囲気がある。(5255峰)。ゾン・チュ(川)に降り対岸に渡る。このあたりはシャブジュ・ダグトック(ヤクの放牧地)という。ゾン・チュの河原をゆつくりくだる。東面のカイラスは望めないが、ガンボ・サンラム・チュの出合(5118峰)付近からカイラスの東にある5918峰と白い尖った峰(5996峰)が顔を出していた。巡礼路

はやがて右岸を行くようになる。1日で一周する巡礼者達が私達をどんどん追い抜いて行く。五体投地礼しながら廻っている巡礼者が3人いた。口元で手を合わせてそのままだまの頭に上げて、「これまでの罪を許したまえ」と唱え、そのまま口元へ「これまでの罪を清めたまえ」、胸の前に持ってきて「心がこれまでの罪を許したまえ」と唱え、そのまましゃがみ込み両膝をついて両手をのぼして腹這いになり合掌し立ち上がって、手をのぼした地点まで三歩程進み立ち止まり、また同じ動作を繰り返す。一回が身長プラス手をのぼした距離しか進めないから、カイラス一周には2週間はかかるといわれている。

玉村和彦氏によれば、「私が調査した145人の巡礼者の中で、6人が五体投地礼をすでにしていた。…帰りまでに五体投地礼するつもりであると答えた者は12名であった。予定者を含めると考えると、カンリン・ボチエ巡礼者の一割強が、五体投地礼で廻ることになる。」と著書「聖山巡礼」に書いておられる。

今夜の宿泊地はトブチェン・チュとの出合(4817峰)で、川上からの風がき

ついででテントを張るのに手間どった。

3日目(10月9日)

ゾン・チュの右岸沿いの河原をくだって行き、ズフルク・ゴンバ(4835峰)に寄ってくだる。「オンマニベニファム」と彫られたマニ石が巡礼路の横に見られ、ゾン・チュが一番狭まったゴルジュ状の地点にカルチュが激してあった。日本の筋道編か注連縄を意味するものであろうか。ここを過ぎると前方が開けて眼下に高原が広がって、ナムナニがその中央にとんと控えていた。

車が迎えに来てグルチェンに戻り、聖湖賓館で昼食時にカイラス一周を祝って乾杯! カイラス一周の山旅は終わった。これで今回の目的は果たされた。その後、私達はなお西へと旅を続けた。カイラスが徐々に小さくなって、カイラスの北にある6122峰、6218峰の雪峰も背後になった。この日は門士軍の基地で泊まり、翌日からドゥンガル遺跡・グゲ王国の遺跡から崖崩山脈の南側から新道に入り、ヤルカンドから天山南路に抜け、トルファン、ウルムチ、天池と巡り、10月21日帰国した。

## 奥美濃前衛の山、天狗山

美濃

磯部 純

山科の大兄といっしょに山に行くようになって、最初のころは湖北の三角点峰を訪ね歩いてきたが、かなり片付いた現在、今度は美濃の山に目を向けるようになった。美濃には登りたい山が数多くあるが、大垣を廻って行くのでは時間もお金もかかり過ぎるので、今まであまり登ったことがなかった。これまで登った山といえば、滋賀県境の山を除けば能郷白山と三周ヶ岳くらいか。

大兄が美濃の山行を初めて計画したのは五蛇池山だったが、この日は帰省していたので参加できなかった。二回目のこの天狗山が大兄に案内していただいた。最初の美濃の山ということになる。天狗

山は葛麦粒山・五蛇池山の連なりの南東に位置する山で、その急峻な姿から天狗が棲んでいたという伝説によって名付けられた。

7時に山科駅前へ集合。6人が二台の車に分乗し、名神道を木之本へ向け走る。以前は京都から大垣廻りでないと行けなかったこの方面の山も、八草峠にトンネルが通じて、金原原から川上へと短時間で抜けられるようになった。

米原から北陸道へ入ると、伊吹山・七尾山・小谷山・己高山と間近に湖北の山々が過ぎてゆき、山間から雪をかぶった金萱岳が頭を出している。予報と違って、空は抜けるような青さで雲一つ浮か

天狗山山頂にて



んでいなかった。

木之本で高速を降り、葛谷山の麓を通り、八草峠のトンネルをくぐるともう岐阜県泉川上村。広瀬にある坂内村役場前の広場に着いたのは8時40分。鈴鹿市からやって来た2人がすでに到着しており、広場で待っていた。これでこの日の山行メンバーは男性3名、女性5名のパーティーとなった。

役場前からすぐ近くの坂本まで車を走らせ、坂内川の赤い吊橋を渡り、尾根を廻り込んだ空地に車を置く。林道の一方は川でもう一方は杉林。林の奥に見上げるばかりの斜面が見えている。これから標高差550mもあるこの急斜面を登るのかと思うと、登る前から気が重い。

9時に足取りを整え西へ戻り、小屋の横から踏み跡をたどって杉林へ入る。雷はあっても降っていないと予想し、ワカンを置いてアイゼンだけを持っていく。腰まで草を掻き分けて進んでいくと、たちまちズボンや手袋にビッシリとヒッ

ツキムシが付いてしまう。踏み跡は杉林の浅い谷へのびていて、それを登って行くことやがて西の尾根にのり、しっかりとした道が現れた。そこから上は疎らな雑木の林。足元にはヤブコウジの赤い実が点々と残っている。気がつくやうに大兄が先頭で、身体の小さい人から順に並び、最も体重的な私が最後を受け持つといういつものパターンで登っていった。

尾根を少し進むと、目の前に急斜面が立ち塞がる。やぶの少ない疎林の急斜面で、黄に色づいたミズナラが秋をもの語っている。その急斜面に刻まれた踏み跡状

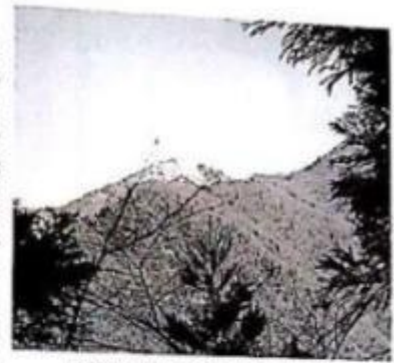


の道をシグザグに登って行く。登り始めて間もないのに、もう汗が止まらない。ひたすら微かな踏み跡を見定めながらの登りである。ふと後を振り返ると、足元は転げ落ちそうな急斜面で、はるか下の方に坂本集落が階段のように広がっていた。フワフワ言いながら

登り、疎林伐採斜面の所で休憩。上を見ると、まだまだ急斜面は続いていた。

しばし休んで登り出すが、相変わらず足が重い。伐採斜面の直登では体重的な3人が遅れ出し、傾斜が緩分ゆるくなった所まで来た時には、先を歩いていた5人の姿は見えなくなっていた。方向を左にとると、斜面左手の展望は抜群で、雷をかぶった金萱岳が近くの山の上に頭を出していた。それを見ればし足の疲れを癒す。

さらに急勾配の尾根を登ると、テレビの古い共同アンテナが立っていた。その先は尾根がゆるくなり、ササの多いミズナラの灌木帯となる。木々の間から左に金萱岳が、右手上方には天狗山が高く高くそびえ立っている。ササを掻き分けて進んでいくと、杉林手前のササのなかに三角点を見つけると、大兄の案内には4等三角点だと書いてあったが、標石の大きさから見て、3等三角点に間違いない。ここにある三角点は4等と想っていたので、何か得した気分になった。後で調べると、この三角点は点名「上ヶ瀬」。カマクラまたはケノクラとも呼ばれている標高798・8mの山だった。



天狗山稜線に顔を出す五蛇池山

ここからまだ先は長い。ひと息入れて出発する。杉と雑木の境界尾根をいったんくんだり、細い尾根を歩く。木々の間から間近に湧谷山が見えている。小さなピークを越え、杉の林のなかで広くなった尾根を登ると、Q890坪のピーク。その下り斜面にはユズリハが目立つようになり、見事なばかりのブナが点在していた。その先の標高点884坪の肩をかすめて進むと、再び、急登が待っていた。イカリソウが繁茂した取り付きの岩を捲き、ササの細尾根にのる。やがて尾根が広くなるが斜面の急なことに変わりはない。



天狗山山頂から見た小津権現山



高木にある天狗山山名標識

すぐ前の人に合わせて最後を歩いていた気がつく。先に登った6人の姿はとくに高みに消えてしまっている。ただ、笛の音やわれわれを心配する呼び声だけが聞こえてくる。

やっと急斜面を登り切り、斜面がゆるくなる所まで登ると、そこは一面の雪原。その雪面に先行した人の足跡が残っていた。足跡をたどると踏み出す、ズボッと膝まで雪に潜ってしまう。体重の軽い人は雪の上を歩いているが、後ろを歩く重い者は足を出すたびに膝まで滑り、ラッセルしているのと変わらない。こんなことなら、アイゼンではなくワカンを持ってきたほうがよかったと後悔してももう遅い。ここから山頂までは直線距離にして約500坪標高差100坪の登りは、難行苦行そのものだった。しまいに太腿の筋肉がどうにかなりそう。山頂でコールする声に応える元気はもう残っていないかった。

12時40分、どうにか天狗山(1149坪)山頂にたどり着く。先頭からは15分の遅れだとか。それでもまだ食事にかからずに待っていてくれた。最後の彼女が到着したのを見て、大兄が持ってきたニュー

ブランド製のワインで乾杯。空は晴れ渡り、雲一つない快晴だった。

坐りこんだ目の前には小津権現山が横たわり、花房山、雷倉と続く。その左に間近に見える雪をかぶっている山は能登白山か。北の林の間からは五蛇池山の輪郭が見えていた。目を右の方へ転ずると、小津権現山の右手を流れる掛梁川のかなたに、大塚の市街も見えそうな気がする。さらにその右手の懐にスキー場を抱く山は貝月山に違いない。こんな大展望を見ることができただけで、苦労して登ってきた甲斐があったと痛感した。

さて、天狗山三角点とは見渡すが、山頂は雪におおわれ、どこに埋もれているのかわからない。ここぞと思う所の雪を掘っても、標石は見つけられなかった。この標石は3等三角点で、点名は「川尻」である。大兄に聞いても、その位置が思い出せず、せめてもと、登頂の証拠に、高い木に打ちつけられた「天狗山」の山名標識を写真に撮ることで間に合います。

13時25分、登頂記念写真を撮った後、下山とする。下山路は、予定では山頂から東へ向かい、小ピークから南へのびる

急尾根をくだることにしていたが、雪があるため危険と判断し、登った尾根をくだることに決定。またまた、苦難の行の始まりだ。最初は調子よくくだったのだが、斜面がゆるくなった所までくだった時、変なふうにグネットて足が雪に滑った途端、右太腿に激痛が走る。薬を服用したりエアースロンパスを吹きつけたり、皆さんの心配を一身に集める。やっと痛みが治まり歩き出すが、もう少しで雪が無くなるという所で、今度は左太腿。下りはよいが、足を高く持ち上げると激痛に襲われる。

雪が無くなった所からは下りの斜面。足を上げて倒木を踏ぐような所では、わざわざ遠回りして足をなだめすかしてくだる。やっとの思いでピークを二つ越え、最後の三角点峰へ登り着くという時に、三回目の激痛。とにかく、心配して待ってくれた2人には感謝でいっぱい。一方、先行した5人はつれなくも、三角点峰で待つてはいなかった。

テレビ共同アンテナ近くの林で最後の休憩をとり、急斜面をくだっていく。こんな斜面をよく登ってきたと思うほどの急斜面だった。最近、安曇山への急料

面を這いずり登ったが、この急斜面とは距離が全く違う。葉が効いたのかいただいたレモンやブドウ糖がよかったのか、ここからの下り斜面になると足の調子が元に戻る。こうなればしめたもの、登りは遅いが下りは早い。先頭に付いてひたすらくだる。

カマクラから1時間でもくんだり、車へは16時に帰着する。この時には足の調子は快調で、あんなに足がつって苦しんだとは、自分でも信じられない状態だった。いったん、坂内村役場の広場へ集まり、ここで鈴鹿組と別れる。京都組は木之本にある己高庵で汗を流し、山科へと戻ったのである。

一応上級者向き?といわれている山に登った翌日、連続で山へ登る人がこのパーティの中に4人もいたとは、その若さが羨ましくてならない。

(平成14年11月23日歩く)

#### Aコースタイム

坂内村役場(車5分) 登り口(1時間40分) カマクラ(2時間) 天狗山(1時間30分) カマクラ(1時間10分) 登り口  
△地形図V2万5千1美濃広瀬

## 旗振り通信の資料Ⅲ・総索引

柴田昭彦

## 【お経塚(三重県関町)】

「歌山 米相場」という入力によるインターネット検索(平成15年10月)で「わたしたちの村の行事と行事食(野上り)」という、次のような旗振りの記事が見つかった。

## ●野上り 鈴鹿郡関町

## ●行事の内容・いわれ

北在家の北西に高い山があり、通称「お教塚」といわれており、頂上に1坪位の石塚が造られている。「江戸時代の末期、地元の坂さんのおじいさんが頂上で紅白の旗をふり、四日市の米相場を上野へ知らせた」といわれている。この家には、昔から北在家在住者の位牌が納め

られている。現在も11月の最終日曜日には、その年に死亡した人の白木の位牌を納めている。以前は12月3日に納めていた。

\*本誌60号で紹介したのは「お経塚」であり、「お教塚」は誤記と思われる。坂さんのおじいさんとは、坂森政太郎さんの先々代のことであろう。

## 【相場山(滋賀県大津市)】

相場山は本誌57号で紹介した小関山である。「相場山」でインターネット検索すると、「町家の魅力を探る」のサイトが見つかり、「旧・坂元町(現・中央)の米会所の石畳。長方形の石が1メートル

ル幅で敷き詰められている。藤尾の相場山から旗を振って大阪堂島の米相場の状況を伝えたという」とある。

「大津百町館」は平成13年のオーブンで、大津の町家を考える会編「大津百町物語―暮らしの昔と今を歩く―」(サンライズ出版、1999年)にあるコラム「相場山」(青山孝子執筆)には次のようにある。

「米会所に関連した話。藤尾に「相場山」という山がある。小関越えから少し尾根道を登った辺り。ここに骨櫓が立っていて旗振り夫がいたという。」

## 【旗振り山(滋賀県彦根市)】

彦根市長の中島一氏が彦根市のホームページで、平成15年11月15日の市長からのメッセージにおいて「彦根の旗振り山」というテーマで一文をまとめておられる。内容は、本誌58号で紹介した中島伸男氏の二つの論文の内容をダイジェストしたものである。ただ、出典を示していないのは残念なことである。

## 【旗振山(宮城県)】

「旗振り山」の検索で、宮城県河内町

付近に旗振山があることがわかった(平成15年11月)。「旗振山」というだけあって、いわゆるのろしを上げて旗の装束を知らせるなどの信号所の役目を昔は果たしていたようです」とある。戦乱にかかわる旗振りに由来するので、東北地方という立地から考えても、相場通信とは無関係のものであろう。

## 【旗振山砦(兵庫県但東町)】

「旗振山砦」で検索すると、兵庫県出石郡但東町畑山にあることがわかった(平成15年10月)。山城の一つであることから、相場通信の山である可能性は低いものと思われる。

## 【旗振山公園(長崎市)】

「旗振り山」の検索(平成15年11月)で、長崎の小川産店のすぐそばに「旗振山公園」があることがわかった。長崎では、旗のことを「旗」と呼び、店主は世界中で旗揚げをしているという。なお、地図によると、「小川産店」の近くに「長崎ハタ資料館」「風頭山」「風頭公園」があるが、旗振山公園は見当たらない。「旗振山」の由来は不明である。

## 【旗振山城(九州北郷)】

「旗振山城」で検索すると、「原田家 家臣団」の文中に次のように出ていた(平成15年10月)。

「怡土庄に原田隆種が戻ってみると大内氏に組していた西一族が不遜の態度を示し、原田氏へ対抗するので永祿十年(1567年)九月一日に筒城の西重臣を攻め、続いて宝珠砦城・旗振山城と落城させて西氏を滅ぼす。」

原田家は中世、九州北部で活躍した一族である。旗振山城は山城の一つであり、やはり、相場通信とは無関係であろう。

## 【旗振り山(北九州)】

「帆柱山」の検索から見つけた文献、瀬川貞太郎「おもしろ地名 北九州事典 増補総集版」(文理閣、1999年)には、2ヶ所(97頁・278頁)に相場通信ルートが紹介されている。ただし、中絶ルートは立地や見通しを考慮しないで記述され、緻密さを欠いているのは残念なことである。

「足立山」にもノロシ台があった。長州藩の火の山(下関)、筑前藩の帆柱山(八幡)と合わせ三藩合意の合図場になっていた。

帆柱は火柱である。神功伝説による苦しい解釈をしなくても、足立山の麓の宮野はトブヒノの転化と考えれば無理がなく、いい。明治6年、竹槍一揆の発端は上方の米相場を運搬していた烽火(ノロシ)。烽火のコースで下関火ノ山から足立山、帆柱山ついで鞍手郡陣立山を経て嘉穂郡高倉山、冷水峠、大川市の若津米相場所に連絡していた。これを米備操作と見た農民の怒りが端緒となり、一揆に発展した。古代王朝時代からノロシ台のあった足立山の麓が飛火野で、宮野へ音便転化。」

「足立山への信号ラインは3本であろう。1本は竹槍一揆の発端となった相場火ラインで、下関の火の山―足立山―帆柱山―福智山―金園山(田川市)―冷水峠―若津(大川市)だが、これでは烽火の防衛線からそれてしまう。」

\*本誌73号で示したように、著村一重「筑前竹槍一揆」の記述から、相場火ラインは、「下関の火の山―足立山―帆柱山(重倉山)―福智山―金園山―古処山―箕山(臼杵市)―若津」―金園山―冷水峠―足立山―若津」である。従って、瀬川氏は、古処山と箕山(臼杵市)を省略していることがわかる。冷水峠から若津方面を見ようと



しても、その方向には磁石が通って  
いるために見通せないことは言うまでもな  
いことだろう。

瀬川氏は、帆柱山から鞍手郡鉢立山へ  
中継したというが、鉢立山(標高668・  
2m)は鞍手郡若宮町・糟屋郡篠栗町境  
に位置しており、山頂の北東にある音嶽  
(標高683m)が通っているために、帆  
柱山(扇倉山)と通信することは不可能  
である。立地から可能なコースは「福智  
山―鉢立山―博多」であり、通信方向も  
一直線となってスムーズであり、適切な  
コースと考えられる。また、「金国山―  
鉢立山―博多」のコースも可能である。

鉢立山に旗振り伝承があるのかどうか  
は、他の文献に記載が見られず不明だが、  
本誌73号で示したように、基山が旗振り  
山ではないことから、冷水峠経由で博多  
へ通信することができないので、「福智  
山―鉢立山―博多」というルートが成立  
する可能性が高いように思われる。筆者  
は、鉢立山が旗振り山であるのかどうか、  
その根拠を知りたくて、瀬川貞太郎氏  
(ローカル誌「小倉タイムス」創刊、編集者)  
に問い合わせたところ、次のような  
返信を頂いた(平成15年12月)。

「当時、地名行脚は文献を手がかりに現  
地を訪ね、地元の人に取材することとし  
た。鉢立山も同様です。」「根拠を問われ  
れば現地伝承という他はありません。」「  
なお、鉢立山の山名は、玉依姫が自ら  
の鎮座の山を求めて音岳に登ったところ、  
近くにより美しい山があったので、その  
頂上に鉢を立てて高さを比べたことにち  
なむという(角川日本地名大辞典「福岡  
県」)。

瀬川氏から返信をもらった後、インター  
ネットを利用して「おもしろ地名 北九  
州事典」の初版を購入できた。1991  
年・小倉タイムス発行で、瀬川貞太郎・  
植山光朗・古任智子編著となっている。  
増補総集版にある帆柱山と鉢立山の記事  
は初版では含まれておらず、「峠のコー  
スで下関火ノ山から足立山、ついで嘉穂  
郡高倉山、冷水峠、大川市の若津米相場  
所に連絡していた(43頁)とある。

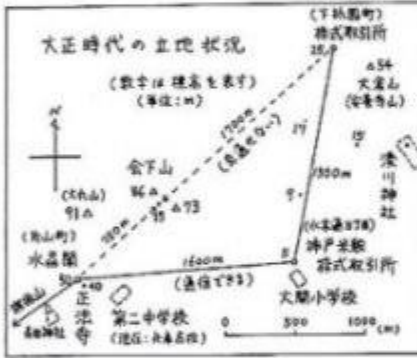
【旗振り山と正法寺(神戸市長田区)】

「旗振り山」をインターネット検索し  
たところ、「旗振り山と正法寺」という記  
事が見つかった(平成15年9月28日)。今  
まで全く関知していなかった内容であっ

この記事には、幾つかの間違いがある  
ことが、筆者の探求から明らかにになって  
いる。詳細については、インターネット  
検索で「瓦屋山正法寺」のホームページ  
を開くか、「歴史と神戸」243号(第  
43巻・第2号、平成16年4月)の拙稿「旗  
振り山と瓦屋山正法寺」をご覧ください  
たいと思うが、ここでは、概要をまとめ  
ておくことにしよう。

まず、右の記事から、「株の取引所  
(五郎池)―瓦屋山―旗振り山」という旗振  
り中継ルートが示唆されるが、神戸少年  
鑑別所(標高約25m)と正法寺(長田区片  
山町2丁目、標高約40m)を地図上で結ん  
でみると、会下山(標高約70m)が  
通ってしまうので、通信は不可能であり、  
このルートは成立しないことがはっきり  
する。

また、源池の五郎池があったのは現在  
の家庭裁判所(瓦田3丁目)の場所、少  
年鑑別所(下紙園町)の場所にあったの  
は少し大きいほうの十郎池であった。池  
は明治期に埋め立てられて、跡地に株式  
取引所が大正時代から戦前まで設置され、  
取引所の丸い建物は戦後も兵庫少年保護  
鑑別所として残っていた。



大正時代、正法寺の裏山の頂上に、谷  
口万治郎氏が旗振り通信に利用した水晶  
網があった。その標高は約50mであり、  
会下山(最高標高約70m)に中継所がな  
い限り、通信できないことから、正法寺  
の住職である船山俊彦さんと、父の玄  
英さんを訪ねて、確認したところ、言い  
伝えられてきている内容は「正法寺の開  
基である谷口万治郎さんが境内裏手の見  
晴らしのよい丘に建立したハイカラな2  
階建ての楼閣の水晶網で旗振り通信を行  
わせて、相場取引で大きな財産を築いた

正法寺(長田区)の境内の案内板(平成16年6月設置)



た。  
「この地は代々、素封家谷口家の瓦づく  
りの土を取り入れるところであり、近代  
においては米相場の変動を伝える旗振り山  
としても知られた。(瓦屋山史跡保存会  
記)」

「旗振り山と正法寺 県立兵庫高校の北西  
にある瓦屋山正法寺は地理的には丘の上  
にあります。この丘の東北の方角、現在  
の家庭裁判所(兵庫区瓦田町2丁目)の東  
向かいの少年鑑別所(兵庫区下紙園町)に  
五郎池という池があり、戦前、株の取引  
所になっていました。また須磨区と垂水  
区の区境、鉢伏山の北に旗振り山という山  
がありますが、ここはこの山で旗を振  
って、西の播磨地方に株の取引の相場を伝  
達するのでこの名がつけられました。正  
法寺のある瓦屋山は兵庫の五郎池と旗振  
り山の中間の見晴らしのよい丘であった  
ため、情報伝達の中継地となりました。  
大正元年の頃の事です。その後ずいぶ  
んと様子が変わりましたが現在正法寺の境内に  
旗の掲揚塔の基部だけが残っています。  
i(あい)タウン ながた「長田のまち  
再発見 わがまち自慢トーク瓦屋 宮川  
地区」より。」

ことだけであった。つまり、株式取引所  
との通信というのは、周囲の者の思い込  
みであったらしいのである。

さて、株式取引所(十郎池)が通信  
方向ではないとすると、水晶網では、ど  
こから信号を受けたのであろうか。大正  
元年当時、水木通3丁目には神戸米穀株  
式取引所(明治39年に設置、大正8年に神戸  
取引所に改称)があった(本誌64号)。この  
米穀取引所からは遮られることなく水晶

関を見通すことができる。通信が行われていたのは、おそらく、「神戸米穀取引所―水晶閣」であったことであろう。

正法寺は平成7年の阪神大震災で全壊したが、同9年には本堂（正法寺水閣閣）が再建された。住職は現地在旗振り山であったことを再認識し、ホームページ開設（平成14年）などで情報発信に熱心に取り組んでおられる。

正法寺のホームページは筆者の提供した資料を活用して、住職によって改訂（平成15年11月）され、より詳しく、正確なものに一新されている。

平成16年元旦には、お寺のかわら版「正法寺報 第6号」が発行され、その中に、水晶閣からの旗振り通信ルートの解明についての記事も掲載されている。同8月1日には「正法寺報 第7号」が発行され、境内の旗の掲揚塔（かつて水晶閣の側にあった）の横に設置された「旗振り通信中継所（長田の旗振り山）」の案内板（6月19日完成）が紹介されている。その内容は、筆者の意見も参考に、住職がまとめたものである。

#### 【京都地名散策】

通りで、筆者は、本誌57号で「小坂山かもしれない」と推定してはいたが、確定できないでいた地点であり、これによって、柳谷西山から小坂山を経て亀岡に送っていたことも裏付けできたことになる。石堂ヶ岡と京都・比叡山との中継地点であったこともわかった。安井さんの話では、旗振り場はアンテナの林立している小坂山の頂上で、土盛りがしてあったということである。

#### 【大学関係者の反響】

日本経済新聞の記事への反響には、大学のシステムマネジメント工学科、経営情報学部、情報管理論などの関係者や郵便史研究者などから、資料提供を求めるものもあった。

ホームページを見ると、平成16年3月および5月の慶応義塾大学総合政策学部の森平典一郎教授らによる「昇末期の室島橋合米（先物）市場のマイクログ・ストラクチャーとヘッジ機能の分析」の学会発表資料の中で、新聞記事から、旗振り速報に要した時間が引用されている。また、「歴史と神戸」234号・240号からは、旗振り通信網の地図が一部、転

筆者は、京都地名研究会（平成14年4月発足）の会員であり、京都新聞の「京都地名散策」の記事の依頼を受けて、京都府内の旗振り山（二石山、天王山、千峰山、相場の峰）について執筆した。その記事は平成15年12月5日（金）の京都新聞14面に「京都地名散策26―二石山」として掲載された（いずれ、京都地名研究会編集「京都地名探訪」という本となって平成16年に絶版出版より発行される予定である）。

#### 【旗振り速報の記事への反響】

平成16年2月17日（火）の日本経済新聞の文化欄に、筆者による「大阪の米相場 旗振り速報」の記事が掲載された。これは、日本経済新聞社大阪本社の岡松記者が京都新聞の記事を見て、依頼してこれたもので、2月2日に3時間に及ぶ取材を受け、基本文庫を提供することで、共同作業によって成稿したものである。全国紙であるだけに、直後に、いくつかの反響があった。

そのひとつは、2月18日に電話で聞いた、東大阪市の米屋、樋口嘉一郎さんの話である。「旗振りで米相場というのはあとから作った嘘話や。そんな話を記事載されている。森平氏らの研究「堂島米会所マイクログ・ストラクチャーとヘッジ機能」には、堂島米会所の取引仕方が要領良くまとめてあって、江戸時代の取引の仕組みがよくわかって便利なので、お勧めしておこう。

#### 【ある通信兵のおはなし】

平成16年5月7日配信のホームページ「ある通信兵のおはなし」に第76話「旗振り通信」があって、大阪から福岡方面への通信に40分を要したとあった。これは、どう考えても、大阪から広島まで40分（本誌62・75号）なので、作者に参考資料をお知らせしたところ、すぐに訂正していた（6月28日）。

#### 【神明山（相場旗山）の発見】

先に紹介した正法寺・小坂山のケースは、今後も、未知の旗振り場が見つかる可能性を示していると言える。平成16年8月1日、「相場旗山」をキーワードにインターネット検索していたところ、「神明山（別名 相場旗山71・6m）の三等三角点の探索」「四郷風致（神明山）」という記述を発見した。相場旗山

にしたら、大阪の人に笑われまっせ」といい「米相場はドンといわれた鴻池はんの事前情報でもうけたもんや。長者橋とこの山が近くにあるんや。旗振りなんぞ、うそ、うそ」との強い主張であった。昔の仕手職のことだろうが、旗振りなんぞ見たこともないという先代の話を信じ切っている様子。資料を集めてもないのに、こちらの話にはまったく聞く耳を持たない口調に、あきれってしまった。旗振りの資料を送したが、少しでもご覧になられたであろうか。

もうひとつの反響は、2月23日に届いた、安井庄次さんからのハガキで、「文化欄興味深く拝読しました。文中 大原野南春日町一四―一番地の該当地の所有者の亡父から米相場の中継地であったとは聞いていたのですが具体的にどのような方法で実行されていたのかは知らなかったです」とあった。

さっそく、電話して確かめてみると「新聞記事の図に、大原野が、通信が行われた可能性のある所として表示されていたので、場所がまだわからないのでは」と思われたとのことであった。全くその

の呼称は、米相場の旗振り場であることを示しており、今まで全く知らなかった地点である。

調査の結果、三重県四日市市西日野町の三等三角点「西日野村」（標高71・5m）を指すことがわかった。近鉄八王子線西日野駅の北西方向で、四郷小学校の北北東に位置している。

ホームページの作者、保田彰氏からの情報を得て、8月22日に現地を訪れ、四郷風致地区の公園の東端、春の丘の最高地点に、平成9年、日野親睦会によって設置された案内板に神明山（別名 相場旗山）の説明があることを確認した。案内板の背後は竹やぶで眺望はなく、欄のすぐ外側に三角点標石がある。説明によると、神明山の名称の由来は、この地に神明社が祭られていたため、明治40年に熊野神社（現在の日野神社）に合祀されたという。神明社は、伊勢神宮を勧請したもので、祭神は天照大神である。

明治当時、この山頂では四方を眺望でき、西へは羽木の山、東へは垂坂山へ米相場を双眼鏡と手紙信号で伝達したという。羽木の山は、南西方向、波木町北西の山（三等三角点「波木村」標高83・26m）



神明山頂の案内板 (平成9年4月建立)  
(四日市市西日野町)

と思われるが、操土地(標高約45m)となり、既に失われている。四日市四野高校の南方1<sup>km</sup>の地点である。  
四日市市の旗振り場については本誌59号で報告したが、萩義道氏の情報には神明山はなく、日永(登城山)の旗振り場の北北西1・4<sup>km</sup>に立地する。四日市は桑名からも近いので、旗振り場が多数設置され、忘れ去られた地点も多いのではないだろうか。

新たに姿を現すことでしょう。その日を楽しみにしています。

なお、地名・山名の語源や、京都府の山名リストなどの情報も今後、公開予定です。

連載の終わりに際して、文末には、連載一覧と総索引を掲げて、読者の便宜をはかるようにしましたので、ご利用ください。

【連載一覧(旗振り山)】

- (本誌に掲載した旗振り山のコースガイドおよび旗振り通信の研究の連載は次のとおり)
- 41号 高御位山と日笠山
  - 51号 国見山(国見岳)
  - 52号 相場坂山(田中山)
  - 54号 二石山(二谷山)
  - 57号① 文献紹介と京都・大津ルート
  - 58号② 滋賀県内ルート
  - 59号③ 三重県北部ルート
  - 60号④ 三重県中部ルート
  - 61号⑤ 奈良県内ルート
  - 62号⑥ 京都府南部・和歌山・江戸ルート
  - 63号⑦ 三田ルート
  - 64号⑧ 神戸ルート
  - 65号⑨ 姫路ルート

【高砂峰(兵庫東水上郡青垣町)】

ガイドブックに記載された旗振り山は、ほとんど調べたつもりであったが、平成16年8月10日に、慶佐次盛一「兵庫丹波の山(上)」「ナカニシヤ出版、平成3年」の「高砂峰と榎峰」を読んでいて、高砂峰が米相場の旗振り山であることに初めて気付いた。

さっそく、出典とされる『青垣町誌』(昭和50年)を調べると、「釜山に立って相場を知らず旗振りを受け、それを町人に知らせた。釜山は米に関係深い酒にちなんで旗振りうたとこの名になったという」(二八一頁)と古老の話が載っている。

『青垣町誌』(二四頁)には「サカズキ山(五六八頁)」とあるが、間違いのようで、『兵庫丹波の山(上)』によると、地元佐治では、北東の高砂峰(標高420m)を高砂山、サカズキ山と呼ぶとのことである。通信方向と見直しを考えると、南南東へ加古川の流れの上を越えて水上町の霧山へ中継したものと考えて間違いないだろう。

【神出旗振り山について】

兵庫県立図書館の郷土資料の中に、藤

井昭三「神出むかし物語」(友月書房、2004年3月)があり、筆者の「歴史と神戸」234号と240号の報告から「旗振り通信ルート」の図と資料が引用されていた。

旗振りが行われた神出旗振り山の地元での名称は「お茶山」で、江戸時代、明石藩王の別荘「お茶屋」があり、「お茶屋山」が「お茶山」と呼ばれるようになったという。

【筆者のホームページについて】

本誌77号で知らせたホームページを開くには、グーグル等の検索で、その呼称の「ものがたり通信」を入力してください。

ホームページを作成したのは平成16年2月8日以降で、同4月17日に、初めて公開しました。テーマは「四周年」「山」「旗振り通信」「鳥の聞きなし」「メルセッスンヌ素敵」「超ウラン元素」「プロフィール」です。

「旗振り通信ものがたり」では、本連載の内容を「Q&A」形式で、コンパクトに紹介し、旗振り場情報も満載しているので、いずれ、知られざる旗振り場が

【山名・地名 総索引】

- (前掲の連載一覧から選んだもの。数字は本誌の号数を表す。)
- あ 阿武山57・63・73 安養寺山58
  - あ 雨山58・75・77 朝日59・60・63
  - 安楽天皇陵61・70 赤穂高山65・69
  - 雨岩(菩提寺山)58・77
  - 尼崎長巳橋64 麻生山65・69・73
  - 青谷山60 雨乞山(小野)73
  - 足立山73
  - い 石堂ヶ岡57・58・63・77 生桑59

- 石戸山67 若戸山(小嶽山)58・66・77
- いね谷山↓妙見山 色見山69
- う 上野(本城山)60 雲山峰(落合山)62
- 魚橋山↓北山奥山
- え 越前ルート58 江戸ルート59・62・75
- お 大原野(小嶽山)57・79 大木山67
- 小嶽山十三仏(若戸山)58・66・76・77
- 岡山(四日市)59
- 大平山(地連山)41・65・72・75・76
- お経塚60・75・79 大坂山(花町)67
- 桶居山67・72 大宮町・大内山村68
- 大平嶺山69 大跡山69
- 落合山↓雲山峰 蓬坂山↓小関山
- 上野西山(雲登山・鶴屋山)59・60・62・68
- 養生59 和坂(かながさか)64
- 感心寺山(三國ヶ嶽)63・66・70・72
- 金ヶ崎山65 神出旗振り山66・79
- 観音寺山69 金園山73
- 行者山58 岸岡山60・77
- 久安寺61・63 北野大平山↓大平山
- 紀州今畑62 金鳥山64・65・72
- 北山奥山41・65・72 基山73
- 米住の山(小野)66 霧山67・72
- 国見山(国見岳)51・61
- 黒岩山66 熊山70・78 黒鉄山69
- 時峰61・77 桑名取引所59

け 見当山(二身田) 60 見当山 60・63  
 芥子山 70 見当山(岩間山) 60・76  
 見当山古蹟 76

こ 小関山(相模山) 57・58・68・77・79  
 荒神山 58 神野山 61・66  
 交野山 62・66 神於山 62・66  
 金輪山(龍野片山) 69 古処山 73  
 佐和山 58 桜町 59 孟山(青垣町) 79  
 さんしょう山 63・66 皿山(笠岡市) 70  
 三角山(秋) 73 眼倉山(帆柱山) 73  
 三角山(揚巻) 67 板山 58  
 三本松→千里山 三本杉→多度山  
 十三峠 57・61・70 志方城山 66・77  
 什手倉山 70 正法寺(長田区) 79  
 地徳山→大平山 小豆島 70  
 神明山(相模山) 79

す 粟訪山 64 炭屋台(赤地) 69  
 千里山(三本松) 57・63・78  
 千里丘中 57 千鉢山 62

そ 相場山(大津) 57・58・68・77・79  
 相場山(野洲) 52・58・66・75・77  
 相場山(野洲) 58(せせらぎ)  
 相場山(土山) 58・59・68・76  
 相場山(経路・太市) 65  
 相場山(生物山系)  
 →久安寺・南畑・高安山

し 相場山(四日市・神明山) 79  
 相場取山(童生) 61・76  
 相場取山(高峰山) 61  
 相場の峰(笠置) 62 相場ヶ裏山 69  
 高浜神社 57 垂坂山 59 高砂峰 79  
 多度山(三本杉) 59・68・75・77  
 高岡山 60 高野山(上野) 60・70・76  
 高安山 61・63・68 高山(赤地) 65・69  
 高峰山(相模取山) 61 高取山 64  
 但馬ルート 67 高畑山(兵庫) 67  
 大師山 69 高旗山(野洲) 70  
 田中山→相場山(野洲)  
 千歳山 60・68 竹林寺山 70  
 天王山 57・58 天照山 61  
 天神山(朝日) 60 天保山 62  
 天狗山 69・73・76  
 塔の峯 60・63 遠見塚 60  
 桐尾山 64・78

な 中尾東山 65 鳴尾山 66・67・77  
 長等山→小関山(せせらぎ)  
 二石山(谷山) 54・57・68・74  
 西宮(東三) 64 西大平山 70・73  
 布引山 60  
 ネムル沢(岡崎) 62  
 長谷山 60 旗山(伊賀) 60・62・63・72  
 旗山(交野) 62

ね 旗山(須磨) 64・65・70・71・78  
 旗山(新巻) 64 旗振り峠 66  
 八幡山(朝日) 60・63  
 畑山(西宮) 63  
 畑山(明石・大津谷旗山) 64・65・70  
 畑山(経路・豊高) 67  
 旗ヶ峰(上野) 68 旗ヶ原山 68  
 八方台(東福浦山) 69  
 旗ヶ台古墳 70・78  
 波木(羽木)の山 79  
 旗振り台(西大平山) 70  
 日永 59・60 振島(磯島) 64  
 日差山 70 比叡山 57 冷水峠 73  
 火の山(新巻)→兩山  
 火の山(下関) 73 東風閣山 73  
 舟岡山(船岡山) 58・77 福智山 73  
 二石山→(にこくさん)

ふ 善徳寺山 58・77 本阿弥新田 59  
 宝台山 69 本城山(河巻) 60  
 鉢立山 79  
 松屋新田 57 升田山 66  
 南畑 61・63・70 明神山 61  
 三國ヶ嶽(盛形寺山) 63・66・70・72  
 南山(御岩火の山) 65 三草山 66・67  
 妙見山(山南・いね谷山) 67  
 操山 70 耳納山(箕山) 73

は 中島神男 58(せせらぎ)  
 中島利一郎 70  
 日本史小百科「交通」 66・72  
 日本史小百科「通信」 68・72・73  
 西羽昇 59・77 西村忠政 63  
 狼煙(レール)尾道 66・72  
 のろし山 58・61・66・67 のろし場 66  
 のろし 61・63・72・73・78  
 旗振り通信の文獻 57・74  
 旗振り通信の起源 61・75  
 旗振り通信の模型 62  
 旗振り通信の遺跡 66(矢印)・54  
 (旗巻)・70(四角立・旗巻台)  
 旗振り通信の記念石碑 72(大平山)・77(石室・岡)

ひ 旗振り通信の絵図(日本交通協会) 68  
 旗振り通信の写真 74  
 旗振り通信の所要時間 75  
 旗振り通信の道具 75  
 旗振り通信の方法 75・77  
 旗振り通信の山の呼称 76  
 旗振り通信の再現→再現実験  
 旗振り師(旗巻り人) 76  
 旗振り茶屋の説明板 64  
 旗掲載表 60・62・75  
 火の旗 62・73 火燭相場 70

む 武蔵川堤 64 向谷山→柳谷西山  
 や 柳谷西山(大沢山) 57・63・66・76  
 よ 通照山 70  
 り 竜王山(兩山、善興寺山) 58

【人名・事項・文獻 総索引】  
 (項目は主要なものに限定した)

あ 明石市立文化博物館 75  
 油相場 57・76  
 池田末則 57・58・61・63・71・74  
 池田裕 62・72  
 インターネット検索 62・63・72・78・79  
 ウルトライアイ 71・75 腕木通信 74・78  
 内田康夫 78

お 岡長平 63・69・71・77・78 岡竹治 69  
 太田二郎 58 落合重信 63・65・67・71  
 オカニチ 78  
 尾張の道跡と遺物臨時号 59

か 川合隆治 59・62・68・75・77  
 余谷信之 78 株式取引(守山) 57・76  
 海軍の手旗信号 78 貨幣と米備 76  
 岸和田中学校 68 喜田貞吉 61  
 紀伊国原文左衛門 61  
 木谷幸夫 65・72  
 桑島一男 69・71・72・76・78  
 黒田実三郎 65・71(写真)・75・76

く 桑名の夕市 66・77  
 倉田正邦 60・68・77  
 慶佐次盛一 63・66・67  
 近藤文二 57・58・62  
 小林秀樹 58・68 小林茂 63・65  
 米取引のしくみ 76  
 上月輝夫 64・66・77  
 神戸新聞 59・62・63・65・71・75  
 再現実験(大津) 57・63・66・71  
 再現実験(両山) 69・71・78  
 山陽新聞 76  
 情報夜話 78 四角立(西大平山) 70  
 正法寺(長田の旗振り山) 79  
 杉山和吉 59・68・75・77  
 杉本壽 68 鈴木昭一(望遠鏡) 75  
 双眼鏡 61・75  
 相場通信の山の呼称 76  
 高橋善七 68・72・73  
 通信協会雑誌 59・68(全文)・70  
 通信総合博物館資料(模型) 62  
 同博物館資料(複製品目録) 62・77  
 同博物館資料(切手資料) 68  
 寺脇弘光 65 伝言鳩通信 74  
 電話 76 電報料金 76・78  
 東京米穀取引所 75 土井一夫 65・75  
 中島神男 57・58・59・66・74・76

な 中島神男 58(せせらぎ)  
 中島利一郎 70  
 日本史小百科「交通」 66・72  
 日本史小百科「通信」 68・72・73  
 西羽昇 59・77 西村忠政 63  
 狼煙(レール)尾道 66・72  
 のろし山 58・61・66・67 のろし場 66  
 のろし 61・63・72・73・78  
 旗振り通信の文獻 57・74  
 旗振り通信の起源 61・75  
 旗振り通信の模型 62  
 旗振り通信の遺跡 66(矢印)・54  
 (旗巻)・70(四角立・旗巻台)  
 旗振り通信の記念石碑 72(大平山)・77(石室・岡)

ひ 旗振り通信の絵図(日本交通協会) 68  
 旗振り通信の写真 74  
 旗振り通信の所要時間 75  
 旗振り通信の道具 75  
 旗振り通信の方法 75・77  
 旗振り通信の山の呼称 76  
 旗振り通信の再現→再現実験  
 旗振り師(旗巻り人) 76  
 旗振り茶屋の説明板 64  
 旗掲載表 60・62・75  
 火の旗 62・73 火燭相場 70

け 見当山(一身田) 60 見塚山 60・63  
芥子山 70 見当山(岸岡山) 60・76  
見当山古墳 76

こ 小関山(相模山) 57・58・68・77・79  
荒神山 58 神野山 61・66  
交野山 62・66 神於山 62・66  
金輪山(龍野片山) 69 古処山 73  
佐和山 58 桜野 59 蓋山(宮垣野) 79  
さんしゅう山 63・66 黒山(宮垣野) 70  
三角山(巻) 73 黒倉山(帆柱山) 73  
三角山(巻) 67 桜山 58  
三本松→千里山 三本杉→多度山  
十三峠 57・61・70 志方城山 66・77  
仕手倉山 70 正法寺(長岡区) 79  
地徳山→大平山 小豆島 70  
神明山(相模山) 79

す 瀬訪山 64 茨原台(赤穂) 69  
千里山(三本松) 57・63・78  
千里丘中 57 千鉢山 62

そ 相模山(大津) 57・58・68・77・79  
相模山(野洲) 52・58・66・75・77  
相模山(野洲) 58(せせらぎ)  
相模山(土山) 58・59・68・76  
相模山(巻路・太市) 65  
相模山(生駒山系)  
→久安寺・南畑・高安山

し 相模山(四日市・神明山) 79  
相模取山(養生) 61・76  
相模取山(高峯山) 61  
相模の峰(笠置) 62 相模ヶ原山 69  
高峯神社 57 垂坂山 59 高砂峠 79  
多度山(三本杉) 59・68・75・77  
高岡山 60 高取山(上野) 60・70・76  
高安山 61・63・68 高山(赤穂) 65・69  
高峯山(相模取山) 61 高取山 64  
但馬ルート 67 高畑山(兵衛) 67  
大師山 69 高取山(野洲)  
田中山→相模山(野洲)  
千歳山 60・68 竹林寺山 70  
天王山 57・58 天照山 61  
天神山(朝日) 60 天保山 62  
天狗山 69・73・76  
塔の峯 60・63 遠見塚 60  
塔尾山 64・76

と 中尾東山 65 鳴尾山 66・67・77  
長等山→小関山(こせきやま)  
二石山(谷山) 54・57・68・74  
西宮(東三) 64 西大平山 70・73  
布引山 60  
ネムル沢(調峰) 62  
長谷山 60 旗山(伊豆) 60・62・63・72  
旗振山(交野) 62

な 桑名の夕市 66・77  
倉田正邦 60・68・77  
藤次盛一 63・66・67  
近藤文一 57・58・62  
小林秀樹 58・68 小林茂 63・65  
米取引のしくみ 76  
上月輝夫 64・66・77  
神戸新聞 59・62・63・65・71・75  
再現実験(大津) 57・63・66・71  
再現実験(岡山) 69・71・78  
山陽新聞 76

し 情報夜話 78 四角立(西大平山) 70  
正法寺(長岡の巻路り山) 79  
杉山和吉 59・68・75・77  
杉本壽 68 鈴木昭一(望遠鏡) 75  
双眼鏡 61・75  
相模通信の山の呼称 76  
高橋善七 68・72・73  
通信協会雑誌 59・68(全文)・70  
通信総合博物館資料(模型) 62  
同博物館資料(展示目録) 62・77  
同博物館資料(切手資料) 68  
寺脇弘光 65 伝書鳩通信 74  
電話 76 電報料金 76・78  
東京米穀取引所 75 土井一夫 65・75  
中島伸男 57・58・59・66・74・76

は 旗振山(須磨) 64・65・70・71・78  
旗振山(新巻) 64 旗振り峠 66  
八幡山(朝日) 60・63  
畑山(西宮) 63  
畑山(朝石・大蔵谷旗山) 64・65・70  
畑山(姫路・豊高) 67  
旗ヶ峰(上野) 68 旗護山 68  
八方台(東福福山) 69  
旗振台古墳 70・78  
旗木(羽木)の山 79  
旗振り台(西大平山) 70  
日永 59・60 姫島(舞島) 64  
日差山 70 比叡山 57 冷水峠 73  
火の山(須磨)→南山  
火の山(下関) 73 東風鶴山 73  
舟岡山(船岡山) 58・77 福智山 73  
二石山(こくさん)  
菩提寺山 58・77 本阿弥新田 59  
宝台山 69 本城山(河野) 60  
鉢立山 79  
松原新田 57 升田山 66  
南畑 61・63・70 明神山 61  
三國ヶ嶽(巻山) 63・66・70・72  
南山(御着火の山) 65 三草山 66・67  
妙見山(山南・いね谷山) 67  
操山 70 耳納山(寛山) 73

む 武蔵川堤 64 向谷山→柳谷西山  
や 柳谷西山(大沢山) 57・63・66・76  
よ 通照山 70  
り 竜王山(岡山・菩提寺山) 58

【人名・事項・文献 総索引】  
(項目は主要なものに限定した)  
あ 明石市立文化博物館 75  
油相場 57・76  
池田末則 57・58・61・63・71・74  
池田裕 62・72  
インターネット検索 62・63・72・78・79  
ウルトラアイ 71・75 駿木通信 74・78  
内田康夫 78  
お 岡長平 63・69・71・77・78 岡竹治 69  
太田二郎 58 落合重信 63・65・67・71  
オカニテ 78  
尾張の道跡と遺物臨時号 59  
か 川合隆治 59・62・68・75・77  
金谷信之 78 株式取引(守山) 57・76  
海軍の手旗信号 78 貨幣と米価 76  
岸和田中学校 68 喜田貞吉 61  
き 紀伊國屋文左衛門 61  
木谷幸夫 65・72  
く 桑島一男 69・71・72・76・78  
黒田実三郎 65・71(写真)・75・76

な 桑名の夕市 66・77  
倉田正邦 60・68・77  
藤次盛一 63・66・67  
近藤文一 57・58・62  
小林秀樹 58・68 小林茂 63・65  
米取引のしくみ 76  
上月輝夫 64・66・77  
神戸新聞 59・62・63・65・71・75  
再現実験(大津) 57・63・66・71  
再現実験(岡山) 69・71・78  
山陽新聞 76

し 情報夜話 78 四角立(西大平山) 70  
正法寺(長岡の巻路り山) 79  
杉山和吉 59・68・75・77  
杉本壽 68 鈴木昭一(望遠鏡) 75  
双眼鏡 61・75  
相模通信の山の呼称 76  
高橋善七 68・72・73  
通信協会雑誌 59・68(全文)・70  
通信総合博物館資料(模型) 62  
同博物館資料(展示目録) 62・77  
同博物館資料(切手資料) 68  
寺脇弘光 65 伝書鳩通信 74  
電話 76 電報料金 76・78  
東京米穀取引所 75 土井一夫 65・75  
中島伸男 57・58・59・66・74・76

は 旗振山(須磨) 64・65・70・71・78  
旗振山(新巻) 64 旗振り峠 66  
八幡山(朝日) 60・63  
畑山(西宮) 63  
畑山(朝石・大蔵谷旗山) 64・65・70  
畑山(姫路・豊高) 67  
旗ヶ峰(上野) 68 旗護山 68  
八方台(東福福山) 69  
旗振台古墳 70・78  
旗木(羽木)の山 79  
旗振り台(西大平山) 70  
日永 59・60 姫島(舞島) 64  
日差山 70 比叡山 57 冷水峠 73  
火の山(須磨)→南山  
火の山(下関) 73 東風鶴山 73  
舟岡山(船岡山) 58・77 福智山 73  
二石山(こくさん)  
菩提寺山 58・77 本阿弥新田 59  
宝台山 69 本城山(河野) 60  
鉢立山 79  
松原新田 57 升田山 66  
南畑 61・63・70 明神山 61  
三國ヶ嶽(巻山) 63・66・70・72  
南山(御着火の山) 65 三草山 66・67  
妙見山(山南・いね谷山) 67  
操山 70 耳納山(寛山) 73

平岡義59・62 樋口清之62・75  
 穂積玄福57・60・61・62・68・73  
 風俗尚書58・74・75  
 福田アジオ57・74  
 米俵78  
 ほ 望遠鏡62・66・68  
 ま 望遠鏡の写真71・75 堀田吉雄77  
 み 三重の古文化59・68 三井家62・76  
 め 南方無橋61 水谷興三郎62・75・76  
 や 山崎家子60・63・68 山下俊郎65・70  
 よ 吉井正彦57・64・65・69・71・74・75  
 ら 吉井正彦58(せせらぎ)  
 れ 従属城五郎78  
 歴史と神戸(木谷論文)65・72  
 歴史と神戸(栗田論文)68・74・79  
 歴史と神戸(黒坂山について)64・78  
 歴史と神戸(山田宗作)66

【まとめ】  
 平成13年から16年まで4年間、23回にわたって連載してきた「庶振り通信の研究」も今回をもって完結することになりました。  
 従来、庶振り通信だけをテーマにした  
 単行本が一冊も出版されていない理由としては、資料不足ということに尽きると思っています(本誌57号で紹介した古谷勝氏の本は内部レポートで、市販本ではないので除外します)。  
 連載の終了に際して、今、ようやく、単行本としてまとめられるだけの材料を揃えることができたように思います。いずれ、「庶振り山」というタイトルでまとめたいと考えているところです。  
 庶振り通信ルートについては、まだまだ、未知の部分が多く、興味は尽きません。その謎の解明を私自身のライフワークとして今後も継続していきたいと考えています。  
 将米、新しい情報が得られましたら、再び報告することを約束して、連載の筆をおきたいと思えます。(おわり)  
 (平成15年11月24日追記)  
 (平成15年12月17日追加)  
 (平成16年8月4日・25日改稿)

## 岩場の表参道から 三上山(近江富士)登山

コースとコースタイム 三上山(約55分) 三上山(約55分) 三上山(約55分) 三上山(約55分)  
 正文化公園(1時間10分) 三上山(約55分) 三上山(約55分) 三上山(約55分)

### 中村 敏文

野洲川下流の沖積平野に秀麗な山容を誇る御上神社の神体山を目指し、70歳代前後の20名が真夏7月の一日をかける。9時30分にJR野洲駅を出発し、西へ南へと足慣らしに小1時間も歩くと、天之御影命を祭る式内の古社御上神社へ到着する。

御上神社(野洲町三上)  
 延喜式の名神大社で神位は従五位から従二位まで昇叙し、近代の社格は郷社となりその後、官幣中社に昇格している。  
 鎌倉時代創建の国史指定の本殿は神殿と仏堂建築を加味した御上造で、本殿

とはほぼ同形式の平安末創建説のある拝殿、三間一戸の檼門、鎌倉期作の木造給犬、および若宮神社本殿は重文指定である。  
 御上神社は伝承では第七代孝靈天皇の御代に天之御影神が三上山頂に降臨し、元正天皇の養老二年(718)に藤原不比等が現在地に社殿を建立とある。  
 境内の説明板には天之御影命は天照大神の孫で、記紀には御影神の繪が四道符軍日子、坐王の三人目の妻となるとある。  
 神社両側の大鳥居をくぐり、国道8号線を渡ると悠紀高田記念田がある。5月の第四日曜の御田植祭が有名で、一角に開拓当時の写真を展示した建物がある。

三上山雄山山頂



高田の横を通り三上の山出果落に入ると、三上山登山道に入る。一對の石灯籠がある。天保一換義民の碑前を通り打越を越える道と、三上山北側の急斜面を登る登山道がある。

三上山登山  
 石灯籠の間の小道を抜けて右へ折れ、小橋を渡ると急斜面の表参道に入る。斜

観光バスなら 確実第一の  
**太陽観光開発(株)へ!!**

- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカーからデラックスまで  
**スキーバスもあります**

〒578-0971 東大阪市溝池本町1-20 オカダビル4F  
 電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983  
 夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

◀新ハイキング選書 第8巻▶  
**旅がらすの山**  
 (紀行文集) 富田弘平著  
 上製本・B6判/368頁(カラー8頁)写真  
 ・スケッチ・図版多数 定価1835円(税込)  
 高い山から、石仏みち、観音を拝み  
 写生行あり、孤島を訪ねる紀行文集

◀新ハイキング選書 第14巻▶  
**百歳までの山登り**  
 (紀行と随筆集) 富田弘平著  
 上製本・B6判/360頁(カラー8頁)写真  
 ・スケッチ・図版多数 定価1835円(税込)  
 日本最北端の宗谷岬から、最南端の  
 流洲阿島まで、百歳を目指しての紀行集



鉄の手摺りをつけた岩場の表参道

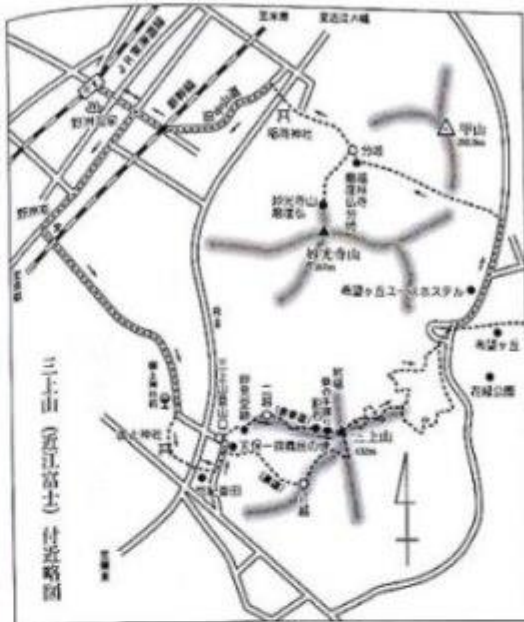


三上山山頂磐座の広場 (428m)

三上山(432m)の頂上で、樹木が繁茂していて展望はよくない。  
 雄山(432m)の頂上で、樹木が繁茂していて展望はよくない。  
 希望ヶ丘文化公園へ下山  
 三上山からの下山は奥宮島居横の道標から三上雄山の東宮主を経て妙見堂跡・天保一揆義民の碑へくだる裏道もあるが、天候が悪いので野洲駅へのバス便がある希望ヶ丘へ向かう。土留めをした木の附

段をくだり、ジグザグ道をくだると、健脚向きの直線急坂コースと曲折する一般コースの分岐がある。  
 急坂コースを一気にくだると案内板は花緑公園への巻き道を示している。  
 天候が回復してきたので太陽をさけ、左へと分岐する山麓に近い巻き道に入る。山腹を伝う森林のなかを抜けるゆるい起伏を繰り返す幅の狭い山道で、踏み跡を

見ても利用者は少ないようだ。人影も無く30分余りで希望ヶ丘の西ゲート近くへ出た。  
 希望ヶ丘から野洲駅へ  
 土地の人に聞いてユースホステルの500円先から甲山と妙光寺山の鞍部へ入り、ゆるい起伏を繰り返す谷川沿いの小道を北へ抜ける。山と山に挟まれた歩きやすい地道で、途中に福林寺跡磨崖仏や、妙光寺山磨崖仏への分岐があるが、小休止するため福林寺へ直達する。  
 福林寺から国道8号線を横切って旧中山道に入り、新幹線下をくぐって野洲町役場前になると、駅前の野洲温泉「ほえみ乃湯」が見える。  
 野洲温泉で休憩との声も出たが、小雨のなかでの岩場登りがこたえたのか、そのまま野洲駅へ直行する。



面を利用した高さと同幅がまちまちな石段道が続く。琵琶湖の水位が高かった古代に神が魚釣りをした魚釣り岩を過ぎると、石段は木の段となり歩きにくい気分はやわらぐ。30度を超える真夏だが樹木に囲まれた山中はひんやりとして暑さは感じない。表参道口から450mも登ると妙見堂跡という広場に着く。石灯籠と礎石が散乱する草原広場で小休止する。  
 案内板を見て広場の右奥の登山道に入ると木の根が縦横無尽に露出し、気をつかって一越まで登り切ると、道標の示す先に展望のきく岩場がある。  
 あいにく雨雲が空に広がり、眼下の湖東の町は見えるが、眺望できるはずの

両南アルプスや比叡山系は霞がかかって見えない。  
 二越から木の根道を少し上がると二つに割れた大きな割岩が現れる。横向きになってやっと崩岩を抜けると登山道の難所で、散乱した岩場の道が続く垂直に近い岩登りとなる。岩場は鉄の手摺りをつけて整備してあるので時間をかければ上れる。小雨が降り始め露草を濡らすので細心の注意を促しながら鎖や手摺りを利用して、ようやく岩場を登り切ると御上神社奥宮と警隊のある広場に着く。天之御影命が降臨した古代を偲びつつ、標高428mを示す看板のある広場で昼食をとった。  
 三上山山麓は古墳が散在しているが、古代は安国造の本貫地であったという。安国造のもとで御上神を祭祀した御上安国造の御子である日子坐王の妻となる御影命の娘である思長水依比売も仲哀天皇皇后の神功皇后(氣長足姫尊)も湖東の同係累であると思える。  
 磐座下の脇道に入ればパノラマ板の置かれた展望台があって、晴天ならば眺望を深められるが、天候が悪くて見えない。奥宮の右側の小道を上ると三上山



表参道

面を利用した高さと同幅がまちまちな石段道が続く。琵琶湖の水位が高かった古代に神が魚釣りをした魚釣り岩を過ぎると、石段は木の段となり歩きにくい気分はやわらぐ。30度を超える真夏だが樹木に囲まれた山中はひんやりとして暑さは感じない。表参道口から450mも登ると妙見堂跡という広場に着く。石灯籠と礎石が散乱する草原広場で小休止する。  
 案内板を見て広場の右奥の登山道に入ると木の根が縦横無尽に露出し、気をつかって一越まで登り切ると、道標の示す先に展望のきく岩場がある。  
 あいにく雨雲が空に広がり、眼下の湖東の町は見えるが、眺望できるはずの

# 高野山金剛峯寺へ詣でて

松永恵一

真言宗

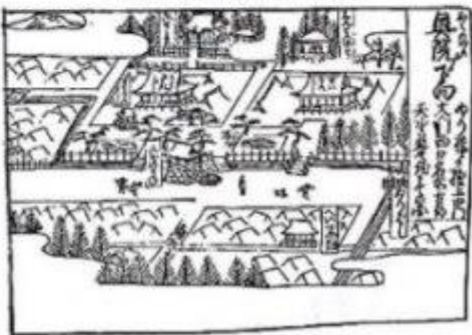
真言宗は、弘法大師（空海）の立教開宗による、仏教の心髄の教えを説く密教の宗派である。お大師さまが唐の都長安（西安市）の青龍寺で、密教の伝承の第七番目の祖惠果和尚より授かった教えを広く伝えるために開かれた。

密教の根本の仏様は、宇宙の本体であり絶対の真理である大日如来である。真言は「オンアビラウンケンバザラダトバン」とお唱えする。菩提心を発し仏の誓願を堅く信じ、すべてのものの本性が清浄な心であることをありのままに知る。この世のすべてのものを愛する心と、真実を求める心を堅く持って、行いと言葉と心のすべての働きを通じて、真理を悟

り、実践する仏の智慧に気づくことにより、大日如来の智慧に目覚めると教える。

高野山真言宗は、弘法大師を宗祖とし金剛峯寺（和歌山県伊都郡高野町）を総本山とする真言宗の中心宗派である。宇宙のすべてのものが、大日如来の「いのち」の顕れとして平等であり、相互に助け合うことによって、その「いのち」を生かし、すばらしい個性を発揮すること。すべての人々が、菩提の心を因として、慈悲の心を根本として、平和社会の建設を目指すこと。「生かせ いのち」を基調テーマに、弘法大師の「共利群生」という共存共生の精神に立って、すべての、「いのち」の世界を生かす福祉社会を目

青巖寺・興山寺「高野社案内」



指している。

お大師さまは、お名前が「空海」で諡名を「遍照金剛」とお呼びする。宝龜五年（774年）6月15日に、現在の香川県善通寺市で誕生になり、未采永坊に渡って衆生を救済すると御誓願され、承和二年（835）3月21日に高野山の奥の院で御入定なされた。お大師さまを拜むときの御室号は、「南無大師遍照金剛」とお唱えする。

## 総本山金剛峯寺

金剛峯寺は高野山一山のはば中央にある。もともと金剛峯寺は高野山全域の総称だった。明治維新により高野三方（字 磨・行人・聖）が廃止され、青巖寺・興山寺を統合して総本山金剛峯寺とした。この地は弘法大師の甥で高野山第二世座主真然大徳（傳燈國師）の廟所だった。昭和六三年、真然廟の解体修理が行われ納付器（縁起花文四足壺）が発見されている。

天正十二年（1585）3月、豊臣秀吉は紀伊根来寺を攻撃増城させた。さらに難波の一向一揆を滅亡に追い込むと、高野山に屈服を迫った。この増城の危機を救ったのが木直心上人だった。秀吉は高野山の復興を奨励した。天正十八年（1590）興山寺を、文禄二年（1593）には亡き母大政所の菩提のために青巖寺を建立し、応其上人を住寺とした。金剛峯寺本殿は文久二年（1862）の再建。全国3600余りの真言宗寺院を統括する総本山で、家務一切を司る宗務庁があり、高野山真言宗管長兼金剛峯寺座主（住持）の住坊にもなっている。

## 高野山霊宝館

長い歴史の中で栄枯盛衰を繰り返してきた高野山には、膨大な量の文化財が伝わる。高野山霊宝館は大正一〇年（1921）に開館した。国宝・重要文化財をはじめ5万点以上の仏像・書画などを収蔵する。大正時代に建てられた本館は、木曾駒屋貞木博達造りで登録有形文化財に指定されている。当初は常設展と名付けられた正殿を中心にして、西翼を持つ宇治の平等院鳳凰堂様式として設計されたが、費用の関係から右翼の建設が見送られたまま現在に至っている。

『聖徳太子』(国宝)は、連筆で知られる弘法大師の自筆本、やや右肩上がりになり力強く書かれている。金銀字一切経(国宝)は、平泉中尊寺へ奉納された経巻で、奥州藤原氏の栄華を伝える。仏涅槃図(国宝)の巻裡で気品あふれる表現は、日本仏画の最高傑作といわれている。両界曼荼羅(重宝)は、平清盛が頭の血を絵の具に混ぜて描かせたことから直曼荼羅とも呼ばれる。弘法大師が請来されたといえる諸尊仏像(国宝)。西塔の本尊・大日如来座像(重宝)、八大童子像(国宝)など見るべきものは多い。

## いろはうた(伊呂波歌)

いろはにはほへとちりぬるをわかよたれそつねならむうゑのおくやまけふこえてあさきゆめみしあひもせず

ひらがなを、重ね字なく七五調四句に並べて読みこんだ四十七字の歌を、「いろは歌」という。末尾に「ん」や「京」を加えて四十八字とし、手習いの手本や物の類書を示す一連番号の代りに使われた。しかし、「あ」や「い」という字が使われなくなったこともあって、もろんじて言える人は減る一方である。世の中すべて移り変わるのが原則だから、物に執着する迷いをすてて生きよ、と教える『涅槃経』の四句を和訳した仏教的人生訓は、弘法大師の作とも伝えられるが、実はその死後の平安中期に作られたものである。いろは歌を七文字で折り返して記すという行の終わりに「とかなくてしす(巻無く死す)」という首語が浮かび上がってきた。赤穂四十七士の討ち入りの歌舞伎の題名は「仮名手本忠臣蔵」。『蔵』は大石蔵之助、「仮名手本」は、「いろは歌」のこと。時代を鎌倉に設定し、名前を替えて、幕府の衰きを批判していることは、江戸時代には周知の事実だった。





蟠龍庭

コース概観

お大師さまの生きておられるお山高野山には、膨大な量の文化財がある。それらは遺産ではなく、生き続けている。「私は私たちの、心の中にいらっしやるのです。」とお大師さまは説かれた。高野山真言宗総本山金剛峯寺と、高野山に伝来する我が国の、いや世界の、人類の至宝、かけがえのない文化遺産と対話するために出かけてみた。



(88)の大きな釜に圧倒される。三つのかまどで二石の米を一度に炊くことができる。スズで真つ黒になった柱や梁が歴史を物語る。かまどの上には「寶米飾紙」が張られている。家運を隆昌させ、魔を除き福を招くしめ飾りで、「壽」という字や干支の動物が切り抜いてあり、仏間・床の間・玄関などに一年中張り飾る。つり戸棚には屋根のようななわすみ返しがつけられていて微笑ましい。総本山金剛峯寺を出て西側を見ると、石垣の上に鐘樓が建っている。福島正則

南海高野山駅からバスで金剛峯寺前下車。南に駐車場、北側が高野山総本山金剛峯寺の表門。春はシダレザクラが風に揺れ、秋は鮮やかな紅葉が参道に彩りを添える。明治二年金剛峯寺と改称されるまで青巖寺と呼ばれていた。石段の参道の両側に水を張った桶がずらりと並び、高野山真言宗の五三の制紋と三つ巴紋の入った提灯が置かれている。

正面に檜皮葺書院造の大主殿。東西三十三間・南北三十五間の豪壮な建物が迎える。右に大玄関。屋根上には、水を蓄えた大きな木桶が備えられている。大玄関を入っている。高野横と高野杉の大きな株が置かれている。大広間の「松に群鶴」、梅の間の「梅月流水」の襖絵は狩野探幽の筆。豊臣秀次が自刃した梅の間に狩野探幽の「雪柳白鷺」が板戸に描かれている。豊臣秀次の母は豊臣秀吉の姉、瑞龍院日秀(とも)。天正十九年(1591)、秀吉の長男鶴松が夭折したため、秀吉の養子となり、関白の地位を継ぐ。文禄二年(1593)秀頼が誕生し、しだいに秀吉に疎んじられるようになる。文禄四年(1595)7月8日、秀吉の逆鱗にふれ

が母の追善菩提を祈って元和四年(1618)に建立した六時の鐘。寛永七年(1680)に焼失したため、子供の正利が志を継いで再興した。朝6時から夜10時まで2時間おきに時刻を知らせている。銘文に「これを打てば、一切の無道頓に停止を得、是を聞けば、十方の聖衆共同を利す云々」と記されている。直進すると蛇腹道を通り壇上伽藍に向かう。左に折れて大師教会に向かう。「いろは歌」の大きな石碑が建つ。色は匂へど散りぬるをわが世雑多常ならむ有為の奥山今日越えて浅き夢見し酔ひもせず

大師教会大講堂は、大正十四年(1925)高野山開創十周年記念として建立された桁行二十間、梁間十五間の大建築。本尊は弘法大師。内部には弘法大師一代記の額がぐるりと掲げられている。隣の教化研修道場は、弘法大師御入定千五百十年御遠忌の昭和五十七年に竣工した。弘法大師信仰の教化と研修の中心である大師教会では、お授戒やお写経を受けることができる。お授戒は、静寂な授戒堂のお大師さまの御宝前で、阿闍梨様よりじきじきにお諭し頂き、日々の信条と

た秀次に、「豊臣家退放・関白取り上げ・聚楽第取り上げ・尾張、伊勢百石取り上げ・紀州高野山入り」の命が下る。其上人の助命嘆願もむりなく7月15日、福島正則等により「切腹」の沙汰が伝えられ、自刃。享年二十八。許世の歌。月花を心のままに見つくしぬ

なにか浮き世に思ひ残さむ  
その首は京の三条河原に晒され、秀次の子弟・妻妾ら三十余名は公開処刑された。奥書院、稚児の間、廻り護の間につづき、さらに長い廊下をたどると奥殿および別殿に入る。背後の木立に真然大徳廟と護摩堂が鎮まる。奥殿の前にある蟠龍庭は、500余坪に及ぶ我が国最大の石庭。京都の白川砂を敷き詰めて現された雲海の中に、勅使門から見て左側に雄龍、右側に雌龍を配した金胎不二を表している。龍はお大師さまの誕生された地、若き日に修行された聖地の四国産の青花崗岩140個が使われている。砂の波紋が美しい蟠龍庭を眺めていると、別世界に来たような安らぎを覚える。金剛峯寺の台所は和歌山県指定文化財。大勢の僧侶の食事を賄ってきた七斗炊き

も言うべき、「菩薩十善戒」をお授け頂く儀式。所要時間は約30分。お写経は、「般若心経」を一字一字でいよいよ写す。わずか二六二文字ですが、お大師さまは「般若心経を誦持講供すれば一切の苦厄が去り、修習思惟すればさとりを得る」と述べておられる。心経を読み書きすることにより、仏さまが私達をお守りしてくださいませ。1時間余りの短い修行ですが、この功德は無量です。霊宝館に向かう。先人の美に対する膨大なエネルギーと対話するために。

- ▲コース▼
- 南海高野山駅(りんかんバスで10分) 金剛峯寺・六時の鐘・大師教会・霊宝館
  - △地形図▽2万5千 高野山
  - △費用▽雑波駅〜高野山駅 1230円
  - 共通券(2日間有効) 1500円
  - 金剛峯寺・大師教会・霊宝館・金堂・大塔・徳川家台所の6ヶ所(大師教会授戒料500円含む)。
  - (問い合わせ先)
  - 金剛峯寺 0736 (56) 2011
  - 大師教会本部 0736 (56) 2015
  - 高野山霊宝館 0736 (56) 2029

〈山のレポート〉  
山の地名を歩く⑧  
「夷守岳」  
ひなもりだけ

西尾 寿一

九州・霧島半島の一支峰に夷守岳（1344m）がある。

霧島といえは高千穂峰や韓国岳を思い起こすが、その韓国岳から北走する支脈の一支峰に美しいコニーテ型の相当目立つ山があり、登高欲をそそる。さらに山名の夷守という名は私に強い興味をいだかせる。夷とは何か、またなぜこの山名が生じたのか、謎は日本古代史にまで遡る奥深さを秘めているようだ。

●ヒナモリの同類の山

夷守岳は「日本山嶽志」で別称「離守嶽」とあり、兵庫県の日名倉山の正式名を「離倉山」としている。また東北八甲田連峰の一支峰に離岳があり、霧島とよく似た山群で、同じような山の配置である。おそらく両者は山名の扱いで共通した要因をもっている可能性が高い。

他に大分県宇佐に「離戸山」があり、

山梨南都留に「離嶺峰」があるが、ヒナを「日向」とする地名なら無数にある。しかし「日向」は一応「日向の地形」を指すと考えられているので除外すると残るは、夷と離である。

●夷・離（離）の区別

両者は誤では「ヒナ」であるが、内容には大きな違いが認められる。前者は漢音のイで辺境を表しているのに対し、後者はスウで鳥のヒナを表している。両者は全く異なる性格をもっている。しかし中国の中原では周辺諸国を「夷」で表したから、これを親を中心として群がる「ヒナ」と解することも可能である。それでも離には夷のもつ意味がなく、両者は全く別の存在と理解するはかばかしい。

したがって、山名における夷と離との混在と重複採用はよほど慎重に分析しなければいけないだろう。少なくとも八甲田の離岳に夷の字を用いる理由は乏しい。

また離も「ヒナ」であるが「ひなびた」などのように田舎を表している日本語の「ひな」が漢字で分割利用されていることがわかる。

●夷の本質

り成立年代を三世紀とするのが有力となるが、果してどうか、歴史を地名のみに頼ることもできないのだが……

先のヒナモリ所在地が「ヒナモリ」と関係のない低地なのは、軍の駐屯地であり、その周辺に村があったことを示している。ではなぜ夷守なる山名が生じたのか、である。

●ヒナモリの山名二論

先に挙げた古代のヒナモリ所在地の名称がなぜ山名になったかは、霧島の夷守岳の場合、山麓の地名によって確認できる。他は不可能である。そこでヒナモリ山名論に二例の可能性が指摘できる。その一は地名所在地の近くの山であること（霧島）。その二は中心的山所の周辺を形成する衛生峰を夷守の意味に合わせた解釈である。霧島の場合は両方にあり、八甲田も可能性を否定できない。ただし夷も離も「ひな」と日本語で理解すれば、同一の意味を含んでいるように思われてならない。

霧島は韓国岳に、八甲田は高田大岳に寄り添っている。その姿は正に夷守であり、離の姿でもある。これはヒナの寓意である中心の影響力のもとに、その周辺

夷の字は大と言との合成であり、中国の「説文」は「大可をもつ人」とするが、「字統」では「夷の儀に用いられたから戸が夷の初文ではないかと述べられている。また古代中国では東夷・南夷・東南夷・淮夷・夷人などと周辺国を呼び「夷なるは礼儀無し」と述べるなど、日本（東夷）などは野蛮なおくれた地域として扱った。そうした経緯からみて夷は国の中心から遠く離れた辺境にて、その国と何らかの関係を有する集団の存在を意味する。とすると、古代中国の冊封制度に組み込まれた周辺諸国の存在と重なってくる。

魏の「倭人伝」に、数多くの国名を示し、その官職に「卑狗・副卑狗・離」とあるのはその例で、ヒコは「日子」で国の中心とすると、ヒナモリの上に副の字があるのは、副官または中心を守護する役割をもつ職制とも考えられる。

ヒナモリは万葉方式で読めることが重要で、この時代にはまだ夷の字を当てていないのである。その意味は、後に日本人の手によってヒナを夷の漢字に比定したことになるからだ。

そうして中国の夷の解釈を認識したうえで、「夷守」を成立させた。古語辞典

に展開する存在であることを示している。ヒナモリの名を冠する山岳もまた、その例にもれず脇役であるが一兵卒ではない。一國でいえば国防軍であり將軍といつてよい。

小生は霧島・八甲田と兵庫の日名倉山に發っているが、霧島の夷守岳は堂々たる偉丈夫である。山麓の夷守台から急峻な登道で大塚池へ登り、北へいったん霧島のすべての山が一望で高千穂が美しいスロープを見せ、韓国岳が奇怪な姿を横たえている。

八甲田の離岳は高田大岳に夫婦のように寄り添い目立つ山ではないが、美しいスロープは非凡といえる。登路は標高40号線の峠の茶屋から登るもの一本である。急な切り分けで一部やぶがひどいが短時間で勝負がつく。登っておもしろい山ではないが、1240mの標高は無視できない。

日名倉山は正式名が「離倉山」であることは先に述べた。この山には立派な登山道があるので概知の人も多いと思うが、ヒナと関係のある点は不明で他の同類の山も今のところ不詳である。

にヒナモリは「地方を守る官職」とあるのは正に中国の制度をそのまま踏襲した解釈によっている。

●夷守の所在地と疑問

地名研究家の間で知られている日本のヒナモリ所在地は大概次の四ヶ所である。精査すれば他にもあるかも知れないが、一応次の四ヶ所を話を進める。

1 越後国頸城郡夷守（和名抄）

2 美濃国厚見郡比奈守神社（神名帳）

3 筑前国夷守（延喜式）

4 日向国夷守（奥行記）

以上はよく知られたヒナモリ所在地であるが、いずれも山岳とは関係のない低地である。これをどう見るかである。

『地名の由来』で吉田茂樹氏は、東国二ヶ所、九州に二ヶ所と近畿を中心として二分する所在地の存在は邪馬台國論争に影響するといふ。つまり辺境を守護する部隊が九州に存在する理由は邪馬台國近畿説を補強するが、神武東遷のように國の中心が九州から近畿に移動してのちにヒナモリが置かれた可能性もあり、時代差の確認を必要とする。

少なくとも五世紀以後はヒナモリは清えて防人になっていることから、ヒナモ

### 〈山のレポート〉

## 大きな三角点(原三角点)

生駒 蒼峰

現在ある一等三角点は、明治時代に陸軍の測量部によって全国に設置されました。それ以前は、内務省地理局が本州中央部に100近くの「原三角点」をすでに設置してありました。

陸軍は全国に三角点網を完成させる時に、その「原三角点」を利用して新しい一等三角点を設置したのですが、その時に「原三角点」は全て処分されました。しかし何らかの理由で残された所もあり、いままでは二ヶ所が確認されています。

新潟県の米山と、東京都の雲取山です。「二ヶ所でも残っているのなら、まだ他にもあるのでは」と、標石マニアの人達は探索を続けておりました。

内務省時代の三角点網は、現在の一等三角点網とはほとんど同じですが、違う所もあり、そこには昔の標石が残されている可能性もあるのですが、残された資料が少なく、現在の地形図と合わせることで

が困難でした。

その「原三角点」が3年程前、群馬県の中で見つかりました。当時の記録では、「白髪岩」(シラガイワ)標高1512メートルとなっていました。この情報はインターネットや新聞・雑誌等に発表され、たちまち標石仲間にも広がっていき、たちまち場所が、群馬県の下仁田町と藤岡市の境界付近を走る御荷鉢スーパールン道から稲倉山にのびる山系上で、林道から1時間くらいの所、林道近くには現在の一等三角点「赤久縄山」があります。

さる4月、この「白髪岩」に一等三角点有志の会が発見することになり、私も参加した。

横浜のA氏の車に便乗し、万場村の国民宿舎「みかば山荘」に向かう。車には一等三角点の大先輩多摩雪雄氏も同乗していた。宿舎は西御荷鉢山の中腹にあり、展望のすばらしい所で、日本百名山の両神山や金峰山が望まれ、周囲の花園では真っ赤な桃の花が満開だった。

翌日、スーパールン道を塩沢峠に向かう。峠を過ぎると砂利道になるが道はよく、森林公園には管理人も常駐していた。

管理人は周辺の山に詳しいが、「白髪岩」のことは全く知らなかった。現在の一等三角点「赤久縄山」はこの林道から簡単に登れる。

稲倉山の分岐点杖植峠に車を置いて、破線の道に取り付く。ハイキング道ではないので道標はないが、発見されて3年にもなるので、テープ付けされた道は明瞭で、疎林のコザサ道を二つばかりのピークを乗り越え、1時間程で白髪岩に到着した。

白髪岩は名の通り岩場があり、三角点のある所は縦走路が山腹を迂回しているの、発見が遅れたようである。

稲倉山からの本隊とも合流し、三角点で写真を撮る。「原三角点」は本当に大きく立派で賞味がある。すでに現地の「土地家屋調査士会」の説明板が取り付けられていた。

三角点は本隊で展望はないが、少し視線をたどった岩稜の上からは、まだ真っ白な八ヶ岳から遠くに富士の影も認められ、浅間山・四阿山などたくさん山々の同定に忙しい。目の前には、手の届きそうな所に一等三角点の赤久縄山が見えるが、この白髪岩に一等三角点が設置さ

れていたら、この「原三角点」も残らなかったらどう。

標石は四角錐で高さ約40cm。上辺は15cm角に対角線が刻まれ、側面に「原三角点」の文字があり、台座の石に乗っていたが、少しぐらついていた。

前述したように、現在「原三角点」が確認されているのは、米山と雲取山で、こちらは現在の一等三角点と同一している。しかし「最初の位置とは異なるのでは？」とも言われ、「設置された当初の状態で見つかったのは初めてだ」と話題になっていった。

私はどちらの山でも確認はしているが、その時はその由来を知らなかったため、それ程興味を持たなかった。

今もまだどこかに残っていないかと、標石仲間の入達は探し続けている。何か情報をお持ちの方は知らせてください。

(平成16年4月25日登る)

### 〈山のレポート〉

## 何でも無い山で道迷い

宮本 眞幸

5年前に夫婦で1ヶ月かけて北海道の山巡りに行きました。だが、その年は京都と同じで、朝に一度も涼しいと感じたことなく、おまけに梅雨前線が北海道を上下し、連日雨や雷から逃げての山行で、夕張岳では川が道路沿いまで増水し(翌日は付近の国道も通行止)、撤退するという状況でした。その年に行けなかった山に未練が残り、体力的にも衰えを感じるようになり、今年が最後のチャンスと、妻が休みをとれないので通常は禁じられている単独山行で、7月4日から北海道の山へ出かけました。

敦賀から若小牧行きのフェリーに乗り、5日の夕張岳を皮切りに大雪山の3泊4日のテント山行も何とかこなし、ニベツッ山を下山後、翌日に富良野岳へエゾルリソウを見に行くために、17日に白金荘のテント場でテントを張りました。

ところが前回は温泉に来た人の車のエンジン音がたまにするだけの静けさで20時には寝られました。しかし、今回は犬が吠えるのは子供はワイワイいっまでも騒ぐは(海の日)の連休で熊肉キャンプの家族連れが大勢来ていた)なかなか寝つかず、やっと静かになったのはかなり遅くなってからでした。そのうえ夜半からは一時凄しい雨が降っていました。

朝4時に目覚まし時計が鳴りました。疲労が取れず頭も寝不足でボーッとしています。前夜に避難小屋泊まりの準備を慎重にしたのですが、当日出発前のチェックを怠っていました。

富良野岳は家族連れの登山客も多い山です。しかしそこから北への十勝岳方面を目指す人は減ります。自分も5年前に行き、途中までの道と歩く道はわかってると慢心し、他の山では必ず持って歩いている2万5千分の1の地形図を持たず某社発行の山地図だけで、しかもシルバークンパスをどこかで落としていたのに気づきませんでした。

ただ救われたのは、富良野岳に登山後、上ホロ避難小屋に泊まり、翌朝に下山して芦別岳へ移動するのに食糧2日分と非

常食を持って来たので、いつでもピバークできる体制があり、また、本来の熊天氣というか、割と皮肉がある性格が幸いしたのでしょうが、その願末です。

朝5時20分頃に十勝岳温泉登山口をスタート。駐車場から取り付き登山道へ、標識は5年前よりも整備が行き届いています。

ガスは薄くかかっていますが周囲はよく見えます。荷物は13kg程ですが、昨夜の寝不足と、体力の衰えが目立ってきましたのでトポトポと歩きます。元気な人にドンドンと追い越されます。懐かしい道だなど十勝岳の安政火口を左に見ながらも上ホロ分岐を過ぎて、富良野岳分岐に8時30分に着きました。富良野岳はガスのなかで見えませんが、途中で知り合った若者に「上ホロ避難小屋に泊まって翌日は晴れの天気予報だから翌朝もう一度行きます。私はユックリとしか歩けないが12時頃には着くでしょう。お先にどうぞ、小屋でまた会いましょう」と別れ、またトポトポと歩きます。三峰山で十勝岳方面から来た人に「ナキウサギが鳴いてますよ」と教えられ、ジッと耳を澄ますと

鳴声があります。初めてナキウサギの鳴声を聞いた喜びと興奮がこれからの大失敗のはじまりでした。

ガスは薄くかかっていますが、風は無く登山道はよく見える状態でした。上富良野岳に行くのにはいたんくだります。すると登山道から右手15分程離れた岩場でナキウサギの鳴声がありました。うまくいけば写真に撮れるぞと、高山植物も踏まずに行ける岩場なのでたどり着きました。確かに鳴いています。カメラを構えては移動します。10分位経ったでしょうか、ガスが急に濃くなり、写真を諦めて登山道へ戻ろうとしましたが、足元もまともに見えないのです。ここで第二の失敗です。これが疲労の蓄積、寝不足、老化等の現象です。シルバークンパスを出そうとしたらありません。紛失にやっとなり、方向が全く判りません。パニックになっていなくても平常心を失っていたのです。ここでジッとしていれば早い時間帯なのでいつかは登山道へ戻れるのですが、これが思い浮かばず、早く登山道へ戻ろうと高みの方向へと向かいました(実際は登山道と

平行しながら右前方へとわずかながら山をくだったのだと翌日判明)。その時に前方で熊鈴の音がしています。ホイッスルを吹き大音を出して呼ぶのですが、返事はありません。鈴の音がまた前方でしたように思ったので前方へと進みます。

ゆるい坂をくだったのだから、鈴の音がした方向へ登り返せばよいのだと登り出したのですが、登山道にはいっこうにたどり着かず、ガスは濃いまます。元へ戻ろうとすれば、ワンデルングは確実なので、高い方へと進みました。そのうちに稜線にたどり着きました。が、どちらへ行けばよいか判らない。「くぐらさず高く登れば基本」だと思いついて上部を見ました。ところが何と上は20分位の所より立った崩れやすい岩壁です、両側は高い湿松帯です。下は10分のやはり崩れやすい岩壁の下りです。

時間は10時30分位なのでこれをくだって次の稜線を探そうと思いましたが、ガスがやや薄くなってきたので周囲が少し見え出しました。見晴らしの良い所へ出れば登山道も判るだろうと、前の沢を渡って向こうの沢を登ろうと意を決して10分の高さの大キレットより危ない岩肌をくだる

ことにしました。無謀なのですがその時はそうとしか考えは浮かびませんでした。まず足元の長さそうな所を選び、第一歩は無事に確保できましたが、二歩目から大変に崩れます。何度か足元を探っては体重をかけて大丈夫な所を「三点確保、三点確保」とつぶやきながら30分かけて何とかくだりました。滑落してたら沢を転がり落ちていったでしょう。よくぞ降りられたと、岩場に恐怖感がない人間でよかったですと思いつつ数分間休みました。

湿松帯の間をなるべく避けて向かい側の沢へ渡る箇所を決めました。ただし、眺めればただのササ原とナナカマドと少々湿松帯ですが、これが非常に手強い。チシマザサは若くて元気がよいのは一本でも存在を主張して体に引っ掛ければ通してくれません。とにかく左右に分けるか駄目なら腹這いになり乗りかかるとかいい。ナナカマドは私の根性以上に曲がりくねっていて枝に「御免なさい」と踏って乗るか踏るしかない。「ヨイショ、ヨイショ」と体は疲れていても連続して動けるのが不思議です。突然右足がツルリと滑って落とし穴(ツブリの水あり)に落ち、軽く捻挫。「しまった」と思いま

したが痛みは軽いので、小休止時に簡単なテーピングをして歩き出します。やっとなかいかの稜線にたどり着きました。右下は判明する日が差しています、大きな草原です。はるか彼方に動く物が、熊の親子のようです。熊はここまででは来ないだろう、「ラッキー、熊がやっと思われた。家へ帰ったらジャンボ宝蔵を買おう、当たるぞ」と自分の現状を忘れて大喜び、香気なものです。

思考回路がボケていて、富良野岳から十勝岳にかけては、西側は十勝岳の火口が見えるし、東側は原始ヶ原の方面で草原地帯なのをまだ気づかないのです(気づいたのは翌日)。

ちよとと稜線に這い上がった時にガスが薄くなり、左手に尾根が見え、鞍部も見えました。あの鞍部に上り周囲の状況を見て悪ければ、明日の天気予報は晴れなので、湿松帯に入ってビバークしようかと決めました(目標的にフェリーに乗るには余裕あり)。沢をつめるには左側は長いロックガーデンを通らなければなりません。右手は草原で右側を登ることにしました。

それでは行くかと疲れた体にムチ打っ

て沢へいったんくだりました。湿松・ナナカマド・チシマザサは今度は強い味方です。30分位それらにぶら下がりながらやっとなり着きました。

いよいよ登り出しましたが、源頭部なので傾斜90度位、距離は200分位で、最初は湿松につかまっては6、7歩進んではバテて休んで進み、最後の50分の所で湿松にすがることができなくなり、草原の登りとなりました。傾斜がきついで四つん這い(ストロクは湿松にとっくに通行お札として取り上げられていた)になり、4歩歩いては滑り落ちないように斜面に張り付いては休んで進みます。

後10分位と思った所で「どうかしめた？」の声がしました。助かりました。鞍部が登山道だったのです。やっとなり着いたの終了です。地元のご夫婦で、私の現在位置を告げられて驚き、普通に歩けば15分位の所を5時間かけて四苦八苦して歩いて来たのです。

これで終わればよいのですが、まだ間抜けの続きがあります。

夫婦に礼と別れと告げて以前よりさらにトポトポと歩き出したのです。上富良

# ニュージージーランド ハイキング

おかけさまで  
**大好評**

## テ・アナウ滞在・花のフィヨルドランド・ハイキング7日間

◆◆ コースポイント ◆◆

- \* 2名様より出発保証!
- \* 湖畔の美しい街テ・アナウにのんびり3連泊
- \* キーサミットとグートロード谷のハイキング
- \* 赤ブナ原生林コースとフィヨルド サウンド コースが選べます



## フィヨルド・トラック9日間

◆◆ コースポイント ◆◆

- \* 「世界でもっとも美しい散歩道」をハイキング
- \* 手配旅行ですので、モデルコースを参考に自由に自分だけの旅を設計しましょう
- \* 自然保護のため、人数制限があります。お申し込みはお早めに・・・



## ルトボート・トラック7日間

◆◆ コースポイント ◆◆

- \* 両岸田舎の風景を楽しめるコース
- \* 手配旅行ですので、モデルコースを参考に自由に自分だけの旅を設計しましょう
- \* このコースも人数制限があります。お申し込みはお早めに・・・



パンフレットをご請求ください。説明会も随時実施中!

開催日	開催地	時間
10月20日(水)	弊社神戸支店	14:00~16:00
10月21日(木)	弊社大阪支店	14:00~16:00
11月06日(土)	弊社大阪支店	13:00~15:00
11月17日(水)	弊社神戸支店	14:00~16:00

ご自宅・ご希望の場所にご説明にお伺いすることも可能です。お気軽にお問い合わせください。

# 日本の山 ハイキング 予約制となります

山を歩きながらハイキングの基本を身につけませんか?

日時: 11月16日(火) <参加費無料>

場所: 兵庫県「六甲山上馬遊・紅葉谷」

講師: 社団法人 日本山岳ガイド協会理事

中島 政男 ガイド

\*\*集合時間、場所等の詳細はお問い合わせください\*\*



郵船トラベル株式会社 11-ダイヤル: 0120-819-215

■大阪 〒541-0053 大阪市中央区本町3-2-6 3F(本町) 67階  
TEL: 06-6251-9143 FAX: 06-6251-9150 e-mail: kog@ytk.co.jp  
■神戸 〒651-0085 神戸市中央区八幡通4-2-18 郵船航空福本ビル  
TEL: 078-251-1611 FAX: 078-230-6480 e-mail: kkc@ytk.co.jp  
ホームページ: http://www.ytk.co.jp

野岳の分岐で上ホロカメットク山の見覚えのある標識で上ホロ遊覧小屋へと向かいますが、ちょっとした登りも猛烈にこたえます。必死に登り、水場が見え小屋も見えました。ヨロヨロと16時40分に小屋にたどり着き、扉を開けると一杯。5年前は名古屋の大学ワンゲル部が雨でテント場をやめて二階へ上がり、一階は私達夫婦とトムラウシ山から単独縦走の男性と3人しかいなかったもので確然としていると、朝方別れた若者が「下へ降りられないだと思っただけよ」と言われたので、徘徊していたと説明すると、話を聞いていた男性陣がそれは大変だったと場所を結んで寝場所をつくってくれました。

お礼を述べ早速、濡れた靴下を脱ぎ素足に靴を履き、水場へ行きました。右足の捻挫と左足には水疱が出来ているのでフラフラリとしながらも何とか水を汲み、夕食にかかりました。

1日の湯が間もなく沸くという時に、本日の天気が下りました。一瞬の突風でコンロがひっくり返り、食糧袋や食器が吹っ飛びました。飛んだものをやっと拾い集め、水をまた汲みに行く始末に……。

ペンを掻きながらも湯を沸かし食事を終え、濡れた靴下を絞り、どうにか床に就きました。

翌日は下山だけなので7時頃にピリで出発です。やはり昨日の疲労が取れていないはずはありません。10時歩いては休んで歩く始末。上宮良野岳からの下りには有名な300階段、あの段差の階段は現在の体調ではいつ転がり落ちてもおもしろくないと、登って来た道を上宮良野岳分岐からくだることにしました。

三峰山で休んだ時に、頭がちょっとだけ回転がよくなりました。昨日さ迷い歩いたのはどこだったかと、今後の反省として頂上から眺めてみました。東北にあるナキウサギの音がした岩場があります。その岩場から東北へ下り気味に進んで入っていたのです。距離にしてわずか5000歩位でしょう。そこを5時間かけてさ迷い歩いたのです。

唸然としつつ、富良野岳分岐に来た時に、くだって来た女性の「エゾルリソウが咲いていたわよ」の話で、また馬鹿の内部で誘惑の音がしました。エゾルリソウが目的で来てこのまま帰ればま

た悔いを残す、二度も来れないぞ。空手なら行けるかもと、水と行動食のみ持って登り出しました。荷物が軽いのはこんなにも楽なのか、背中に羽根が生えたように、ゆっくり歩いても観光客は追い抜いていけません。

ついに見つけました。エゾルリソウが三株咲いているではありませんか、能天気男は昨日のことは忘れて大元気になり、頂上までノンストップで登頂しました。頂上で昨夜同宿した人が、昨夜の私を見ていたので驚いてました。さぞや狂った老人と思ったでしょう。写真を撮り、またトロトロと歩き、やっと下山後、白金荘のテント場にテントを張りました。今夜は山屋とバイク旅だけで静かに早く寝られました。

帰宅後外科医へ行くと、「右足の骨折はないが、見事に腫れ上がってきたので当分おとなしくするように」と言われ、今夏の山行はこれで終わりにし、暇な時にこの顔末記を書き、今後の教訓としました。(平成16年7月18・19日体験)

(里山シリーズ23 今津)

### 歴史のロマンを秘めた散歩道

## 大師山・清水山城跡

一般向き(★)

長宗 清司

緑豊かな雙庭野の山麓には弥生・古墳時代の遺跡が散在し、数多くの寺院が点在する。丘陵地にあるこれらを結んで、城跡をも含めて歩けるコースである。

JR湖西線新旭駅あたりからは、琵琶湖岸は遠く湖面は見えない。これに反して、西側には小高い丘陵が意外に近く目に入る。西に広がる台地は、旧陸軍から引き継いだ自衛隊の雙庭野演習場だが、琵琶湖側の一部は一般も出入りできる。大宝寺地区からは須恵器が、針江では弥生土器や田舟・石棒が出土。熊野本古墳からは85号の直刀・弥生土器片・土師器片などが見つかった。このあたりには古墳が36ヶ所もあり、前方後円墳と思わ

れるものもある。

今日のコースは、新旭駅前からはまず南の新庄集落にある大善寺を訪ずる。天台真盛宗の寺院で、平安時代、最澄の開基と伝えられる。本尊は国指定の重要文化財の大日如来坐像。同じ平安時代後期の木造観音菩薩立像もある。

ここから安曇川を左に見て上流に向かって歩き、安井川集落に向かう。曹洞宗の保福寺は、南北朝時代、京都東福寺の仏通禅師の開基。本尊の木造釈迦如来坐像もまた国指定の重要文化財で、もとは朱衣金体であった。豊富な木造坐像は平安時代前期の秀作である。

七川祭で有名な大荒比古神社は、本通りからはずれ、民家の間を抜けた山手にある。約4400平方メートルの神域をおおう樹木が、晩春から初夏にかけて新緑の瑞々しい森を形成し、秋は見事な紅葉で定評がある。祭神は、豊城入彦命・大荒田別命の二神で、南北朝から室町時代にかけて、近江の国主である佐々木一族の絶大な崇敬を受けて栄えた。滋賀県の無形民俗文化財に選定されている七川祭は、流鏝と仮振りを今に伝え、5月上旬の祭の日は、参拝者や見物客でにぎわう。

清水山城跡主郭への登り道



本殿前の石段を降りて左へ、山際の小さな峠道を越えると谷筋に出る。道を上流にとり、地蔵山との分岐を左へ。すぐに今度は右に登る幅広い道に入る。頭上には高庄峠が走り、高みには鉄塔がある。ここまで登り切ると視界が開けて、南方の岳山・三尾山と琵琶湖が望める。清水山城跡への標識に従って、小さな鞍部からT点に出て左折し、上部に出る

と、「割割」を含む、城の片鱗「曲輪」の脇を通過して主郭下に出る。

清水山城遺跡は雙庭野台地の東南端、標高210メートル前後。丘陵の最高部にある主郭からは180度の展望。南の眼下には安曇川の流れと高島郡南一円。東は海津大崎から琵琶湖上の竹生島が望める。標高200メートル程度でありながら、展望のきくこの山を城の主郭に選んだのはさすがである。

13世紀より16世紀後期にかけて、高島郡の中南部を支配していた高島七頭の惣領、高島氏にふさわしい規模である。

主郭下からは、よく整備された大師山ハイキングコースを歩く。雑木林のなか



大師山・清水山城跡付近略図

をぬう山道は小さな起伏が続く。やがてゆるやかな谷をつめると、自然林教室(山の家)のある舗装路に出る(この道の奥は真高隊敷地に通じる)。時々車が通る道路を少しくだると、左側に目ざわりな不燃産業廃棄物広(置)場があり、東側の稲尾根に稲荷山への登り口として鉄梯子がかかっている。これを登りつめると4等三角点(209.1メートル)の標石がある。ここからは心地よい尾根となり、マツ林や雑木のなかの道をたどると鉄塔下に出る。真南には、さきほど登った清水山城跡(主郭)が望め、その背後には、比良山系最北端の蛇谷ヶ峰の頂だけがのぞいている。

- 登り道の最後は、こじんまりした大泉寺の境内に出る。この寺は、天台宗の末寺で、平安時代末期、慈恵大師良源によって開基されたと伝えられている。
- 寺名は、現在の境内奥200メートルの場所到大師産湯地があり、良源の誕生時産湯が湧き出た伝説に由来する。境内からは竹生島や海津大崎など、湖岸の景観が美しく望める。
- △地形図V2万5千1:1今津(問い合わせ先)  
 新旭町観光協会  
 ☎0740(25)55000  
 大荒比古神社 ☎0740(25)64664  
 大泉寺 ☎0740(25)54111  
 JR新旭駅 ☎0740(25)53211
- △コースタイムV  
 JR湖西線新旭駅(20分) 大善寺(40分) 保福寺(10分) 大荒比古神社(20分) 地蔵山との分岐点(15分) 鉄塔下(25分) 清水山山頂(大師山ハイキングコース) (40分) 自然林教室(山の家) (10分) 稲荷山コース入口(5分) 三角点(15分) 鉄塔下(15分) 大泉寺(15分) 熊野本古墳(15分) 善林寺(20分) 新旭駅
- △周囲には、善林寺・慈恵寺・熊野本古墳などがあり、歴史の散歩道として訪れる人も多い。春なら、新旭駅までサクラ並木の道が続く。
- △冬場、足をのびせば琵琶湖岸の野鳥観察センターに立ち寄れる。  
 (平成15年2月15日歩く)  
 (平成16年1月25日歩く)

### 晩秋の紅葉と展望を楽しむ

## 交野山(河内富士)

初級コース(★)

慶佐次 盛一

秋もたけなわ、どこか静かな所で紅葉を楽しみたいと考えたが、11月末になれば紅葉の名所はどこも人でいっぱいでも紅葉の鑑賞どころではない。どこか近くで、適当な所がないものかと考えあぐねていたが、交野山を思い出した。決して派手な紅葉ではないが、交野山の白旗池なら静かな雑木紅葉が楽しめる。交野山の観音岩からの展望も期待できる。

JR片町線(愛称・学研都市線)津田駅下車。駅前を右へ進み、JR線の地下道をくぐり抜けて、住宅街の車道を北寄りに地蔵池へと歩く。地蔵池がわからなければ、地元の人に尋ねると親切に教えてくれるだろう。

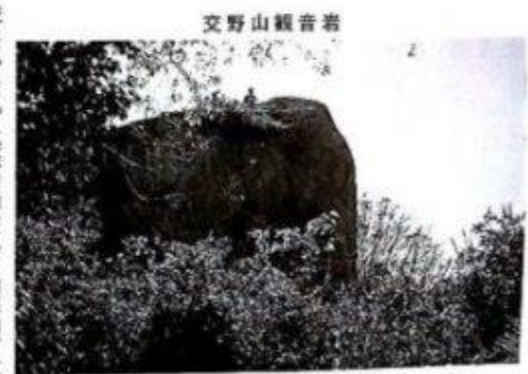
地蔵池の畔まで来ると、古色蒼然とした地蔵尊がいっぱい祀られている。昔、池を造成する時に出土した地蔵尊をまとめて合祀したもので、地蔵池の名前の由来でもある。

このあたりまで来ると古い道標も現れ、道標に導かれて進んで行くと、広い車道を横断して左手に宅地造成地を見ながらゆるい坂道を進むことになる。

宅地造成地が途絶えた所が国見山の登山口で、まずは国見山に登ってから交野山へ向かうことにする。

よく歩かれていた山道を進んでいると、自然巡回路標の案内板があり、これを通こすと一部手摺付きの遊歩道となる。早朝ウォークだろうか、早くも下山してくる夫婦連れとすれちがう。

小さな国見池を過ぎ、ゆるい傾斜の遊歩道が続いて国見山への分岐に着く。道標に従い丸太階段を登るとすぐに国見山である。ここは延徳二年(1490)に、津田周防守正信が築いた津田城跡とされ、枚方八景にも選ばれた展望がいい。鳩ヶ峰と天王山の向こうに京都市街が広がり、愛宕山連山が見え、南山城の山



交野山観音岩

並も見え。北摂の山や五月山連山、六甲の長大な山並まで望めた。

展望を楽しんで元の分岐に戻り、道標に従いふれあいの里へと向かう。ほとんど起伏のない遊歩道で、落ち葉が豊かに積もる道を子供連れの家族のグループともすれちがいがら進んだ。

遊歩道はゴルフ場沿いとなり、やがて白旗池に着く。期待した通りの静けさで、

対岸の雑木紅葉が見事だった。渡り鳥の姿も見え。ゆっくりしようかと思っただけまだ時間が早いし、交野山からの展望を楽しんでからまたここへ戻り、食事をすることにした。

白旗池のいきものふれあいセンターで案内図をいただき、白旗池の堰堤を渡り交野山へ向かう。車道を横断すると大きな案内板があり、交野山へのコースに入る。交野山への登りは傾斜のきつい階段



交野山(河内富士)付近略図

がしばらく続く。

やっとな階段が終わると、目の前に交野山(341m)頂上の巨大な観音岩が見えてくる。側壁には四角い穴が穿たれている。岩根には古代岩座と刻まれた石柱があり、観音岩のてっぺんに登った。岩の上は、天候にも恵まれ、遠るものがない360度の大展望が広がっていた。

国見山からの展望に加え、南に生駒の山並、鷲峰山を望みとした南山城の山並の地まで見え

先着のハイカー達といっしょに展望を楽しんでいたが、家族連れがハイカーが次々と登って来るので、白旗池に戻ることにした。

白旗池の畔はハイカーも少なく、ベン

チに腰を掛け、対岸の地味な紅葉を愛でながらのんびりと食事を楽しむ。池の水面に遊ぶ渡り鳥はカルガモが多かったが、オンドリのつがいが一組認められた。

晩秋の景色を心ゆくまで堪能して、池の東側のさわがにの小路をくだる。少々荒れた道だが、野鳥の観察小屋も設置されていた。

間もなく車道に出る。まだ時間に余裕があり源氏の滝まで足をのびすことにする。変電所のフェンス沿いに歩いていると左に源氏の滝への道があり、小川沿いをさかのぼった突き当たりが源氏の滝である。

落差6mほどで、元寺滝とも呼ばれ交野八景や大阪みどりの百選にも選ばれている。道を元に戻り、変電所の西側の桜並木の道を進むと片町線の線路沿いに道があり、北上すれば津田駅に戻れる。

#### Aコースタイム

- JR津田駅(10分) 地蔵池(10分) 国見山登山口(40分) 国見山(20分) 白旗池(20分) 交野山(20分) 白旗池(35分) 源氏の滝(25分) 津田駅
- △地形図V2万5千枚方

乗鞍岳から

芦原岳・猿ヶ馬場縦走

一般向き(★)

金谷 昭

冬に琵琶湖の北を望むと、背後に白銀の山並が輝いている。その東端の主峰・乗鞍岳(865・6m)から西に芦原岳(849m)、猿ヶ馬場(651・7m)、そして黒河越に至る山稜である。

この頃に南山麓から見る乗鞍岳は、稜線が馬の背の形をしていてそこに鞍を置いた山容で、スケールはとて及ばないものの、北アルプスの乗鞍岳に似てなくもない。

冬季、大陸からの季節風をまともに受けて豪雪地帯となり、一部の山スキーヤーには絶好のスキーツアーコースとして知られていた。無雪期には草原からの眺望とブナの美林を見る山歩きが楽しめるの

にあまり知られていない。黒河越から西方、三国山・赤坂山へはよく歩かれているが、東方のこの山稜を歩く人は極めて少なく、それだけに静かな山歩きが楽しめる。ただし、この山地に多く見られる送電線は、敦賀湾に建設された原子力発電所の送電に伴うもので、殺風景なものになった。そのかわり送電線沿道路によって歩きやすくなり、同時に展望も得られるようになった。東廻り西廻りといずれでもよいが、下山後のバス便と温泉入浴を考えて東廻りのコースを紹介する。

JRマキノ駅から国境行きバスにて終点で下車する。国道を歩き、左の国境スキー場に入る。スキー場右の山稜を走る送電線に向かって、ゲレンデ右の管理道路を上って行くと、ゲレンデ上部のスキーリフトの終点降り場の切り開かれた平坦地が出てくる。この山側ゲケの右端に微かな踏み跡とテープが付けられている。ここが登山口である。

ゲケ上辺の踏み跡を行くと、すぐに古い登山道に出合う。先の平坦地造成のため、支尾根に付けられていた登山道の末端が切り取られたためである。一部生え込んでいるが、少し登ると今も使われて

乗鞍岳より伊吹山・琵琶湖・鈴鹿連峰・竹生島・東山を望む(左より)



いる遠視路に出る。ここで左にとる。なお、右にとれば送電塔を経て国道に降りられるが、国境バス停からはかなり遠くなる。

雑木林のなかをゆるやかに登って行く。見事なブナ林が出てくる。標高が低いのかかわらず、日本海に近くて冬季の季節風を真正面に受ける影響であろう。

途中左から遠視路が合流するが、この道はすぐ下の送電塔で行き止まり、下山時には入らないように。さらに登ると乗鞍岳からの北方稜線にのり、右からの遠視路が合流する。ゆるやかな登りとなり、右(東)側の展望が広がる。

明るくなった尾根道をしばらく行くと、右に送電塔のある分岐が出てくる。30分程度行けば送電塔で、ここからは野坂岳・岩間山・西方岳、日本海の展望が得られるので立ち寄るとよい。分岐からの尾根道は急登となるが、そう長くは続かない。ゆるくなると右への分岐が出てきて、今までの遠視路は左の山腹を登っていく。この分岐にはテープ

が付けられ、雑木のなかの、先ほどまでの幅広い遠視路と違って狭い踏み跡となるが、これが縦走路で、稜線東側は灌木、西側はブナを交えた雑木林の間を登って行く。灌木の背が低くなり、頂上が見えるようになれば乗鞍岳は近い。

飛び出した頂上は低灌木とカヤトに囲まれた小広場となっている。コンクリート造りの送信施設が建ち、展望はあまり優れず東方向のみ。2等三角点標石が一段高くなった所に設置されている。乗鞍岳を後にして南に向かって縦走する。無線中継所が二ヶ所出てきて殺風景とはなるが、カヤトの高原となって展望はよくなる。南方向の琵琶湖を前にして、伊吹山・鈴鹿・比良連峰の眺望が得られる。南麓の在原集落からの林道が登ってきている分岐を過ぎ、さらに電波反射板を左に見送ると、右の樹林帯に入っていく。

ここからは尾根稜線より少し下の山腹高原にゆるやかに付けられた捲き道となり、巨木のブナ林のなかを行く。春の新緑、秋の紅葉はすばらしい美林となっており、この縦走路の見所の一つとなっている。このブナ樹林帯の踏み跡を徐々







猿ヶ馬場から尾根のブナ林を行く

に右に振りながら北に向かって行くと、杉林に変わってきて送電塔が出てくる。塔の左から前方の尾根稜線へ遠視路が登っている。登り着いた稜線には遠視路が左右に付いているが、縦走路は左に向かう。しかし、右に少しばかり寄り道をして芦原岳を往復してみよう。頂上には送電塔が建っているが、360度の大展望が得られるビューポイントである。

芦原岳から黒河越まではよく整備された遠視路で、所どころに出てくる分岐はその近くの送電塔への道なので、尾根を西に向かって忠実にたどればよい。幸い見通しもよくきく。

縦走路は直線的に急な下りとなり、途中左に作業用の建物など出てくる。大きくくぐって道は左(南)に折れ、送電線を二ヶ所潜ると間もなく分岐が出てくる。遠視路は右の樹林帯に入りくぐっている。左の尾根道は最近刈り込まれ、200メートル歩けば猿ヶ馬場(4等三角点)である。

山名の由来の馬場は方場と同じ意で広い丘あるいは草原で、飛騨の猿ヶ馬場山(1875m)は、その近くの天生峠で猿の大群に襲われた猟師を狼が救った民話に因んでいるが、ここでも猿に絡むものであろうか。頂上は尾根の一部に過ぎず、頂上らしきものはない。

そのまますすく進めば白谷に降りられるが、最近切り開かれただけにあまり知られず、また歩かれてなくて一部迷いやすい所があるので、分岐まで引き返して遠視路をたどるほうがわかりやすく歩きよい。

分岐からの遠視路は谷に降りるようだが、

特選コースガイド④ 鈴鹿

一統・近江側から登る鈴鹿の山々④  
 いげがが 茨川から  
 かわわら 存 けん だに 藤原岳・真ノ谷を下  
 健脚コース(★★★★)  
 磯部 純

鈴鹿山系で、滋賀・三重の県境尾根を歩く岩野さんの例会は、この年、油日岳と石神峠間で三回行われている。県境を歩く四回日の例会は、茨川から尾根へ登り、県境尾根を歩いて藤原岳展望丘、天狗岩、助陀ヶ平を踏んで、白船峠へと歩く例会だった。帰りは真ノ谷へくだって、谷を茨川へと戻る。

神崎川橋から八風街道を東へ向かい、茶屋川林道のカタボコ道を奥へと走ると、林道終点が茨川。今回の山行の出発点はこの林道終点である。茨川は16世紀以前から村が形成され、佐々木一党や秀吉が北勢攻略のため、君ヶ畑経由でこの集落を通過して軍を北勢へ送っており、歴史的

には重要な地であった。江戸時代には商人が北勢地方との交流に茶店や宿を利用して、このあたりで銀山が発見されてから活気に溢れるが、それも一時的なもので、鉱山が閉められた後は開墾と林業で細々と暮らしてきた。ついに昭和40年に全戸離村で、村の歴史が閉じられたのだという。八工山岳部の小屋は別にして、谷の左岸一帯には何軒かの朽ち果てた家屋が残っている。

谷を渡り、黄色に色づいたイチョウウの落ち葉を踏んで山岳部小屋脇の道に入ると道標がある。右は伊勢谷沿いに治田峠へ向かう道で、左は真ノ谷河原へ降りる。これまで案内書に紹介されている茨川から藤原岳へ登るルートは、治田峠から県境尾根を登るルート、真ノ谷を歩き蛇谷を廻り県境尾根へ出るルート、蛇谷合合から藤原岳西尾根を登るルートとあるが、この例会では、前記の一般ルートをとらずにまっすぐに進み、目の前の尾根に取り付いた。初めは尾根に難かであった踏み跡も、斜面を登り始めるといつしか消えてしまう。右手杉林、左手には広葉樹林が広がっている尾根で、左手の雑木林は四季により多彩な顔を見せてくれるが、

しばらく行くと、尾根山腹のすばらしいブナ林を歩いて行くようになり、こもこの縦走路の見所の一つである。ブナ林の道が急な下りとなると、間もなく黒河越に降り立つ。

林道が来ていてトイレと駐車場が設けられている。黒河越からは、のんびりとまよりの山行を思い出しながら林道を白谷にくだればよい。

(平成14年10月26日歩く(例会山行))

AコースタイムV

国境バス停(10分) スキー場(30分) リフト終点(40分) 県境尾根(50分) 乗鞍岳(1時間15分) 芦原岳(50分) 猿ヶ馬場(25分) 黒河越(1時間20分) 白谷バス停 \*道標なし、テープあり  
 八地形図V2万5千1:1000

(問い合わせ先)

マキノ町役場 ☎0749(27)1121  
 湖国バス ☎0749(22)1210

藤原山荘西のカルスト台地から見た藤原岳展望丘



ろう。尾根の傾斜はすぐ急になる。登っている尾根は一般路のある伊勢谷の北に位置する尾根で、急だとはいえ登りやすかった。

最後の急斜面を登ると平坦なピーク。そこから尾根を東へ進んで、次のピークに着くと、くだる方向がわかりにくいピークで、地形図と磁石で方向を見定めなくてはならない。少し左手へとり、北東へ



# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福  
 公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

**近鉄**

▽朝日・五私鉄リレーウォーク  
 「紅葉の吉野山へ」 11月3日(日)  
 (荒天の場合)は11月21日(日)に延期  
 (集合) 吉野川河川敷「桜橋付近」  
 (大和上市駅下車約15分) 9時30分  
 分10時40分(コース) 大和上市  
 駅→吉野川河川敷「桜橋付近」  
 (集合) 如意輪寺・後醍醐天皇  
 陵→花矢倉→吉野水分神社→竹林  
 院→勝手神社→金峯山寺蔵王堂  
 (コース) 吉野駅(約14分) 参  
 加自由・無料(拝観料別途、近  
 鉄大坂イベント係06(6775) 35666

▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「紅葉の生駒山・日下山園遊への  
 道から辻ヶ谷へ」 11月6日(山雨  
 天) 集合 新石切駅前9時30  
 分12時(コース) 新石切駅→石  
 切駅前神社→大龍寺→大龍寺  
 不動院(日下直越えの道)→神  
 武天皇御影碑(日下直越えの道)  
 →生物研歩道→興法寺→辻ヶ谷  
 →石切上宮→石切駅(約10分)健  
 脚向・係員は同行しません 参加  
 自由・無料(拝観料別途、新石  
 切駅0729(86) 2091  
 △駅長お薦めフリーハイキング  
 「新選組の本拠地壬生町辺を訪ね  
 て」 11月7日(雨) 集合 京  
 都駅八条口改札前9時30分  
 10時30分(コース) 京都駅→本  
 町交差点所跡→大徳院(西本願寺)  
 →鳥居大門→輪藻池→鳥居→壬生  
 塚(壬生寺)→新徳寺→八木邸  
 →前川邸→光祿寺→六角会館→  
 二条御所→京都府司代居敷跡→京  
 都守護職居敷跡→蛤御門(京都御  
 所)→藤井源兵衛跡→京都地下鉄今出  
 川駅(約9分) 係員は同行しま  
 せん 参加自由・無料(拝観料別途、  
 京都駅075(69) 2560  
 △駅長お薦めフリーハイキング  
 「紅葉の高取城跡から吉野路へ」  
 11月7日(雨) 集合 高取  
 山駅9時30分10時40分(コー  
 ス) 高取山駅→杉原館→水と緑の  
 砂防施設公園→猿石→二門跡→  
 待屋敷跡→高取城跡→五百羅漢→  
 高取跡→越前駅(約13分)健脚向・  
 係員は同行しません 参加自由・  
 無料(拝観料別途、下市口駅0  
 747(52) 2422

▽奈良交通所長お薦めフリーハイ  
 キング「秋の日帰り登山、高見山」 11  
 月11日(雨) 集合 橿原駅  
 9時9時30分(コース) 橿原駅  
 (バス) 高見登山口→鳥居→高見  
 山→高見杉→高見草野(バス) 橿  
 原駅(約10分)健脚向・係員は同行  
 しません 参加自由・無料(バス  
 代2160円別途、奈良交通  
 橿原営業所0745(82) 22  
 01

▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「紅葉の生駒山をゆく」 11月  
 28日(雨) 集合 大和上市  
 駅(集合) 橿原駅南出口9時30分11時  
 30分(コース) 橿原駅→橿原神社  
 →平成寺の森公園→大分橋→赤  
 入橋→龍崎橋→室生ダム→大野寺  
 →藤原山→海神社→室生口大野寺  
 (約14分) 健脚向・係員は同行しま  
 せん 参加自由 橿原駅0745  
 (82) 0021

▽近鉄方歩ハイキング「吉野・宮  
 津万葉コース」 12月10日(雨) 天  
 晴(約10分)健脚向・係員は同行  
 しません 参加自由・無料(バス  
 代2160円は別途、奈良交通  
 橿原営業所0745(82) 22  
 01

▽世界遺産登録記念「吉野山園遊  
 コース」 11月14日(雨) 中止  
 (集合) 吉野駅10時30分11時  
 (コース) 吉野駅(温泉谷)→  
 如意輪寺→吉野川河川敷→花矢倉→  
 吉野水分神社→竹林院→金峯山寺  
 蔵王堂→吉野駅(約10分) 係員は  
 同行しません 参加自由・無料  
 (拝観料別途、近鉄名古屋イベン  
 ト係0593(54) 7007

▽近鉄・南海・朝日合同企画第8  
 回「愚智神社から紅葉の生駒山麓  
 の信貴山へ」 11月14日(雨) 決  
 行(荒天は12月5日(日)に延期)  
 (集合) 愚智駅9時10時(コー

ス 愚智駅→愚智神社(受付)→  
 信貴山朝護孫子寺→信貴山奥の院  
 →平群駅(約12分) 参加自由・無  
 料(拝観料別途、近鉄大坂イベ  
 ント係06(6775) 35666

▽東海道の自然歩け歩け大会「ちも  
 じの赤目四十八滝」 11月17日(雨)  
 小南決行(集合) 赤目口駅9時30  
 分11時10分(コース) 赤目口駅  
 (バス) 赤目滝→赤目四十八滝→  
 出合茶屋→赤目口駅(約12分) 係  
 員は同行しません 参加自由・無  
 料(バス代・赤目滝入山料は別途、  
 近鉄名古屋イベント係0593  
 (54) 7007

▽てくてくまっふフリーハイキン  
 グ「仏隆寺・室生寺コース」 11  
 月19日(雨) 集合 橿原駅  
 9時30分10時(コース) 橿原駅  
 (バス) 高井→仏隆寺→唐戸跡→  
 唐折地蔵→室生寺→門森跡→室生  
 口大野寺(約13分) 係員は同行し  
 ません 参加自由・無料(拝観料・  
 バス代別途、近鉄大坂イベント  
 係06(6775) 35666

▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「秋の生駒山と瑞峰を巡る」 11  
 月20日(雨) 集合 生駒山  
 上駅9時30分12時(コース) 生  
 駒山上駅→暗峠→大徳寺→円福寺

▽竹林寺→南生駒駅(約9分) 係  
 員は同行しません 参加自由・無  
 料(拝観料別途、生駒駅074  
 3(74) 2056

▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「秋の大和三山踏破ハイキング」 11  
 月21日(雨) 集合 大和八  
 木駅9時12時(コース) 大和八  
 木駅→耳成山→藤原宮跡→天智皇  
 山→木葉跡寺跡→歌山山→藤原神  
 宮跡(約14分) 係員は同行しま  
 せん、大和八木駅0744(2  
 3) 2306

▽奈良交通所長お薦めフリーハイ  
 キング「紅葉の浄瑠璃寺・若草寺」  
 11月22日(雨) 集合 近鉄  
 奈良駅東改札前9時30分10時  
 (コース) 奈良駅(バス) 西小バ  
 ス停→浄瑠璃寺の院→浄瑠璃寺  
 →若草寺→西小バス停(バス) 近  
 鉄奈良駅(約13分) 係員は同行し  
 ません 参加自由・無料(バス代  
 往復1080円と拝観料別途、  
 奈良交通平城営業所0742(7  
 1) 1380

▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「紅葉の自然歩道と赤目四十八滝」  
 11月25日(雨) 集合 赤目  
 口駅9時30分12時(コース) 赤  
 目口駅→桜葉寺→延寿院→赤目四  
 十八滝(袋谷内) 赤目口駅  
 (約16分) 健脚向・係員は同行しま  
 せん 参加自由・無料(赤目滝入  
 山料別途、名張駅0595(6  
 3) 0269

▽奈良交通所長お薦めフリーハイ  
 キング「屏風岩と住持山・團見山  
 と清浄坊の滝」 11月27日(雨) 天  
 中止(集合) 橿原駅9時9時30  
 分(コース) 橿原駅(バス) 橿原  
 長野→屏風岩→住持山→團見山→  
 清浄坊の滝→留宿村役場(バス)  
 橿原駅(約8分) 健脚向・係員は同  
 行しません 参加自由・無料(バ  
 ス代2110円別途、奈良交通  
 橿原営業所0745(82) 22  
 01

▽駅長お薦めフリーハイキング  
 「二十山登山登山」 12月11日(出  
 雨) 集合 二上駅9時30分  
 11時30分(コース) 二上駅→二  
 上山駅→二上山→大徳寺の墓→  
 雄岳(葛木坐)→二上神社→雄岳  
 坊→葛木坐→葛木坐→中村城  
 の墓→高麻寺→高麻町相模加(け  
 はや)→三草寺(約9分) 健脚  
 向・係員は同行しません 参加自  
 由・無料(拝観料別途、大和高  
 田駅0745(52) 2414

▽奈良交通所長お薦めフリーハイ  
 キング「日御山登山、高見山」  
 12月12日(雨) 中止(集合) 橿原  
 駅9時9時30分(コース) 橿原  
 駅(バス) 高見登山口→鳥居→高  
 見山→高見杉→高見草野(バス)  
 橿原駅(約10分) 健脚向・係員は同  
 行しません 参加自由・無料(バ  
 ス代2160円は別途、奈良交  
 通橿原営業所0745(82) 2

▽駅長お楽しみフリーハイキング  
「初冬、大原野、鳥見山から盛谷寺へ」12月18日(日)雨天中止(集合) 榛原駅9時30分、11時30分(コース) 榛原駅→榛原の町→鳥見山→尾上→高東城跡→初瀬→ムー初瀬の町→長谷寺駅(約12・健脚向・係員は同行しません) 参加自由・無料(拝観料別途)、榛原駅0745(82) 0021

▽駅長お楽しみフリーハイキング「なにわ」利益遊 12月23日(日)雨天中止(集合) 五枚橋駅東改札前9時30分、11時(コース) 難波駅→八坂神社→大國主神社→今宮神社→日本橋電気街→法善寺→心斎橋商店街→長堀通り→油かけ地蔵→難波→少彦名神社→大阪天神通→南川神社→福町公園→お初天神通り→富天神社(お初天神)→JR大阪駅(約12・一般向・係員は同行しません) 参加自由・無料(拝観料別途)、難波駅06(6213) 0821

京阪電車

▽スボニチファミリハイイク「六地蔵、日野から宇治へ」11月28日(日)・12月2日(日)小雨決行(集合) 大善寺境内(六地藏駅下車約10分) 9時30分、10時(コース) 六地藏駅→大善寺(受付)→(山科川遊歩道)→一言寺→法界寺→万福寺→宇市→神社→宇治駅(約12・一般向) 参加自由・無料、京阪電車ハイキング担当06(69947) 3702

叡山電鉄

▽叡電ハイイク「大比叡」11月17日(日)・20日(日)雨天中止(集合) 八瀬比叡山駅9時30分、10時(コース) 八瀬比叡山駅→赤山分岐→水飲対陣跡→千種中瀬跡→ケール比叡→園遊地→大比叡→ケール比叡(約11・中級向) 参加自由・無料、叡山電鉄営業課075(702) 8111

▽叡電ハイイク「鞍馬・三文岳・静原」12月5日(日)雨天中止(集合) 鞍馬駅9時30分、10時(コース) 鞍馬駅→遊王坂→三文岳→(ハタゴ谷)→静原キャンプセンター→静原→村松分岐→岩倉駅(約10・一般向) 参加自由・無料、叡山電鉄営業課075(702) 8111

▽叡電ハイイク「貴船山」12月15日(日)・18日(日)雨天中止(集合) 貴

江若交通

▽江若交通「紅室の百重ヶ岳」11月4日(日)雨天中止(集合) JR安曇川駅9時05分(コース) 安曇川駅(バス) 小入谷峠→百重ヶ岳→シタケ峠→百里ヶ岳→根来坂→地蔵地蔵→小入谷(バス) 安曇川駅(約10・5・健脚向) 電話申込制(一ヶ月前から) 参加費4000円(バス代含む)(申込先) 江若交通本社077(573) 2701

▽三角峠トレック「三十三間山」11月6日(日)・13日(日)大雨中止(集合) 出町崎駅コンコース8時、8時30分(コース) 出町崎駅(バス) 倉見→登山口→大綱松→嵐神→三十三間山→天増川→天増川口(バス) 出町崎駅(約10・健脚向) 電話申込制(一ヶ月前から) 定員各日共200名・無料(バス代別途)

京都バス

▽京都バス「魚屋通・ロクカゲ」11月13日(日)雨天中止(集合) 有馬温泉駅下車(魚屋通登山口) 10時(コース) 魚屋通登山口→魚屋通→七曲り→雨ヶ峰→ロクカゲ→アナン→JR芦屋駅(約14・健脚向) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321

神戸電鉄

▽神戸電鉄「六甲線走部分ハイイク」11月2日(日)雨天中止(集合) 北沢岡台駅9時(コース) 北沢岡台駅→森林植物園前→ヌケ谷→徳川道→榎合道→樹原台→記念碑台→六甲ガーデンテラス→紅葉谷道→有馬温泉駅(約14・健脚向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽神戸ハイキング「天保池と鳴川谷ハイイク」11月7日(日)雨天中止(集合) 大池駅9時55分(コース) 大池駅→天下江→黒甲峠→天保池→鳴川上流→肘曲り→箕谷駅(約14・健脚向) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321

▽企画ハイイク「魚屋通・ロクカゲ」11月13日(日)雨天中止(集合) 有馬温泉駅下車(魚屋通登山口) 10時(コース) 魚屋通登山口→魚屋通→七曲り→雨ヶ峰→ロクカゲ→アナン→JR芦屋駅(約14・健脚向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

京都バス運務部営業課075(871) 7521・7522

▽火曜ハイイク「六甲線走部分ハイイク」11月16日(日)雨天中止(集合) 有馬温泉駅下車(魚屋通登山口) 9時30分(コース) 魚屋通登山口→魚屋通→一軒茶屋→水無山→船塚跡→大平山→岩倉山→阪室宝塚駅(約14・健脚向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽神鉄ハイキング「蓬莱山と瑞雲寺」11月21日(日)雨天中止(集合) 有馬温泉駅10時10分(コース) 有馬温泉駅→蓬莱山(妙見寺)→温泉神社→愛宕山→鳥居道→瑞雲寺公園→有馬温泉駅(約6・一般向、神鉄観光事業部078(521) 0321)

▽木曜ハイイク「百間池と有馬の紅葉ハイイク」11月25日(日)雨天中止(集合) 有馬温泉駅下車(コース) ウェイ有馬駅前 10時(コース) ロープウェイ有馬駅→鼓ヶ池公園→大谷→百間池→紅葉谷道→瑞雲寺公園→有馬温泉駅(約11・健脚向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽神鉄ハイキング「白髪姫と文保寺ハイイク」12月5日(日)雨天中止(集合) JR五市駅9時40分(コース)

古市駅→住山→白髪姫→文保寺→JR藤山駅(約14・健脚向) 参加自由・無料、神鉄観光事業部078(521) 0321

▽火曜ハイイク「紅葉谷・こころ岳ハイイク」12月7日(日)雨天中止(集合) 有馬温泉駅下車(コース) ウェイ有馬駅前 9時30分(コース) ロープウェイ有馬駅→紅葉谷道→一軒茶屋→瑞雲寺公園→北山→土樋跡跡→こころ岳→船塚跡(約14・健脚向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽駅長ハイイク「地獄谷西風撞ハイイク」12月12日(日)雨天中止(集合) 大池駅下車(地獄谷入口) 10時(コース) 地獄谷入口→地獄谷西風撞→シユライロード→西風撞台駅(約10・健脚向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

▽木曜ハイイク「さすみの森公園ハイイク」12月16日(日)雨天中止(集合) 小野駅10時(コース) 小野駅→八柱神社→さすみの森公園→白雲温泉→方廣橋→市場駅(約12・一般向) 参加自由・無料、神鉄グループ総合案内所078(592) 4611

山陽電車

▽山陽ハイキング「林崎園から野々池野水池・時の道ハイイク」11月7日(日)雨天中止(集合) 中八木駅下車(北西0・5・大久保浄化センター公園) 10時(コース) 大久保浄化センター公園→京賀神社→八柱神社→野々池野水池→明石西公園→明石公園→天文科字館→丸丸原(約14・一般向) 参加自由・無料、須磨海遊園ハイキング係078(731) 25220

▽山陽ハイキング「フジギク保存園見学・なきさ公園」11月21日(日)雨天中止(集合) 網干駅下車(福徳川河川敷左岸) 10時(コース) 福徳川河川敷左岸→日本輪屋→フジギク保存園→なきさ公園→グイセル異人館→山陽網干駅(約9・家族向) 参加自由・無料、須磨海遊園ハイキング係078(731) 25220

▽山陽ハイキング「高取山から菊水山ハイイク」12月12日(日)雨天中止(集合) 西代駅下車(山陽電車西代本駅前 10時(コース) 山陽電車本社前→高取山→丸山町→磯越→鳥取野水池→菊水山山頂→鈴鹿台車庫前→神鉄鈴鹿台駅(約10・健脚向) 参加自由・無料、須磨海遊園ハイキング係078(731) 25220

▽山陽ハイキング「獅子・壱水シーサイドから鉢伏山上へ」12月26日(日)雨天中止(集合) 山陽網干駅下車(獅子公園) 10時(コース) 獅子公園→アジュール獅子マリンヒル→獅子マリンヒル→須磨浦山遊園地→ペンランド→須磨浦公園(約10・一般向) 参加自由・無料、須磨海遊園ハイキング係078(731) 25220

# やせらび

題字・小林玻璃三

7月中旬、大峰山系の山上へ  
岳(1719)へ登った。  
濁川から歩き始め、名水「こ  
ろろ水」や母公堂を通り、朱  
塗りの清浄大橋を渡る。そして  
女人結界門をくぐって登山道へ  
入ったが、以前、女性達の強行  
突破により、「信仰心を踏みにじ  
る遺憾な行為」として物議をか  
もした場所をしっかりと認識し  
ておく。

ぐいぐいの登り。崖に架けら  
れた鉄輪製橋は有り難いが、土  
留め階段などはどうかと思う。  
お助け水・二少年遺體碑にいろ  
いろな思いをいたし、吉野から  
の奥街道が合流する洞辻茶屋で  
大休止とした。

祝し、鐘掛岩へ廻り登ってすば  
らしい展望を楽しんだ。しかし、  
圧巻は何と云っても「西の覗」  
である。もちろん、「絶壁巖頭  
に体を突き出させ進行を警わせ  
る」行そのものは怖くて体験し  
そしなかったものの、ついに実  
地へ来たのかと、縄を手にして  
感無量の思いに満たされた。  
コースタイムの二倍を費やす  
この年になって、標高差880  
メートルで登り下りするのには体  
力的にも無理と自覚しているの  
で山上宿坊に宿泊することに決  
め、宿坊に荷物を置き、軽装で  
あちこち歩き廻った。

先ずは大峯山寺本堂に参詣。  
世界遺産登録を記念しての特別  
開帳を拝見し、1等三角点や聖  
蹟「湧出岩」を確認する。さら  
にお花畑へ出て稲村ヶ岳を展望  
し、その奥にそびえる弥山も眺  
めた。  
宿坊の広場からは、登る時に  
見た美しい山容の大天井ヶ岳、  
遠く金剛山・葛城山も確認でき  
た。  
翌日、稲村ヶ岳へ廻る予定だっ  
たが、レンゲ辻への下り坂は大  
変危険だと多くの人に止められ、  
早朝から深い霧が立ち込めてい  
たこともあり、やはり無理と断  
念して往路を下山した。  
久し振りに日本百名山へ登っ  
たなと思い、いろいろな関連資  
料を聞いて回顧に耽るこの頃で  
ある。(牧方市 東谷 宏)

八尾町でガソリンを入れたと  
き「白木峰へ行くのならパス  
トしないように気を付けな」と  
言われ、スベアを二本飲んでい  
るからと言ったが、国道から白  
木峰へ登る道に入り途中まで来  
るとパンクした車が道をふさい  
でいる。女性3人組だ。3人共  
タイヤ交換をしたことがないの  
でと、私に救いを求めに来たの  
で交換をし、ジャッキをはずす  
とそのタイヤがエア不足で半  
分につぶれた。3人乗ると心配  
だなと言った。また今度来ると  
言ってそこから引き返していっ  
た。  
駐車場のある登山口から頂上  
広場までは急な登りで丸太階段  
が付けれられ、林道を四度横切  
る。山頂は高木が一本もない風衝  
地帯で広大な草原が丘のように  
うねり、湿地帯であるため木道  
が付けれられている。大小さま  
まな池があり、タミ半分ほどの  
ものに細い水草が立ち、先に  
白い花を付けている。  
コマツツジが咲きギボシが咲  
き、ニッコウキスゲがばつばつ  
だが咲いている。ニッコウキス

ゲが一面に咲くのは5年に一度  
だそうだ。山頂から見ると遠く  
先のはうに小高く盛り上がる丘  
があり、その先に浮島の池があ  
るといので行ってみた。途中  
小高い所に2等三角点があり、  
浮島の池には小さな島が二つ浮  
いていた。(大里町 山形 明)

8月10日未明、国道168号  
線が大塔村で崩落した。2日前  
の8日、私達は、崩落のニュー  
スに写っていたあの分岐にいた  
のです。

その時、作業人が10人ばかり、  
前の車の人と話し合っておられ、  
字井通行止の電光掲示板も目に  
しておりましたので心配では  
ない。

1時間に2、3動いていたそう  
です。私達は字井は通らないの  
で、関係なく進めました。  
王子緑化の私道を5・5キロも  
進入させてもらったのですが、  
工事中で崩れた瓦礫の場所が何  
箇所もあり、車が前後左右に揺  
すられる大変な道でした。車は  
大きな四駆、このような道を走  
るために購入されたそうです。  
目的の七面山は、西峰から東

峰への途中でテープが上と下に  
しっかり付いていて、どちらが  
正しいのか迷いました。それぞ  
れに資料を持っておりましたと  
ころ、新ハイの金谷さんの指示  
に「北面を登る」とありました  
ので無駄なく東峰へ。アケボノ  
平・槍の尾へも、そして無事家  
路へ。運転がとて上手で安心  
して乗っておりました。感謝。  
(大和高田市 前川和佳子)

今夏の例年山行では、三度目  
の正直で南アの荒川三山と赤石  
岳を歩くことができました。ヤッ  
と念願がかなったというところ  
ですが、山行当日まで「平塚」  
に進んだわけではありません。  
山行当日10日ほど前に井川か  
ら畑畑の間で土砂崩れが起こっ  
て道路が全面通行止めになり、  
土木事務所に復旧の見通しを開  
いてもラチがあかない状態が続  
きました。そのため、来夏以降  
に計画するつもりで中央アルプ  
ス主峰縦走や聖岳山行等を繰り  
上げて実施することも検討する  
など、今年もしっかり冷や汗を  
かかせていただきました。  
けれど、おかげ(?)でいろ

いろな情報を得ることができま  
した。そのなかの一つ、ちょっ  
と有り難くもめずらしい情報を  
お知らせします。

南ア南部の聖岳や光岳へは、  
静岡県の登山口のほかに、長  
野県飯田市から鳥老渡や便ヶ島  
に入る方法があります。交通の  
便が悪く、JR飯田駅からタク  
シーを使うしかありませんが、  
このJR飯田線も不便で、前夜  
に到着して夜明けまで駅で過こ  
すことになってしまいます。  
ところが、こうした登山者の  
状態を見かねてか、利用者への  
サービスとして社の会議室を転  
用し、仮眠・休憩の場を提供し  
てくれるタクシー会社がありま  
す。寝具等の用意はないそう  
で、文字通りの仮眠・休憩ですが、  
夜明けと同時にタクシーで出発  
できるわけですから、登山者  
には有り難い対応ですし、何より  
無料というのが嬉しいかぎり  
です。

以上は朝日交通(☎0265  
12210373)さんのサー  
ビスです。一度利用されてはい  
かがでしょうか。  
(各務原市 賢見守康)

8月29日、小出リーダーの3  
00回記念山行「北嶽・行者山」  
に参加した。台風16号の影響が  
心配されたがまずまずの天候に  
恵まれ、109名の参加を得て、  
賑やかな山行になった。7年間  
で300回という例年山行を記  
録的な速さで達成され、私も1  
40回参加した。  
今回でリーダーを降りられる  
ことになったが、またいつか、  
復帰されるのを念じている。

下山後、京都駅前で80名が集  
い、盛大に祝賀会を催した。  
オリンピックの年にちなんで、  
村田代表より、新ハイの金バッ  
ジが小出リーダーに授与された。  
女性の参加者が男性より多く、  
お色気ムンムン、大いに盛り上  
がった。  
小出リーダーの健康と新ハイ  
キング関西の益々の繁栄を願っ  
て、万歳三喝で締めくくった。  
(宇治市 中村英雄)

伊吹山五合目から東南にのび  
る稜線上のピーク「弥高山」か  
ら早野神社へくだる新コースを  
歩いた。  
前半には伊吹山の半分の花道

りができ、後半は自然林がほとんどである。この道は、伊吹町が昨秋古道に手を入れ、歩きやすくなった樹林帯の山道だ。

弥高山から見上げると、伊吹山本峰の雄大な大展望。下の弥高百坊跡は国の史跡に指定を受け、まさしくつわものどもが夢の跡の歴史と自然が融合した美しいハイキングコースである。

もちろんこの東南尾根は伊吹山側の石灰岩とは地質が異なるため、植物においてもめずらしい種に出会えた。めったに目にすることがないので感激したのは、個体数が極めて少ないスミレ科のある種や絶滅寸前といわれているムラサキ科とある希少種などで、これらの花を探すのも楽しいだろう。

なお、花道り山行は少しお休みをいたいただき、また米存からお目にかかりたいと思います。

(長岡京市 田中 明)

〈短歌 春夏〉

登山靴初めて履くは雨の中  
初めて会うはゴゼンタチバナ  
神秘的ヤマシヤクヤクと知りし  
日は鈴鹿の山に新緑の香

白文字も黒文字もまた色付いで  
黄金に輝く様は明るし  
パノラマ伊 東方一顧 南朝より  
雲仙伊吹界に収む  
音羽山映す水面を 錦織に  
染め上げる木々 池畔に並ぶ  
・垂井南宮山  
初恋の人見る思い 純白の  
伊吹觀し 朝陽に匂う  
枯葉敷く道に現れたる落椿  
神降る社に供物の如く  
大晦日迎える社僧し  
朱塗りの柱 残雪に映ゆ  
(松原市 数木伸人)

鈴鹿の山を歩き始めて26年になる。当初、里に近い山から奥に向かっているとんだん伐採されて植林が進み、その植道を利用して約10年近くいろいろな山を歩いた。水舟の池のハルリンドウ、白鹿背山山系のササユリの群落、佐日峠のリンドウ等が心に残っている。

植林が育つにつれ、やぶに変わり道も消えたが、5、6年前から植林の下刈・伐採・枝打ちが進み、ほとんどの道が復活して歩けるようになった。しかし、近年地球温暖化によ

元氣印シヨウジョバカマのよう  
です初夏の伊吹で山名がつく  
里沼でエキノチックな色をした  
ベニバナイチゴ知る夏の午後  
ブナ林を抜けて下ればさわやかな  
黄色い花の君ホトトギス  
ザクザクに穂高目指して踏み  
れば残雪多し 溪流歩き  
積雪が五メートルなる湖沢に  
エンジン響く夏山装束  
雪上に色とりどりのテント張り  
合宿寒し湖沢カール  
下山してホッと一息ついたとき  
嵐の一群いる梓川  
東の間の夏過ぎし山チングルマ  
小さき花と緑毛ゆれゆく  
(瀬戸市 吉岡美津香)

山行短歌

7月1日 但馬東床尾山  
かざりなき痛み癒せよ大カツラ  
人は傷つきし旅の鳥なれば  
7月3日 美濃野鳥島帽子岳  
鷺ひそかに飛び立てよ雄々しく  
翼ひろげ誰の目に触れずとも  
7月3日 美濃野鳥島帽子岳  
母袋の胸に抱かれにきたは誰ぞ  
実るいただき想い叶わざる  
7月8日 加越赤兎山  
草原をさまよひゆかむ君の體に

るものか、鈴鹿の植生が変わり  
だした。御所平や熊登ヶ峰の草  
原はメリケンカルカヤ等が急速  
に増えてきた。鏡ヶヶ口の大峰  
周辺はカヤ原が消え、ヒカゲカ  
ズラが増えていた。2ヶ近いサ  
サ原だったイブネ・クラシ山系  
のササもほとんど消えた。  
特に御池岳が急速に変わりだ  
した。オオイタメイグツの林  
林床のオオシダはほとんど消え、  
トリカブト・バイケイソウ・ミ  
ヤマカンスゲ等に変わってきた。  
真ノ池・元池周辺はミスゴケの  
群落も見られる。そして、天狗  
の鼻・ボタンブチ・東のボタン  
ブチ・南峰等の石灰岩の岩場の  
灌木が枯れ、ゴツゴツとした白  
い岩肌がむき出しになっている。  
これから先どのように変わって  
いくのか見守りたいと思ってい  
る。(近江八幡市 岩野 明)

「播磨の山が危ない」と言っ  
ても何が危ないのか説明が要る。  
火山の噴火や山が崩れるなど、  
登山に直接被害が及ぶものでは  
ない。  
播磨の山へ入って40年余り、

百合と星座と月光がねむる  
7月24日 紀南百間山  
溪谷の青きよどりよ海に流れて  
あこがれの帳帳を走らせろ  
7月29日 但馬鉢伏山  
風はむくたびわが胸板を射ぬき  
舞ひまわることせせり流れる  
8月9日 木曾御登山  
外輪山をめぐりおえ湖に立つ  
雲つつみこみ静かすぎる夏  
8月12日 播州栲樹山  
三百回指導せし小出リーダーの  
岩尾根越えゆく大いなる青よ  
8月17日 北信霧ヶ岳  
われら若き野獣となり登りきて  
霧ヶ岳などかかわりなしぞ  
8月17日 北信霧ヶ岳  
暴風のつぶてへだてる尾根遠く  
はるけき夢の鹿島嶺を呼ぶ  
(吹田市 木村太郎)

2003年冬・山行短歌  
・永野寺笠松山  
薬師草ばつばつ咲く、その花に  
黄檗ひらひら遊ぶ小春日  
老松は恋しく立てり 谷川と  
川辺の屋根を道か見下ろし  
大胆なハート印のニューモード  
何処の葉より亀虫来る  
・京滋音羽山

その間に、山中を徘徊したこと  
など数知れず。その原因の一つ  
は身の丈以上のササが行く手を  
阻んだからである。それが、こ  
こ5年位の間に疎らになり、枯  
れてしまった。  
ササに花が咲いたら枯れると  
言われているが、見るところそ  
れが原因ではないように思う。  
また、ササの新芽を増殖した鹿  
が食べるので枯れたとも言われ  
るが確かな証拠はない。天然林・  
広葉樹林・人工林に関係なくサ  
サが滅び、枯れてきている。  
一例を挙げると、新ハイキン  
グ山行で一昨年未登った三久安  
山。すでに昔の面影は無かった  
が、それでも少しは残っていた。  
それが今回、所用があつて山頂  
へ登ると、見事に枯れ、消えて  
無くなっていた。  
生命力に溢れたササが枯れる  
のは複合的な原因だろうが、地  
球環境変化がそうさせたのでは  
ないかと、頭をよぎる。  
米ノ山の異様なササ原が妨主  
になるのは見たくもないので、  
原因が何なのか早く知りたい。  
ご存知の方はご教示ください。  
(姫路市 須藤岡 輯)

○新ハイ関西サービスチェイン

<p>名神二枚登山 小川 1600m 1600m 子ノ丸登山 小川 1600m 1600m り野登山 (富士山) 富士山 1900m 福島・二枚温泉 日観連 大和館 電話 0555-51-1111 0555-51-1111</p>	<p>富士登山・富士山 東海自然歩道 (三民山) ハヤシ 1600m 三民山の麓 ペンション コットンテール 4011-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 0555-51-6515</p>	<p>大宮駅東口から山崎駅まで バス・タクシー バス 山崎駅東口下車徒歩10分 タクシー 山崎駅東口下車徒歩10分 山小屋 福ちゃん荘 電話 0555-51-1111 0555-51-1111</p>	<p>山崎登山 山崎 1600m 電話 0555-51-1111 0555-51-1111 (山小屋) 電話 0555-51-1111 0555-51-1111</p>	<p>尾崎 平ヶ谷自然歩道の山小屋 電話 0555-51-1111 0555-51-1111 清四郎 小屋 ほんもの手付そば 本店は 電話 0555-51-1111 0555-51-1111</p>	<p>ハイカーの宿・池の平温泉 ナガサキロッジ 百名山を二つ登れる山小屋 黒沢池ヒュッテ 電話 0555-51-1111 0555-51-1111</p>	<p>休前飲食入浴も歓迎 10名以上マイカーで送迎 箱根仙石原温泉 福 島 館 電話 0460-41-0041 0460-41-0041</p>	<p>尾瀬登山ハイキング人口 天然温泉で山の疲れを 水芭蕉の湯 グイッ 風花 (KAZAHANA) 電話 0278-1-5810 0278-1-5810</p>	<p>四季絶えず絶景高原のハイク 上高地・乗鞍岳 冬はスキー けやき祭り・味の新・日観連 温泉旅館 けやき山荘 電話 0260-1-1111 0260-1-1111</p>
---	---	--	--	---	---	--	--	--

山行報告(7月・8月)  
7月3日 岩岳26人。淡墨坂で有名な扇尾村の山で、淡墨坂の東の山、初見にカキノハグサがあったがすでに実になっていた。  
7月11日 御池岳単独。豪雨の影響でコゲルミ谷が荒れている。山頂部のパイケイツウはほとんど咲いていた。数年前の状況思い出した。  
7月24日 田立の滝。南木曾町の田立の滝をご近所の方6名と歩き、白のシモツケソウが不動滝の途中に咲いていた。  
8月8日 鈴鹿・水舟の池7名。鏡子ヶ口の奥にある鈴鹿最大の水舟の池に行った。池へは二度目だが、風越谷からのモノレール道を歩き、1時間登山頂、2時間10分で池に着いた。  
8月13・14日 白山・別山7名。花の山で初見が7種もあった。オオレイジンソウ・センジュガンピ・ミソガソウ・イワイチホウ・ハクサンオオバコ・ワメバチソウ・ハクサンイチゲ。花は総計で120種が咲き、1000種が実で見られたが、知らないのが数種あった。

8月16日 木曾駒ヶ岳・宝剣岳4名。三ノ沢岳を当初予定していたが上り始めの時間が遅く、宝剣岳・中岳・木曾駒ヶ岳と廻った。新ハイウェイでの山行は略(山行報告参照)  
(南濃町・山田明男)

学生の頃、友人と東北の蔵王に登ったとき、経験者の話を聞いて慎重に行動をしていたにもかかわらず、深い霧に包まれて道はずしてずぶ濡れになって山小屋にたどり着いたことがあった。それ以来、人の話と山の状況はなかなか一致しないものだと思うようになった。今でも山に行くときはその当時のことが頭に浮かんでくる。  
三陸海岸や東海道五十三次も踏破した。この夏のテレビでは、小学生が7・8人にごしなが歩いているのを見た。あの頃の私は懐の具合も寂しく、毎日目的の地に着いてから1時間もかけて安い宿を探していた。とにかく笑える旅ではなかった記憶がある。  
最近では、仲間10人位で愛宕山の旧道を歩いて楽しんでい

る。  
そんな私ですが、山を案内してきてはという話もあって、皆さんのお役に立てればと、山行のリーダーを思い立ちました。新ハイウェイでは若者の私ですが、頑張りますのでよろしくお願ひします。  
冬場は愛宕山をシリーズで楽しみ、夏場は近辺の山を散策してみたいと思います。今ひとつ私流ではありますが、来年には京都の東山三十六峰を案内してみたいと考えています。  
(長岡京市 仲谷礼司)

8月29日の行者山に参加された人、寄せ書きありがとうございます。山が終わってJR千代田駅で村田代表から新ハイウェイの金バッヂをもらいました。新ハイウェイでは私をはじめですが、金です。小さなバッヂですが、300回も例会をしたからお礼にもらったのかと思ったのですが、どうもそれだけではないと思っています。  
私の山を整理してみますと、名古屋から電車とバスを使って

行き、名古屋に夜9時までに帰ってくる日帰りの山ばかりです。12府県の山に登りましたが、一度でも申し込みをしてくれた人は雨天中止もいれて952名になりました。村田代表が最も評価してくれているのは、毎週山をやっているの休日に山の空気がなかったからではないかと思っています。  
山が終わって、これからアルパムに申し込んでくれた人のハガキと写真を貼っていきます。7年間本部から来たハガキの束をタンズにしまい込んでいて、今、改めてハガキに書かれた内容などを読んでみると、こんなにもすばらしい機会を与えてくれた新ハイキングに感謝し、人の好意をあまり知らずにリーダーをやっていた自分がすこし情けなくなってきました。  
できることなら、名古屋から電車で日帰りの新しいリーダーが出て来て、もう一度これらの人と出会えたらもっとすばらしい人生が待っているような気がしてならないのです。  
(刈谷市 小出良香)

「紀伊山地の参詣道を歩く」シリーズのコース概要をほぼ決めたので報告します。合計で33コースになりますが、これは見島弘幸氏が当誌上(14・19号)に連載されたエリア別研究「熊野古道を歩く」シリーズの24コースに手を加え、高野町石道・大峰奥道をあわせたものです。  
例般月(土・日)の1泊2日主体)に2コースずつ歩くとして、3年間はかかる予定。実際の例会は季節や休日の関係で必ずしも熊野へいたるこのコース順にはなりません。  
詳しい例会のコースは、その都度の山行計画欄を改めてご覧下さい。  
(熊野古道紀伊路)  
① 川辺橋から藤白神社  
② 藤白神社から拝の峠  
③ 井関から鹿ヶ崎峠  
④ 熊野古道中道路  
⑤ 長尾坂から畑見峠  
⑥ 滝尻王子から連坂峠  
⑦ 近路から小広峠  
⑧ 三越峠から熊野本宮大社  
(熊野古道大辺路)

⑨ 富田坂から安原辻松峠  
⑩ 仏坂から日置川  
⑪ 長井坂から見老津  
⑫ 虫喰岩から三つの地蔵峠  
⑬ (熊野三山を巡る路)  
⑭ 熊野本宮大社から大日越  
⑮ 熊野速玉大社から高野越  
⑯ 大門坂から大雲取越  
⑰ 小口から小雲取越  
⑱ (高野町石道・熊野古道小辺路)  
⑲ 高野山町石道  
⑳ 高野山から大段  
㉑ 大段から伯母子峠  
㉒ 五百瀬から三浦峠  
㉓ 十津川から果無峠  
㉔ (熊野古道伊勢路)  
㉕ 蟹下から扇峠  
㉖ かご立場から八鬼山越  
㉗ 南母峠から逢神坂峠  
㉘ 渡田橋から大段峠・松本峠  
㉙ (大峰奥道)  
㉚ 吉野山から山上ヶ岳  
㉛ 山上ヶ岳から前鬼  
㉜ 前鬼周辺の行地  
㉝ 前鬼から平治宮  
㉞ 平治宮から笠持山  
㉟ 笠持山から玉置神社  
㊱ 玉置神社から熊野本宮大社  
(城隍市 村田哲徳)

<p>八ヶ岳南北縦走の中心地 50年秋新築完成全館個室 木の香も新築温泉生木風呂</p> <p>オーレン小屋 1泊2食付き 6000円 4月来11月末閉鎖 〒399-10213 茅野市北山資料館高野五平55 13の1 電 0266-67-2258</p> <p>北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー J.R.茅野駅・北八ヶ岳登山口まで送迎します。 資料館 〒399-10301 茅野市北山資料館高野五平55 13の1 電 0266-67-2258</p> <p>プロホテル カナール 〒399-10301 茅野市北山資料館高野五平55 13の1 電 0266-67-2258</p>	<p>日本百名山の宿 信州戸隠山 森の宿めるへん 高梨山・黒岩山登山口まで送迎 クロカン・コースご案内 〒388-14100 長野県戸隠村榎木4-1 電 0266-254-2081</p>	<p>日本唯一の女人禁制の山「大峰山」(白登山)の登山口 梅村ヶ岳女人コースもあり 温泉・名水の里 旅館 紀の国屋 甚八 1泊2食付き 7,000円から 〒638-0043 奈良県宇陀市大川村梅川 電 07476-4-0309</p>
--	--	---

<p>さわやか信州 霧大原 山吹の湯 湯田中温泉(秘湯) 日野 屋旅館 〒388-0400 長野県下 高井郡山ノ内町湯田中温泉 電 0269-33-3578</p>	<p>標高2000m 温泉上の温泉 湯の丸宮峠自然休養林 ハイキングにXCSキー 高 峰 温 泉 〒384-10000 長野県小諸市高峰高原 電 02667-2512000</p>	<p>ハイキングにノースキーにノ 志賀高原 石の湯ロッジ バス 熊の湯温泉 床下車 電 02669-3412421 東本郷・東京新聞社近所宿3 1-20-5 (新光源ビル) 調スポートサービス 電 03-3334-110211</p>	<p>塩の道 千両街道 百八十七俵(秘湯原) ホテル 白馬ブランシェ 〒399-9300 長野県北安曇郡白馬村いわたけ 電 0266-72-4452</p>
--	--	---	--

**山行計画**  
(11-12月)  
新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するよう、申込み先を確認の上申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加者代その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなかった場合は必ず連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点の隣に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日短りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。(株式会社福原屋観光シャパンと提携)

準備保険特約内容は次の通りです。(株式会社福原屋観光シャパンと提携)  
死亡・後遺障害保険金額 1000万円  
入院保険金 5000円  
通院保険金 2500円

**山行き申込み書**

山行名 (正確に記入すること)  
期日  
住所 〒  
氏名  
会員番号 (会員でない方は会員外と記入)  
電話番号  
生年月日  
緊急時の連絡先 TEL (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自宅の住所氏名に「様」を必ず入しておいてください。

**(記入例)**  
(注)往ハガキを使用

近畿百名山に登る(第7回)  
但馬・妙見山(一般向き)  
期日 11月3日(日) 日帰り  
集合 JRR新大阪駅正面口7時40分  
コース 新大阪駅(バス)妙見ヶ丘・アサギ山・妙見山・妙見ヶ丘・名草山・金山・阿蘇谷谷・御太夫滝(バス)大坂駅(解散19時頃)  
費用 約3500円(新大阪駅からバス代)

地図 昭文社「水ノ山」  
◎村田智俊 ◎安倉正勝  
◎森比祐美  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

妙見山から阿蘇谷谷に足をのびし、紅葉も楽しめます。雨天中止  
ファミリーハイイク46  
大台・日出ヶ岳(初級向き)  
期日 11月4日(日) 日帰り  
集合 JRR新大阪駅1階正面口構内7時30分  
コース 新大阪駅(バス)大台ヶ原駐車場1日出ヶ岳1正木ヶ原1尾鷲江1大蛇ヶ

雨天中止  
平日ふれあいハイイク49  
京都北山・鎌倉山から峰床山  
期日 11月11日(日) 日帰り  
集合 京阪出町駅京都市バス乗り場7時35分  
コース 出町橋駅(バス)坊村1 鎌倉山1オグロ坂峠1峰床山1トラガリ谷1八丁平1中村壺峠1右保1高川学校前(バス)出町橋駅(解散19時30分頃)  
費用 約2000円(出町橋駅から)

御在所登山に愛知川谷谷歩きに山好き仲間が集う宿  
朝明茶屋  
山小屋 朝明茶屋  
〒610-1251  
三重県三重郡野町千草  
059319311789

九州の最奇麗・日本百名山宮之洞岳に一番近い宿  
久島グリーンホテル  
〒890-1431  
鹿児島県志布志市安房  
099741613021

山行例会の実施について  
山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。

ラインオカラ谷市橋大台ヶ原駐車場(バス)新大阪駅(解散)  
費用 約3500円(新大阪駅からバス代)  
地図 昭文社「大台ヶ原」  
◎木村太郎  
申込み 〒555-0854 吹田市桃山台1の2のB12の20 木村太郎まで  
\*定員20名(会費1000円)  
秋色の東大台を歩く。雨天中止

自然観察山行160  
奥美濃・金巻谷から白倉岳  
期日 11月6日(日) 日帰り  
集合 JRR大塚駅9時00分  
コース 大塚駅(バス)鳥越林道・岐阜県御山山・金巻谷・白倉谷・金巻谷・岐阜県御山山(バス)大塚駅(解散)  
費用 約3500円(大塚駅からバス代等)  
地図 昭文社「大台ヶ原」  
◎木村太郎  
申込み 〒555-0854 吹田市桃山台1の2のB12の20 木村太郎まで  
\*定員20名(会費1000円)  
秋色の東大台を歩く。雨天中止

各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名  
鳥越林道を利用し、金巻谷から白倉谷に岐阜県側から登ります。小雨決行  
鈴鹿を歩く203  
電ヶ岳・静ヶ岳(中級向き)  
期日 11月7日(日) 日帰り  
集合 志保川林道ヘリポート広場8時00分  
コース 広場(車)大波谷合置車(車)石神峠1電ヶ岳1セキオノコバ1静ヶ岳1P1047-P8141-P6231大波谷合置車(解散)  
費用 交通費各目  
地図 昭文社「關ヶ所・雲岳・伊吹」  
◎山田三三  
◎山田三三  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
石神峠から電ヶ岳・セキオノコバ・静ヶ岳へ。峠道の西尾根を赤川の太谷谷合置にくだります。

近畿百名山に登る(第7回)  
但馬・妙見山(一般向き)  
期日 11月3日(日) 日帰り  
集合 JRR新大阪駅正面口7時40分  
コース 新大阪駅(バス)妙見ヶ丘・アサギ山・妙見山・妙見ヶ丘・名草山・金山・阿蘇谷谷・御太夫滝(バス)大坂駅(解散19時頃)  
費用 約3500円(新大阪駅からバス代)

雨天中止  
平日ふれあいハイイク49  
京都北山・鎌倉山から峰床山  
期日 11月11日(日) 日帰り  
集合 京阪出町駅京都市バス乗り場7時35分  
コース 出町橋駅(バス)坊村1 鎌倉山1オグロ坂峠1峰床山1トラガリ谷1八丁平1中村壺峠1右保1高川学校前(バス)出町橋駅(解散19時30分頃)  
費用 約2000円(出町橋駅から)

若狭  
夕暮山(難関市)(難関向き)  
期日 11月13日(日) 日帰り  
集合 国道8号線と国道161号線合流地点のコンビニ向かい側広場8時30分  
コース 広場(車)小河口1夕暮山1小河口(解散)  
費用 交通費各目  
地図 昭文社「難関市」  
◎高尾伸浩



申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
マイカー山行  
つるが山菜会が開いた新ルート  
を歩く。雨天決行

自然観察山行181  
聖徳太子・聖徳太子からタンボ  
(一般向き)

期日 11月13日(日) 日帰り  
集合 JR大塚駅9時00分  
コース 大塚駅(バス)のりこし  
狭登山口ー西台山ータン  
ボー西台山ーのりこし時  
(バス)大塚駅(解散)  
\*帰路に入浴予定

費用 約3500円(大塚駅か  
らバス代)

地図 2万5千:谷汲・博見  
係 ◎鷺見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市蘇原村雨野1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名

のりこし峠から西台山を経てタ  
ンボを注視します。小雨決行

地図探み山行65  
奥比叡・比叡山から大塚

(一般向き)

期日 11月14日(日) 日帰り  
集合 散歩山行9時00分  
コース 出野駅(電車)八瀬比  
叡山口駅ーケープル八瀬  
駅(ケーブル)ロープウェ  
イ比叡駅ー大比叡ー敷連  
草ー横山山ー水井山ー仰  
木峠ー大原寺(バス)  
出野駅(解散)

費用 約2000円(大塚をシ  
ン)

地図 2万5千:京都東北部・  
大塚

係 ◎塚元一彦 ○中村 登  
申込み 〒536-0008  
大阪市城東区関目4の14  
の9の91 塚元一彦まで  
\*定員30名  
\*11月4日まで

新ハイキング関西支部合同。  
京都一周トレイルの三日目。比叡  
山を縦走して大塚にくだります。  
地形図とコンパスを勉強したい人  
歓迎です。シルバード型コンパス  
を持参ください。雨天中止

比叡を歩く36  
西園校から  
武奈ヶ岳・コヤマノ岳  
(一般向き)

期日 11月14日(日) 日帰り  
集合 JR聖出駅バスのりば8  
時40分  
コース 聖出駅(バス)坊村ー御  
殿山ーワサビ峠ー武奈ヶ  
岳ーコヤマノ岳ー中峠  
(または東南尾根)ー金  
葉峠ー青ガレー大山口ー  
イン谷口ー比叡駅(解散  
16時30分頃)

費用 約1800円(京都駅か  
ら)

地図 2万5千:花背・北小松・  
比叡山

係 昭文社「比叡山系」  
◎藤 康夫  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

コヤマノ岳周辺は紅葉のブナ林  
が楽しめます(木誌45号参照)。  
雨天中止

若狭・多田ヶ岳(一般向き)  
期日 11月14日(日) 日帰り  
集合 JR京都駅八条口団体バ  
スのりば7時20分  
コース 京都駅(バス)小浜妙案  
寺ー瀬戸ノ滝ー鞍馬ー  
多田ヶ岳ー多田ヶ岳ー多  
田分岐

田分岐ー林道峠点ー多田  
寺(バス)京都駅(解散)  
約3500円(京都駅か  
らバス代)

地図 2万5千:橋立  
係 ◎山田明男 ○高野芳彦  
申込み 〒503-0535  
海津市南瀬町松山4の19  
山田明男まで  
\*定員20名

正規の登山道ではなく一部道もあ  
りません。紅葉は終わりでしよ  
うか。5月初旬にも一度歩きたい場  
所です。雨天中止

給糧を歩く204  
日本コバ(中級向き)  
期日 11月21日(日) 日帰り  
集合 国道421号線水鏡寺町  
役場8時00分  
コース 役場(車)水鏡寺遊車  
(車)如来堂ー約の穴ー  
岩屋ー日本コバP83  
ーP622ー永源寺  
(解散)

費用 交通費各日  
地図 昭文社「聖在所・雲仙・  
伊吹」  
◎高野 明 ○後藤康幸  
◎山田 三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

田分岐ー林道峠点ー多田  
寺(バス)京都駅(解散)  
約3500円(京都駅か  
らバス代)

地図 昭文社「聖在所・雲仙・  
伊吹」  
◎高野 明 ○後藤康幸  
◎山田 三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

田分岐ー林道峠点ー多田  
寺(バス)京都駅(解散)  
約3500円(京都駅か  
らバス代)

\*マイカー山行  
藤川谷の約の穴と岩屋に立ち寄  
り、日本コバの広大な山頂部を散  
策。雨の水鏡寺に向かう長大な尾  
根をくだります。雨天中止

京都北山ちよと歩き  
京都西山・小塚山から大塚山

期日 11月24日(日) 日帰り  
集合 阪急桂駅東口阪急バスの  
りば8時30分  
コース 桂駅(バス)老の坂西口  
一軒の子谷・小塚山大  
塚山・落内・高尾山バス停  
(解散15時30分)

費用 約1000円(京都から  
のバス代)  
地図 昭文社「北山・京都西  
山」  
申込み ①京山線二  
〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

このコースは里山ですが、谷・  
川に沿って登りますので、スリル  
のある道です。ゆっくり歩きます  
からご参加ください。雨天中止

コース (26日) 飯島駅(バス)  
(27日) (バス) 天竜スー  
パー林道登山口・森布山  
一前法道山・森布山  
登山口(バス) 水窪町宿  
(泊)

期日 11月26日(日) 2日  
集合 飯島駅(バス)  
コース 飯島駅(バス) 水窪町宿  
(泊)  
費用 約3000円(飯島駅  
からバス・宿泊代等)  
地図 2方5千・水窪町・西町・  
伊那町  
申込み ①飯島守康  
〒504-0828  
各務原市飯島村中町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\* 定員20名  
\* 10月25日まで

里法道三山のひとつ前法道山  
を訪ね、翌日は百名山の奥伏山  
に登ります。雨天決行(コース変  
更あり)

一足早い忘年会  
福原・三江山と黒塚山  
期日 11月27日(日) 2日  
集合 J.R.西成駅8時30分  
関西の方は8時33分着

1泊2日  
集合 J.R.新橋駅南バスターミ  
ナル9時15分  
コース 飯の江崎・三江山・三方  
ヶ辻・飯水山・岡城山・  
福原・伊奈内(バス) 福  
知英分休センター(泊)  
(26日) 休養センター  
(バス) 西成駅・三江山・登  
野山・黒塚山・三江山・登  
野山(解散)

費用 約13000円(バス・  
宿泊代等)  
地図 2方5千・寺前・長谷・  
安曇  
申込み ①須藤 昭  
〒571-1252  
松原市余部区上余部50の  
2の11 須藤 昭まで  
\* 定員30名  
恒例の一足早い忘年会を福原の  
奥地で、愉快に語り合います。  
雨天決行

美濃・11月の舟伏山(中級向き)  
期日 11月28日(日) 日帰り  
集合 J.R.西成駅8時30分  
関西の方は8時33分着

コース 西成駅(車) あいの森  
駐車場・松崎・あいの森  
・舟伏山・小舟伏山・阿  
波陀如来の峰・あいの森  
駐車場(車) 西成駅  
(解散)

費用 交通費各目(車代100  
0円)  
地図 奥村さんの地図図を用意  
申込み ①山田明男  
〒503-0535  
海津郡南郷町松山624の19  
山田明男まで  
\* 定員20名  
\* マイカーの方はその旨  
を記載ください  
11月の紅葉は終わりでしょウウ?  
小雨決行

フアミリーハイイク48  
朽木・白倉(中級向き)  
期日 12月2日(日) 日帰り  
集合 J.R.豊田駅8時10分  
コース 豊田駅(バス) 村井一登  
山口・松本池・島野子  
吊・白倉橋・白倉中吊・  
白倉南吊・日野台橋・朽  
木橋生(バス) 豊田駅  
(解散)

費用 約4000円(バス代)  
地図 2方5千・牛野  
申込み ①白倉 一  
〒675-0112  
加古川市市野町山下28  
の33・17A03  
古賀 一まで  
\* 定員22名  
頂上に岩をうろはめた白岩山を  
訪ねます。頑張って高畑山へ地形  
図を頼りに足をとばそう(コース  
変更あり)。雨天中止

海津郡南郷町松山624の19  
山田明男まで

費用 交通費各目(車代1000円)  
地図 昭文社「御在所・窪仙・  
伊吹」  
申込み ①山田 明 ○後藤 肇  
〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* マイカー山行  
黒尾山から北に向かう尾根に黒  
戸山と丸山があるがほとんど歩か  
れていない。山頂部を急峻な道が通っ  
ていて遊覧路があり、眺望もすば  
らしい。雨天中止

仙香山と山頂近くの池を巡りま  
す。午後は焚火・忘年会です。食  
事は準備します。飲み物は各自持  
参してください(マイカー運転の  
方は特価)。雨天中止

仙香山・丸山(中級向き)  
期日 12月5日(日) 日帰り  
集合 国道421号線如茶堂前  
バス停8時30分  
コース 飯島駅前(車) 大塚神社  
広塚・高尾路・蔵戸山・  
丸山・藤畑(解散)

費用 約2500円(豊田駅か  
らバス代)  
地図 2方5千・北小松・久多  
係 ①木村太郎  
申込み 〒565-0854  
吹田市桃山台1の2のB  
12の209 木村太郎まで  
武奈ヶ岳や比良北麓の山々を眺  
めつつ、冬の足音が近づく白倉岳  
の尾根道をたどる。雨天中止

湖北の山  
田原山(木之本町)  
(一般向き)  
期日 12月4日(日) 日帰り  
集合 J.R.木ノ本駅9時10分  
コース 木ノ本駅(タクシー)上  
丹生・田原山・大原・  
上丹生(タクシー) 木ノ  
本駅(解散)  
費用 交通費各目  
地図 2方5千・木之本  
係 ①高島 浩  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
やぶ山山行、三角点が三つあり  
ます。雨天決行

近畿百名山に登る(第78回)  
若狭・青葉山(一般向き)  
期日 12月4日(日) 日帰り  
集合 J.R.京都駅八条口団体バ  
スのりば7時40分  
コース 京都駅(バス) 松尾寺・  
西野・東路・飯野台・高  
野分岐・中山等(バス)  
京都駅(解散19時頃)  
費用 約3500円(京都駅か  
らバス代)  
地図 2方5千・青葉山  
係 ①村田 智徳 ○安倉 正新  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智徳まで  
\* 定員40名  
松尾寺から中山までの縦走コー  
スを歩きます。西野から東峰へは  
岩場があります(9月に中止の再  
行)。雨天中止

九州・白岩山(中級向き)  
期日 12月5日(日) 日帰り  
集合 J.R.西明石駅8時40分  
コース 西明石駅(バス) 黒瀬川  
白岩山・高畑山・真弓  
(バス) 加古川駅(解散  
18時頃)

費用 約4000円(バス代)  
地図 2方5千・牛野  
申込み ①白倉 一  
〒675-0112  
加古川市市野町山下28  
の33・17A03  
古賀 一まで  
\* 定員22名  
頂上に岩をうろはめた白岩山を  
訪ねます。頑張って高畑山へ地形  
図を頼りに足をとばそう(コース  
変更あり)。雨天中止

仙香山・丸山(中級向き)  
期日 12月5日(日) 日帰り  
集合 国道421号線如茶堂前  
バス停8時30分  
コース 飯島駅前(車) 大塚神社  
広塚・高尾路・蔵戸山・  
丸山・藤畑(解散)

費用 交通費各目(車代1000円)  
地図 昭文社「御在所・窪仙・  
伊吹」  
申込み ①山田 明 ○後藤 肇  
〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* マイカー山行  
黒尾山から北に向かう尾根に黒  
戸山と丸山があるがほとんど歩か  
れていない。山頂部を急峻な道が通っ  
ていて遊覧路があり、眺望もすば  
らしい。雨天中止

費用 交通費各目(車代1000円)  
地図 昭文社「御在所・窪仙・  
伊吹」  
申込み ①山田 明 ○後藤 肇  
〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\* マイカー山行  
黒尾山から北に向かう尾根に黒  
戸山と丸山があるがほとんど歩か  
れていない。山頂部を急峻な道が通っ  
ていて遊覧路があり、眺望もすば  
らしい。雨天中止

紀伊山地の善導道を歩く！  
①川辺橋から藤白神社  
②藤白神社から祥の峠

期日 12月11日(日)・12日(月)  
1泊2日  
集合 (1日) 近鉄上本町駅8時00分

コース (1日) 上本町駅(バス)川辺橋→叶前王子→川端王子→和佐王子→矢田峠→平精王子→奈久賀王子→松坂王子→松代王子→龍王王子→藤白神社(バス)宿(泊)

費用 約15000円(バス・宿泊代等)  
地図 詳細図を用意します  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで  
\*定員20名

費用 約7000円(飯急川西能勢口駅から交通費)  
地図 昭文社「北摂・京都西山」  
申込み 56510854  
吹田市桃山台1の2のB12の209 木村太郎まで  
大阪府下で希少のブナ林が自生する屋敷に登る。下山後忘年会を予定。参加希望者は申込ハガキに書き添えてください。雨天中止

費用 約5860円(雑費から・定員金費含む)  
期日 12月16日(日) 日帰り  
集合 近鉄橿原駅北口バス停9時10分(12分差)  
コース 橿原駅(バス)レストラン香前→福井岳→成城峠→成城山→成安寺→山部赤人の墓→天満宮西→丁目(バス)橿原駅(解散・電車)橿原駅→焼肉店パンハウス(忘年会・解散19時)

\*2日間共歩ける人に限る  
まず熊野古道の紀伊路から歩きます。第一回は2日間かけて紀ノ川・川辺橋から有田川・宮原橋まで。色づいたみかん畑の道です。雨天決行

自然観察山行163 (忘年会) 美濃・塔ノ倉(一般向き)  
期日 12月11日(日) 日帰り  
集合 JRR大垣駅9時00分  
コース 大垣駅(バス)聖心殿→奥の院→104鉄塔→塔ノ倉→奥の院→聖心殿(バス)久瀬川温泉(バス)月夜谷山荘(バス)大垣駅(解散)

費用 約10000円(大垣駅からバス代・忘年会会費等)  
地図 2万5千円谷汲  
申込み 5040828  
各務原市藤原村雨町1の19の5 賢貞守康まで  
\*定員20名  
塔ノ倉を歩いて入道後、好評の月夜谷山荘で忘年会を開催します。忘年会とセット山行です。

地図 昭文社「信濃高原」  
係 昭文社「西上川」○井上田晴  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
山頂に龍神社が祀られ、雨乞いの山として信仰された歴史深い山です。龍路に万葉伝説の東海自然歩道歩きます。忘年会に参加の方は申込みがきに「忘年会参加」と記載ください。小雨決行

費用 交通費各自(車代1000円)  
地図 奥村さんの絵地図を用意  
申込み 50310555  
海津郡南郷町松山64の19  
山田明男まで

費用 約3500円(京都駅からバス代)  
地図 2万5千円 野野野  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員40名

雨天決行(コース変更あり)  
4 週末ハイイク65 (忘年会) 湖北・鎌ヶ岳から山本山  
(一般向き)  
期日 12月11日(日) 日帰り  
集合 JRR京都駅八条口団体バスのりば8時00分  
コース 京都駅(バス)余呉登山口→大岩山→鎌ヶ岳→山本山→山本(バス)野洲駅前(解散)

費用 約3000円(バス・保険代)  
地図 2万5千円 木之本・竹生  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員20名(会員に限る)  
\*11月30日まで

余呉湖や琵琶湖を望んで歩きます。野洲駅前解散後、忘年会参加者は入浴し、送迎バスで宴会場へ移動します。宴会参加者は申込みがきに「忘年会参加」と朱記しください。雨天決行

費用 約3500円(京都駅からバス代)  
地図 2万5千円 野野野  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員40名

費用 約3500円(京都駅からバス代)  
地図 2万5千円 野野野  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員40名

費用 約3500円(京都駅からバス代)  
地図 2万5千円 野野野  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員40名

火曜ハイイク！  
愛宕山シリーズ！  
中尾根・愛宕神社から清滝  
(一般向き)  
期日 12月14日(日) 日帰り  
集合 JRR保津駅9時00分  
コース 保津駅→中尾根→大岩→炭焼き峠→七七日→愛宕山社務所→月輪寺→清滝バス停(解散15時30分頃)

費用 交通費各自  
地図 2万5千円 京都西北部  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

リーダーとしての最初の山行です(せせらぎの欄参照)。一部懸崖路もありますが、奥志賀や西山の展望が期待できます。雨天中止

ファミリーハイイク49 (忘年会) 北摂・熊野妙見山(一般向き)  
期日 12月15日(日) 日帰り  
集合 能勢電鉄妙見口駅改札口前10時15分  
コース 妙見口駅→初釜温泉→妙見山三角点→妙見宮→ブナ林→光明山→天台山

費用 約3500円(京都駅からバス代)  
地図 2万5千円 野野野  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員40名

費用 約3500円(京都駅からバス代)  
地図 2万5千円 野野野  
申込み 61000121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員40名

京都北山ちよと歩き  
比較・比較山道八丁合

期日 12月22日(日) 日帰り

集合 ケーブル八幡駅9時30分  
コース ケーブル八幡駅→四明岳  
分岐→八丁谷→五郎坂→  
八幡大講堂(解散15時頃)

費用 約1000円(京都から)

地図 昭文社「京都北山」

保 ①興山監三

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

近畿百名山に登る(第79回)  
京都西山・ボンボン山

期日 12月23日(日) 日帰り

集合 JR山崎駅8時30分  
コース 山崎駅→天王山→柳谷観  
音→大沢→釈迦窪→ボン  
ボン山→本山寺→神峰山  
寺→神峰山口(バス)高

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂・京都西  
山」

〇岩崎健司 〇小出良春(計19名)  
台高・明神岳から検塚  
(週末ハイイク61)

7月3日(日) くもりのち晴れ  
(集合) 近鉄大和八木駅8・10  
55→林道終点(登山口)10・05  
→キワダサコ谷出合10・35→40→  
明神平11・40(昼食)12・20→明  
神岳12・50→松塚奥峰13・35→松  
塚13・45→50→松塚奥峰14・00→  
15→明神岳15・15→25→明神平15・  
40→キワダサコ谷出合16・10→15  
→林道駐車場16・45→17・10(バ  
ス)大和八木駅18・50(解散)

〇村田智俊 〇安倉正勝  
〇北比倫美  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

年末にロングコースを歩く  
北摂・箕面駅から妙見山口駅

期日 12月29日(日) 日帰り

集合 阪急箕面駅8時00分  
コース 箕面駅→箕面滝→箕面川  
ダム→みのお記念の森→  
鉢伏山→明→田尻山→光  
明寺→国道423号線→  
出世大黒天法輪寺→天台  
山→吉川峠→能勢電鉄妙  
見山口駅(解散16時頃)

費用 約1500円(大阪から)

地図 昭文社「北摂・京都西  
山」

保 ①村田智俊

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10  
村田智俊まで

恒例の年末ロングコース。今年  
は其旗の里山を巡って歩きます。  
雨天中止

〇野野東彦 (計24名)  
大峰・種村ヶ岳  
(近畿百名山に登る第71回)  
7月4日(日) 晴れ  
(集合) 近鉄大和八木駅8・00  
(バス) 清浄大橋9・35→45→林  
道終点10・00→レンゲ辻11・40→  
50→底根広場12・10(昼食)12・  
40→山上13・10→種村ヶ岳13・  
45→50→山上14・20→法刀峠15・  
20→母公堂16・00→10(バス)洞  
川温泉16・20(入浴)17・15(バス)  
→樫原神社前駅18・30(解散)  
楽しみにしていたオオヤマレン  
ゲは登山道沿いに一本だけ咲いて  
いた。今年は開花が早くすでに終  
わっていた。風がひんやりとして  
納涼ハイイクだった。種村ヶ岳から  
は、山上ヶ岳から赤山への大峰主  
稜が指しに展望できた。

村田智俊 仲谷谷崎 野末あや子  
薄井洋子 近田智子 安田文美江  
高橋輝治 上西勇子 中尾美智子  
繁田広美 山本京子 上田裕子  
小松志信 船越利明 船越みよ子  
小林 桂 森田久子 〇瓜敷利明  
〇野野東彦 (計24名)

### 山行報告 (7・8月号)

飛騨・川上岳から位山  
(自然観察山行15)

7月2日(日) 午後3時(山)  
前後発日帰り

(2日 晴れ) (集合) JR岐阜  
駅23・00(バス)

(3日 曇り) (集合) JR岐阜  
駅23・00(バス)

途中(飯飯) 位山荘4・45(朝食)  
5・40(バス) 林道ゲート6・10  
1尾根上小広場7・45→50→馬瀬  
登山道合流点8・35→宮村登山道  
合流点8・45→川上岳9・00→25  
→位山(大空遊歩道)→第三頂点10・  
45→位山12・30(昼食)13・40→  
1モンアウス飛騨位山道の駅14・40  
→50(バス) 清水の湯15・25(入  
浴)16・20(バス) 岐阜駅18・45  
(解散)

雨には降られなかったものの雲  
が多く、期待の川上岳からの山岳  
展望はもの足りなかった。かなり  
のむし暑さで、天を遊歩道は思い  
のほか長かった。

(参加者) 池田繁実 加納由紀子  
岡田直規 岡本佳子 荻野智穂子  
栗橋直吉 栗橋君子 菅 キヤウ  
北村 正 多田陽子 前田孝久子  
堤 良男 長尾一令 武藤由美子  
平田輝美 細井貞子 森 美智子  
森 晴代 〇森崎良彦 (計20名)  
〇鷺見守康

北摂・湯谷ヶ岳  
7月3日(日) 晴れ

(集合) JR茨木駅9・40→52  
(バス) 湯谷ヶ岳12・23(昼食)

11・52 湯谷ヶ岳12・23(昼食)  
13・00→住宅地13・15→鉄原13・  
55→忍頂寺14・55→15・40(バス)  
茨木駅16・30(解散)

風のないムシムシする暑いなか  
のどかな田園風景を見ながら湯谷  
ヶ岳に登った。三角点は杉林林の  
中にあり、広い山頂だった。ロー  
ズタウンの住宅地から鉄原バス停  
に行くが、バス待ち時間があつた  
ので山麓自然歩道から忍頂寺まで  
歩いた。

(参加者) 高山 藤本桂吉  
松田 久 藤村勝彦 伊藤正延  
石村英雄 志水明美 佐野信江  
石原順次 大谷章子 広田不修子  
栗田陽子 白根孝子 松本陽子

酒田公明 池田隆一 山田義三  
神野孝允 今井敏雄 岡本美千子  
谷 守 今岡民代 石田真由美  
西村正春 谷口英雄 〇筒井克治  
(計14名)

加藤・赤見山  
(ファミリーハイイク40)

7月8日(日) 晴れ

(集合) JR新大阪駅7・00(バ  
ス) 小原林道登山口広場11・25→  
40→小原峠12・20→30→大舟山分  
岐12・55→赤見山13・20(昼食)  
14・00→避難小屋14・15→30→赤  
見山14・50→15・00→小原峠15・  
25→40→登山口16・10→30(バス)  
新大阪駅21・10(解散)

赤見山までがんばり、白山連峰  
や加越の山々を眺めながら昼食に  
した。赤見山の木道を歩いて高原  
情緒に浸り、サヤユリやニッコウ  
キスゲを愛で、少し遠出の山旅を  
満喫した。  
(参加者) 森本幹雄 宮野祐子  
眞田久子 市野博文 青木一雄  
小谷裕子 栗田幸子 三下須美恵  
角田一江 荻野陽子 神 美栄子  
神 照司 木村 豊 本田久志子  
中島 隆 徳保 石井美恵子  
井上恭子 長尾一令 田所真男子

大東 哲 東中次夫 中津ちず子

松村種子 中江清剛 金藤十恵子  
妹尾一正 松井明忠 田中三恵子  
西條良彦 岩城豊子 中尾美智子  
村上嘉子 松尾麗子 成川みさお  
本間剛重 岩村善子 久保田裕子  
古川正子 木本幸子 渡部和美  
上田久子 木家夢子 小山晴美  
○川上友聖 ◎木村太郎 (計46名)

元福谷・左儀

(船鹿を歩く197)  
7月11日 晴れ  
(集合) 深山橋広場8・30―元福  
谷9・30―大滝10・00―左儀出合  
10・30―瀬流12・30―仙ノ谷源頭  
12・40 (昼食) 13・30―仙ノ谷14・  
50―元福林道15・00―広場16・10  
(解散)

猛暑で沢に入ると生き返った。  
明るく花崗岩のナメ・トロ・池が  
源流まで続き、沢登りを十二分に  
楽しんだ。橋頭ともいえる仙ノ  
谷の源頭で昼食。仙ノ谷へ一気に  
くだった。

(参加者) 後藤康幸 奥野太一郎  
小林 桂 一芝義雄 一芝美知子  
谷 守 櫻田勝利 網木美恵子  
水谷鉄治 友田 毅 友田美穂子  
今井武司 ○山田登三

◎岩野 明 (計14名)

北摂・明ヶ野尾山から鉢伏山  
7月11日 晴れ

(集合) 地下鉄千里中央駅10・00  
10 (バス) 北摂霊園11・15―明  
ヶ野尾山12・12 (昼食) 12・45―  
鉢伏山13・29―一の松記念の森13・  
50―宮前敷14・18―天井ヶ岳14・  
44―其の池の滝15・43―飯倉其池  
16・20 (解散)

其の池周辺の西山を歩いた。前日  
の雨のおかげで思ったほど暑くな  
く、百年樹付近ではサルにも出会  
え、其の池では女性が泳いでい  
た。

(参加者) 池田暢子 岡田芳良  
福井清之 和田直樹 中村英雄  
森田 晃 柳 熙司 柳 美幸子  
柳川常雄 渡部和美 森 美恵子  
船田 誠 前田栄三 水本加津菜  
岩田育士 矢野 聡 中尾美智子  
若林崇吉 栗崎裕子 川北恵美子  
若林文夫 立川郁夫 庁 すす子  
多賀久子 小林博子 小坂さゆり  
長沢佑美 伊藤正延 妹尾一正  
和田純子 森田久子 朝倉松雄  
○市野博文 ○林 信男 (計35名)  
◎小出良春

六甲・布引ノ滝から穂高湖  
(平日ふれあいハイック46)

7月15日 晴れ

(集合) JR新幹線新神戸駅8・  
50―布引の滝9・15―松ヶ原10・  
00―10トエンテイクロス終点11・  
10―20―桜ヶ原分岐11・55 (昼食)  
12・45―穂高湖13・35―45―そま  
谷峠13・50―穂高神社15・45 (解  
散)

カンカン照りの陽光しのきつい  
1日だったが、トエンテイクロス・  
そま谷と谷水は冷たく木陰も多く、  
穂高湖は涼しい風があった。

(参加者) 市野博文 南ミヤ子  
中村英雄 吉野孝次 中嶋日出男  
渡部和美 辻 高子 立川郁夫  
岡田馨美 長沢佑美 川崎敏雄  
吉野孝子 松本中雄 木下朝子  
○川上久聖 ◎寺井恒夫 (計16名)  
開アルプス  
荒川三山と赤石岳  
(自然観察山行152)  
7月16日(金)夜20日(日)  
前後発3泊4夜  
(16日) 晴れ (集合) JR岐阜  
駅23・00 (バス)  
(17日) 晴れのちくもり (バス)  
穂高湖ロジジ4・50 (朝飯休憩) 6・

の強風に叩かれたが、高山のお花

畑を羨しみ、翌日の赤石岳ではア  
ルプスの景観を満喫し、3000  
以上を歩いたり歩いた

(参加者) 金森節子 萩野英紀恵  
栗林美智 小橋若子 落合ひろ子  
川島勝美 小松志信 北村つねみ  
上田久子 高松裕子 船木裕江子  
島田信吾 仲谷礼司 森 美香子  
長尾一令 早田輝美 村井若和  
村川春忠 若松彰子 ○若野東彦  
◎夏賀守康 (計21名)

湖北・行市山

7月17日(山) くもり  
(集合) JR木ノ本駅9・33 (タ  
クシ) 柳ヶ原10・10―久々坂峠  
10・45―女衾尾城跡11・00―10―  
久々坂峠11・25―唐子山分岐12・  
15 (昼食) 13・25―行市山14・30  
―50―別所山15・20―30―毛受見  
第16・25 (解散)

このコースは「つるが山業会」  
が新たに伐り開いた歴史の道であ  
る。「鎌ヶ岳の戦い」の折、北軍  
の柴田勝家が玄蕃尾城に、佐久間  
盛久が行市山に陣を構えた所であ  
り、この間の尾根を武行・人馬が  
行き来していた。421年後の平  
和な時世に歩ける喜びを感じ、往

古を巡んだ。

(参加者) 宮西和子 吉戸喜久江  
稲本芳雄 石原裕子 木下朝子  
谷 守 加藤園計 磯部 純  
岩田利嗣 木戸雪江 光川一美子  
白石初男 ◎高島伸浩 (計13名)

七人山・西ヶ岳 (鈴鹿白山58)  
7月18日(日) くもり一時雨

(集合) 五ヶ岳の山頂駅8・25  
(車) 朝明駐車場8・40―50―根  
の平峠10・00―七ヶ岳出合10・  
35―コクイ谷出合11・05―七人山  
11・55 (昼食) 12・30―東雲野13・  
00―雨を待つ13・15―杉峠14・10―  
コクイ谷出合15・15 根の平峠16・  
10―朝明駐車場17・10―25 (解散)  
曇り空で時々たま小雨がぱらつく  
天候で暑すぎることなく、山ビル  
様もお出ましで4人が顔食となっ  
たが、ロングコースを皆さん歩き  
通した。

(参加者) 馬場裕子 宮口善久江  
佐藤文江 成瀬忠市 成瀬みち子  
藤岡国男 林 正義 山野志保江  
笹野正哉 今井みゆ子  
岸江まき子 長坂佐知子  
○高原芳彦 ◎山田明男 (計17名)

北摂

光明山・天台山から青嵐山  
7月18日(日) くもり一時雷雨

(集合) 阪急池田駅9・55―10・  
10 (バス) 平野10・45―赤穂寺11・  
10―光明山11・55―天台山12・20  
(昼食) 13・00―青嵐山14・05―  
徳勢電鉄砂見口駅15・02 (解散)  
光明山・天台山は杉林のなかに  
ピークがあったが、青嵐山は自然  
林を何層も上り下りしながら歩い  
て行った。三山の中では青嵐山が  
一番いい山だった。

(参加者) 橋原良彦 伊藤正延  
岩田育士 前田栄三 藤本佳吉  
荒木光雄 若林文夫 渡部和美  
櫻田隆子 本間 隆 岩本いずみ  
中村英雄 志水明美 庁 すす子  
森田久子 朝倉松雄 ○林 信男  
◎福澤 章 ◎小出良春 (計19名)

鈴鹿・鎌ヶ岳から雲母峠  
7月18日(日) くもり  
(集合) JR京都駅7・10 (バス)  
武平峠9・20―30―鎌ヶ岳10・30  
―45―伝馬11・00―白ハゲ11・30  
―45―途中分岐12・00 (昼食) 13・  
00―雲母峠14・00―30―キララ橋  
15・45―星のひろば15・55―16・  
15 (バス) 京都駅18・50 (解散)

00 (バス) 東海フォレスト送迎バ

スのりば6・10―20 (送迎バス)  
千枚岳林道登山口7・15―20―清  
水平10・30―45―わらびの段手前  
11・10 (昼食) 11・35―わらびの  
段12・00―白駒台12・10―駒島の  
池13・30―千枚小滝14・20 (泊  
(18日) 雨時々くもり) 千枚小屋  
7・50―千枚布8・20―35―丸山  
10・00―懸崖橋10・45―11・00―  
中岳避難小屋11・20 (昼食) 11・  
50―荒川中流12・00 荒川小屋13・  
15 (泊)

(19日) 晴れ時々くもり 荒川小  
屋6・30―大聖寺平7・35―50―  
小赤石岳9・20―55―赤石小屋分  
岐10・10―赤石岳10・30 (昼食)  
11・35―分岐11・50―草土見13・  
50―14・00―赤石小屋14・30 (泊  
(20日) 晴れ時々くもり) 赤石小  
屋5・30―カンパの段6・50―7・  
05―椋高ロジジ8・55―9・40  
(送迎バス) 東海フォレスト送迎  
バスのりば10・40 (バス) 口坂本  
温泉12・30 (入浴) 13・20 (バス)  
静岡インター付近レストラン14・  
30 (昼食) 15・25 (バス) 岐阜駅  
18・30 (解散)

三度目の正直で荒川三山と赤石  
岳を踏破。荒川三山では雨降り

涼しい山歩きだった。キララ橋

ではほとんどの人が、鞍の中に侵  
入していたヒルをとった。

(参加者) 沖 伸 武部美恵子  
木村 登 東中次夫 白尾忠子  
宮野信郎 宮野純子 市野博文  
布野清美 小川 桂 中尾美智子  
岩崎賢司 藤村勝彦 吉野孝次  
西村文男 多賀園二 久保田順一  
松本勝子 牧 和夫 夜久弘子  
小倉孝子 眞比裕美 ○森野良義  
◎磯野重治 ◎中西信行 (計27名)

鈴鹿・神崎川源流 (三重の山3)  
7月24日(日) 晴れ  
(集合) 朝明谷谷軒駐車場8・30―  
羽鳥峠9・50―10・05―ヒロ沢出  
合11・00 (昼食) 11・45―下水扇  
谷出合12・45―谷出合13・43―55―  
根ノ平峠14・20―27―朝明谷軒  
駐車場15・30 (解散)

男6人が重心に戻えり、水浴び  
したりアマゴの姿に歓喜したりの  
楽しいリフレッシュ山行だった。  
(参加者) 栗本敏夫 水谷鉄治  
高橋止人 新野幸夫 ○植田孝夫  
◎尾崎英五 (計6名)

(集合) JR熊取駅10・40(バス)  
大鴨山11・05(木立)11・32(夜の  
行者の洞)12・05(昼食)12・40  
高城山13・30(高城山)13・50(本  
堂)14・30(大鴨山)15・10(27(バス)  
ス) 15・50(解散)

大鴨山バス停に到着するお祭  
りの最中、漢字では「ベッキー」  
水浴びの人でいっぱいだった。昼  
食が済んだ頃、ゴロゴロと鳴り出  
した。高城山の途中で雷雨となり  
雷が目の前に落ちた。道も雨で川  
のように濡れてきた。やっと思  
いで本堂に着いて雨宿り。長い間  
雷にまとわりつかれ、「大鴨山」  
が「雷鳴山」になった。

(参加者) 山岸裕雄 中村啓一  
本家淳子 堀尾香織 岩田育士  
矢野 隆 柿原良彦 中島純一  
前川富雄 藤村勝彦 前田栄三  
小谷和子 森 岡好 岡本美千子  
上田久子 林 信男 山崎佐知子  
志水明美 若林文夫 渡部和美  
山崎勝美 山 隆 市野博文  
白田忠子 森 晴代 若木いすゞ  
和田真樹 茨木良雄 中尾美智子  
橋田啓子 東中次夫 山本千鶴子  
熊木秀雄 朝倉登雄 ○福間 章  
○大和 結 ◎小出良春(計27名)

・台風接近のため中止しました。

・高城山

7月25日(日) 晴れ  
(集合) JR西岐阜駅8・10(車)  
高賀の森駐車場9・35(40)林道  
10・00(岩屋)10・40(御坂)11・  
30(高賀山)12・00(昼食)13・00  
14・35(高賀の森駐車場)14・50  
(車) 高賀神社15・20(車) 西岐  
阜駅16・30(解散)

6月のヤマビルの集中攻撃にま  
いて、今回のみ隣の高賀山に更  
更した。けっこう花があり、先回  
来た時に気になっていた花の名前  
もわかった。花の名前は「ヤマジ  
オウ」で、美しく咲いていた。  
(参加者) 山田妙子 伊藤恵美子  
成瀬市市 丹下由子 今井みよ子  
栗本敏夫 ◎山田明男(計7名)

八瀬ノ滝めぐり(比良を歩く)  
7月25日(日) 曇り時々晴れ  
(集合) JR近江高島駅8・30(バス)  
35(バス) ガリバー旅行社9・00  
25(バス) モミジ谷9・40(鴨川林道  
山合)9・42(柳子ヶ淵)10・03(大  
瀬)10・35(45) 貴船ヶ淵・滝点  
10・54(貴船ヶ淵上部)11・05(20  
1七瀬)11・35(オガサカ道

分岐手前の川原11・55(昼食)12・  
30(カラ岳)13・22(35)シヤカ岳  
分岐13・40(1日)リフト・シヤカ岳  
駅14・10(20)旧リフト・山麓駅  
15・13(イン)谷口15・20(比良駅  
16・00(解散)

登山客が少なかったのでクサリ  
場での憩待ちもなく、順調に流  
めぐりができた。涼風を浴びて涼  
味満点、垂直の崖壁に点々と映く  
イワタバコ、紅葉色が印象的だっ  
た。

(参加者) 岩鶴健司 宮路ちへ子  
山科邦彦 前田初雄 中嶋日出男  
栗原崇吉 栗原君子 柴田チヨコ  
山下晴美 三下伸夫 前田喜久子  
佐野信江 武部 剛 武部美英子  
山崎由子 谷 守 石井恵美子  
藤野重治 多賀久子 山岡美英子  
佐分利司 小林 修 高岡富美子  
上田千子 藤本和子 久保田瑠子  
松見 昭 渡多野恵子  
井林寿寿子 猪俣美穂子  
○宮下厚一 ○大東 哲  
○青木一雄 ◎桑 康夫(計27名)

湖北・伊吹北麓線

7月28日(日) 晴れ  
(集合) JR関・原駅9・10(15  
薄雲山)13・45(14・15)金ピラ峠  
14・50(ゴンドラ)山麓駅16・00(1  
02(バス) 志賀駅16・15(解散)  
暑い夏も緑に包まれた深山奥谷  
の白雲谷道は涼しい。滝草から蓬  
萊山へは比良の眺望を楽しみなが  
らリフトで美して登った。蓬莱山  
頂では涼しい風を満喫し、パラグ  
ライダーが飛び立つのを興味深く  
見送った。

(参加者) 横庭 栄 長尾助子  
馬場重男 西原俊弥 前田初雄  
朝倉登雄 加藤元彦 前田登久子  
堀井洋子 堀井清之 井林美希子  
宮下厚一 木本恭子 中嶋日出男  
木間 隆 山下信三 山口野野  
大槻一天 福間 章 ○安藤正勝  
◎村田智俊 (計21名)

紀東・奥高城山  
8月11日(日) 晴れ  
(集合) 南海幸子駅10・45(高仙  
寺)11・05(高野山)11・35(反対)11  
47(橋上)12・20(昼食)13・  
00(高野山)13・30(40)みさき公  
園駅15・17(解散)

高仙寺の長い石段を登ると旧い  
歴史を感じさせるお堂があった。  
お堂の裏から雑木林を歩いて飯盛  
山に登った。山頂からは六甲・淡

伊吹山頂上駐車場9・55  
1静馬ヶ原10・20(熊平)12・15  
(昼食) 12・55(御座峰)13・20(1  
大栗山)14・05(岡見)15・00(教  
如上人分岐)16・00(大栗の清水)16・  
25(45)寺本17・40(18・26(バス)  
ス) 近鉄御座駅19・21(電車) 大  
塚駅20・00(解散)

千穂通りの暑さに一部の方に疲  
れなどあり、足が揃わず帰りが遅  
くなったが、そのぶんゆっくり花  
巡りができた。

(参加者) 西 悦子 三下須美里  
川島勝美 西原俊夫 三井千鶴子  
宮路ちへ子 宮路崇希子  
○木村 豊 ◎田中 明(計9名)  
北アルプス・乗鞍連峰  
(自然観察山行153)  
7月30日(日) 31日(日) ◎警備守衛  
・台風接近で悪天が予想されたた  
め中止しました。

・大峰・大菩薩連峰

7月31日(日) ◎小出良春  
・台風接近のため中止しました。  
8月1日(日) ◎村田智俊

約70種の花入り、特にキセウク、  
イブキノケケンシヨウマ・チヨウ  
センキンミズヒキに出会えたのは  
ラッキーだった。  
(参加者) 中尾和子 道平あわみ  
原 幸子 松田和弘 藤野高麗重  
百瀬啓子 藤原厚子 ○木村 豊  
◎田中 明 (計9名)

播州・扇屋山  
8月12日(日) 晴れ

花巡り山行(7)

薄雲山)13・45(14・15)金ピラ峠  
14・50(ゴンドラ)山麓駅16・00(1  
02(バス) 志賀駅16・15(解散)  
暑い夏も緑に包まれた深山奥谷  
の白雲谷道は涼しい。滝草から蓬  
萊山へは比良の眺望を楽しみなが  
らリフトで美して登った。蓬莱山  
頂では涼しい風を満喫し、パラグ  
ライダーが飛び立つのを興味深く  
見送った。

(参加者) 横庭 栄 長尾助子  
馬場重男 西原俊弥 前田初雄  
朝倉登雄 加藤元彦 前田登久子  
堀井洋子 堀井清之 井林美希子  
宮下厚一 木本恭子 中嶋日出男  
木間 隆 山下信三 山口野野  
大槻一天 福間 章 ○安藤正勝  
◎村田智俊 (計21名)

約70種の花入り、特にキセウク、  
イブキノケケンシヨウマ・チヨウ  
センキンミズヒキに出会えたのは  
ラッキーだった。  
(参加者) 中尾和子 道平あわみ  
原 幸子 松田和弘 藤野高麗重  
百瀬啓子 藤原厚子 ○木村 豊  
◎田中 明 (計9名)

播州・扇屋山  
8月12日(日) 晴れ

(集合) JR 鶴巻駅 10・32 大蔵  
神社 10・55 桶原山 12・20 (集合) 葛  
13・00 高尾台への後戻り 15・02  
40 ビート 210 15・27 鹿島  
神社 16・10 JR 曹原駅 16・47  
(解散)

負夏の低山ハイイクのすこさを実  
感した。海からの風がもう少しは  
しかつたが、思ったほど風はなく  
頭がクラクラしてきて休憩の多い  
山になった。鹿島神社からはバス  
便と余力のある人は駅まで歩く二  
組に分かれた。

(参加者) 中村啓一 宮路ちへ子  
伊藤正延 藤本杜吉 中尾美智子  
栗橋忠吉 栗橋君子 野々山 寛  
川崎敏雄 東中次夫 森 晴代  
木村太郎 近田智子 ○和田直樹  
○宮下淳一 ○小出良春 (計17名)

北アルプス後立山連峰  
五竜岳・飛鳥嶺ヶ岳・鷲ヶ岳  
(自然観察山行154)  
8月13日(夜) 15日(日)  
前夜交1泊2日

(13日) 晴れ (集合) JR 岐阜  
駅 23・00 (バス)  
(14日) 晴れのち雨 (バス・途  
中休憩) 白馬村ホテル 5・30 (朝  
食休憩) 6・40 (バス) 五竜とお

みスキー場 6・45 7・30 (コン  
ドラ) アルプス平 7・40 50 1地  
蔵の頭 8・10 15 小見山 9・  
25 35 大見山 10・35 45 西  
遠見 11・15 (集合) 11・45 五竜  
山荘 13・30 (集合)

(15日) 雨のちくもり 五竜山荘  
7・40 皆松山 10・00 10 1八  
方尾根リフト終点 12・00 (リフト)  
ゴンドラリフト上のりば 12・30  
(集合) 13・00 (リフト) 八方第  
二駐車場 13・30 40 (バス) 栗駒  
の湯 14・15 (入浴) 14・50 (バス)  
岐阜駅 19・10 (解散)

山行2日目、朝方の強風のため  
行動できず、時間不足によりコー  
スを変更して下山した。1996  
年の例会とはほぼ同一行程で、かつ  
天候の変化も似ていたが、やはり  
2日目の予定行動時間が9・10時  
間というの無理があった。今後  
の教訓としたい。

(参加者) 岡田直規 浅谷ひろ子  
橋方由子 金森節子 加納由紀子  
小松正信 鈴木吉和 林 えい子  
高橋裕治 長尾一介 船本裕子  
佐野暢子 橋本正子 前田喜久子  
村井芳和 村川忠 森本淳子  
○高尾忠吉 ○繁日守康 (計19名)

8月22日(日) 曇り  
(集合) JR 西岐阜駅 8・35 (車)  
夏越林道車止 9・45 1の森駐  
車場 10・30 1 桜峠 11・15 1のわ  
平 11・40 1 舟伏山 12・40 (集合)  
13・30 1 阿弥陀仏の峠 14・30 1 あり  
の森 15・20 1 夏越林道車止 16・  
00 (車) 西岐阜駅 17・05 (解散)

トリカブトの葉を期待したが全く  
咲いていない。代わりに群落で  
シギンカラマン・マツカゼソウの  
白と、フシダロセンノウ・キフネ  
ノカミソリのオレンジがきれいだった。  
レイジソウが多く見られた  
が、花はまだこれから咲くのだから。  
とにかく花はとでも多く4月  
に負けなかった。

(参加者) 山田妙子 今井みよ子  
馬場桂子 沖 伸 伊藤美恵子  
若林文夫 成瀬忠実 長坂佐知子  
奥野良恵 奥野富美 長岡正隆  
丹下由子 ○山田明男 (計13名)

8月22日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 8・40 9・  
00 (バス) 坊村 9・35 10 1 牛コ  
バ 10・45 10 1 白滝 11・40 1 50 1  
夫船瀬・滝見不動 12・20 (集合)

比良・白滝山  
(ファミリーハイイク1)  
8月26日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 8・40 9・  
00 (バス) 坊村 9・35 10 1 牛コ  
バ 10・45 10 1 白滝 11・40 1 50 1  
夫船瀬・滝見不動 12・20 (集合)

入道ヶ岳(鈴鹿白山群)  
8月29日(日) 小雨のちくもり  
(集合) 近鉄湯山駅 8・40 (車)  
小坂須谷合駐車場 9・15 1 30 1 池  
ノ宮 10・10 00 1 滝・谷分岐 11・  
10 1 朝比奈峠 12・15 (集合)  
食 一本松下 12・50 1 滝・谷分

8月29日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 9・40 (タク  
シー) 池内内線 10・20 1 第五鉄塔  
11・50 (集合) 13・00 1 池内内線  
14・40 (解散)

池内内線からよく列り込まれた  
鉄塔高視路を池内山へ往復。五番  
目の鉄塔下で賑やかなランチタイ  
ム。食後教習所を眺めながら「ふ  
るさと」を合唱した。  
(参加者) 前田悦子 宮戸喜久江  
関口恵子 阪上義次 吉澤孝次  
宮内初子 岡島一光 井上由紀晴  
井上聡美 栗橋忠吉 栗橋君子  
谷 守 田中幸子 光山一 三男子

中国山地の山々  
那岐山・樺ヶ山・鷲峰山  
8月13日(日) 15日(日) 2泊3日  
(13日) 晴れ (集合) JR 新大  
阪駅 7・30 (バス) 蛇ヶ岡 10・50  
1 11・00 1 Cコース 大蔵岩 12・  
10 1 那岐山 三角点 12・50 (集合)  
13・30 1 那岐山 最高点 13・40 1 A  
コース分岐 14・00 1 Aコース 西  
根寺 15・20 1 30 (バス) 湯原温泉  
(棲子荘) 17・00 (泊)

(14日) 晴れ 宿 7・50 (バス)  
久納 8・20 1 七日分岐 10・20 1  
天狗の森 10・40 1 榎ヶ山 11・00 1  
30 1 大庭田川合流 12・00 (集合)  
12・30 1 竜頭ノ滝分岐 12・50 1 久  
納 13・10 (バス) 三徳山 14・40 1  
境内見学 投入堂 15・30 1 40 1 三  
徳山 16・40 (バス) 三朝温泉 プ  
ランナルーム 17・00 (泊)

(15日) くもり 宿 8・00 (バス)  
河内 8・40 1 増地工事箇所 9・10  
1 安越峠 10・00 1 鷲峰山 11・10 1  
30 1 古仏谷 13・20 (バス) 鹿野温  
泉(山荘在) 13・30 (集合) 14・  
40 (バス) 大蔵駅 19・15 (解散)

中国山地東部ですれも登りが  
いのある赤い山を選んで登った。  
三徳山では投入堂登山でクサリ場  
のある急坂道を笑し、鷲峰山の

8月22日(日) 晴れ  
(集合) 大井川鉄道神尾駅 10・10  
1 地蔵峠 10・40 1 神尾山 11・45  
(集合) 12・15 1 経塚山 12・55 1  
13・05 1 林道 13・40 1 福用駅 14・  
20 (電車) 名古屋駅 17・15 (解散)

遠路関西から中島・前田・森澤  
さんありがすごございました。名  
古屋の人で要退出て来られないと  
参加してくれた方がとうとうござ  
いました。大井川沿いを走るS  
列車を見たり、山頂で記念写真を撮  
とったりした。思い出に残る静か  
な雑木林のいい山だった。

(参加者) 池田繁美 森 美香子  
中島 隆 水谷陽子 前田喜久江  
近田智子 今岡民代 宮戸喜久江  
村川奉忠 森 晴代 岡本美千子  
森澤照子 奥村幸子 小崎由利子  
渡辺美代子 吉岡美津香  
○藤本桂吉 ○小出良春 (計16名)

8月22日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 8・40 9・  
00 (バス) 坊村 9・35 10 1 牛コ  
バ 10・45 10 1 白滝 11・40 1 50 1  
夫船瀬・滝見不動 12・20 (集合)

比良・白滝山  
(ファミリーハイイク1)  
8月26日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 8・40 9・  
00 (バス) 坊村 9・35 10 1 牛コ  
バ 10・45 10 1 白滝 11・40 1 50 1  
夫船瀬・滝見不動 12・20 (集合)

入道ヶ岳(鈴鹿白山群)  
8月29日(日) 小雨のちくもり  
(集合) 近鉄湯山駅 8・40 (車)  
小坂須谷合駐車場 9・15 1 30 1 池  
ノ宮 10・10 00 1 滝・谷分岐 11・  
10 1 朝比奈峠 12・15 (集合)  
食 一本松下 12・50 1 滝・谷分

8月29日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 9・40 (タク  
シー) 池内内線 10・20 1 第五鉄塔  
11・50 (集合) 13・00 1 池内内線  
14・40 (解散)

池内内線からよく列り込まれた  
鉄塔高視路を池内山へ往復。五番  
目の鉄塔下で賑やかなランチタイ  
ム。食後教習所を眺めながら「ふ  
るさと」を合唱した。  
(参加者) 前田悦子 宮戸喜久江  
関口恵子 阪上義次 吉澤孝次  
宮内初子 岡島一光 井上由紀晴  
井上聡美 栗橋忠吉 栗橋君子  
谷 守 田中幸子 光山一 三男子

原生ブナ林には感動した。有名な  
三つの温泉場では山の裾れと汗を  
流し、野沢な山旅になった。1等  
三角点の滝山(那岐山から)・星  
山(榎ヶ山から)へも足をのばす  
予定だったが、あまりの暑さのため  
め、ササ原の続く日差しの下での  
後戻りを覚悟するのは止めた。

(参加者) 宮野野郎 宮野野子  
白田恵子 片山克博 片山喜代子  
小林 桂 楠原良彦 南 利恵  
本家洗子 深田高治 森 康夫  
朝倉利己 福井清之 中地日出男  
○北比治美 ○安倉正樹  
○村田智俊 (計17名)

兵庫丹波・イタリ山から石釜山  
8月14日(日) 晴れ  
(集合) JR 谷山駅 10・50 (タク  
シー) であい公園 11・00 1 イタリ  
山 11・38 1 田高取 12・40 (集合)  
13・20 1 須崎 13・55 1 石釜山 14・  
25 1 40 1 小新屋 15・15 (タク  
シー) 谷川駅 15・35 (電車) 大阪  
駅 17・06 (解散)

風がコトリでもない暑い日だっ  
た。田高取から雲霧が降るが全員  
足がしかりと歩いていてクサリ場  
も楽しんで通過した。石釜山は兵  
庫丹波でも第一級的好展望の山

8月22日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 8・40 9・  
00 (バス) 坊村 9・35 10 1 牛コ  
バ 10・45 10 1 白滝 11・40 1 50 1  
夫船瀬・滝見不動 12・20 (集合)

比良・白滝山  
(ファミリーハイイク1)  
8月26日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 8・40 9・  
00 (バス) 坊村 9・35 10 1 牛コ  
バ 10・45 10 1 白滝 11・40 1 50 1  
夫船瀬・滝見不動 12・20 (集合)

入道ヶ岳(鈴鹿白山群)  
8月29日(日) 小雨のちくもり  
(集合) 近鉄湯山駅 8・40 (車)  
小坂須谷合駐車場 9・15 1 30 1 池  
ノ宮 10・10 00 1 滝・谷分岐 11・  
10 1 朝比奈峠 12・15 (集合)  
食 一本松下 12・50 1 滝・谷分

8月29日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 9・40 (タク  
シー) 池内内線 10・20 1 第五鉄塔  
11・50 (集合) 13・00 1 池内内線  
14・40 (解散)

池内内線からよく列り込まれた  
鉄塔高視路を池内山へ往復。五番  
目の鉄塔下で賑やかなランチタイ  
ム。食後教習所を眺めながら「ふ  
るさと」を合唱した。  
(参加者) 前田悦子 宮戸喜久江  
関口恵子 阪上義次 吉澤孝次  
宮内初子 岡島一光 井上由紀晴  
井上聡美 栗橋忠吉 栗橋君子  
谷 守 田中幸子 光山一 三男子

8月29日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 9・40 (タク  
シー) 池内内線 10・20 1 第五鉄塔  
11・50 (集合) 13・00 1 池内内線  
14・40 (解散)

池内内線からよく列り込まれた  
鉄塔高視路を池内山へ往復。五番  
目の鉄塔下で賑やかなランチタイ  
ム。食後教習所を眺めながら「ふ  
るさと」を合唱した。  
(参加者) 前田悦子 宮戸喜久江  
関口恵子 阪上義次 吉澤孝次  
宮内初子 岡島一光 井上由紀晴  
井上聡美 栗橋忠吉 栗橋君子  
谷 守 田中幸子 光山一 三男子

8月29日(日) 晴れ  
(集合) JR 聖山駅 9・40 (タク  
シー) 池内内線 10・20 1 第五鉄塔  
11・50 (集合) 13・00 1 池内内線  
14・40 (解散)

岐13・40 小坂須賀谷社車馬14・25 (車) 椿大神社15・10 (解) 期待したイワタバコの花はすでに終わっていた。  
 (参加者) 山田妙子 伊藤直美子 馬場祥子 山下由子 辻原詞子 伊藤純子 栗木敏夫 林 正義 西村文男 ◎山田明男 (計10名)

朽木・雲洞谷山  
 8月29日(日) くもり  
 (集合) 京都駅7・20 (バス) 桑野橋8・40 150 4等三角点9・57 鷹ヶ峰10・40 大産林道11・12 1 鉄塔広場11・30 (昼食) 12・30 雲洞谷山13・03 行者山14・00 東山14・22 明渡坂14・53 朽木学校前15・20 (バス) 京都駅17・00 (解散)  
 出発して間もなく山ビルが出て大ききになった。鷹ヶ峰までの登りがきつかった。雲洞谷山からは竹生島が見え、美しい二次林の道を通り抜けた。台風のおかげで被褥はよく風が吹いて涼しかった。吹き流りのナンエビネが見られた。  
 (参加者) 沖 若林文夫 多賀久子 木村 盛 宮本真幸 宮本悦子 川田洋子 村田はる江

小松信吾 松村雅子 船越利明 三井敏一 宮野哲郎 宮野哲子 堀井清之 加藤元彦 中村律子 大川直造 ◎中西信行  
 ◎瀬野重治 ◎森崎直喜 (計11名)  
 北浜・行者山  
 8月29日(日) 晴れ時々くもり  
 (集合) JR亀岡駅10・00 110 (バス) 樹原10・20 1 塚野寺10・40 1 千手寺11・20 1 宮徳山11・55 1 行者山12・15 (昼食) 12・45 1 松尾寺13・26 1 大川駅13・40 1 14・07 (解散・電車) 京都駅14・35

台風接近中で、どれほどのキャンセルがあるかと心配したが、私の最後の参加という事で、9名だけですんだ。下山後、京都駅前で80名の参加を得て打ち上げ、3000回と最後の祝賀会をしていただき、ムチャムチャ盛り上がった。飲めぬ私らその場の雰囲気は何が何やうかわからず、今日の日山にどうしてか参加できないからと、はがきやファックスを送っていた。いただいた15人の方にも感謝します。短い間でしたが、ご声援ありがとうございます。 (参加者) 小林 桂 小林悦子

馬場忠男 木家亮子 橋原良彦 吉澤孝次 岩崎健司 宮路ちへ子 徳田暢子 中村哲一 穴谷久江 若田有士 矢野 隆 中嶋日出男 宮西和子 中島純一 森 美香子 堀江淑昭 石原順次 中尾美智子 東村直美 藤原 邦 武部美恵子 松本勝子 大谷章子 伊東ナナ子 本間 隆 本間繁子 前川和佳子 櫻田孝子 福田輝子 広田不佐子 近田芳良 前川久枝 中村美恵子 近田智子 中島 隆 中村美恵子 森本 勝 佐野信江 野里マツ代 松本 博 川中 保 岡本美恵子 水谷律子 山岸勝雄 小嶋由利子 長尾順子 伊藤正延 中上紀代子 佐藤新一 佐藤妙子 井林寿寿子 宮下淳一 森 昭代 川北恵子 松田和恵 小田輝子 藤尾一正 渡部和美 山崎勝美 原 文子 長沢佑美 大和 敏 原 文子 仲倉礼司 奥比呂美 角田一江

須藤奇子 中尾哲子 中村哲香 谷 守 川上久堅 小谷和子 村田哲俊 石原君子 林 弘毅 北川良子 前田幸子 立川暢夫 ◎福崎 章 ◎中村英徳 ◎藤本建吉 ◎市野博文 ◎林 信男 ◎小出良香 (計110名)  
 塚原香織 白鳥忠子  
 (祝賀会送迎のみを◎)

山行計画申し込みについて  
 申し込み先は各計画によってさまざまです。(申込み)欄をよく確認のうえ、必ずそちらの宛先へ申し込んでください。申し込み後、実施日の約10日前頃に詳細を決めて係から返信します。早目に申し込まれた方はしばらくお待ちください。定員オーバーの場合はすぐお断りの返信をいたします。  
 中止の計画は返信ハガキでその判断基準を示しています。必ず山行前夜の緊急情報(各地の降水確率)をご確認のうえ、各自でご判断ください。(急病に急変しても、前夜の基準通りで決めます。)

**新ハイキングクラブ開会入会の案内**

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(毎月1・年6号発行)の定期購読者を中心としたハイキングの集いです。  
 この雑誌は紀伊文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体をつくり、自然のなかを歩く喜びをともに広めましょう。  
 「新ハイキングクラブ」は昭和25年創設以来、東京を中心に50年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年創設で13年目に入りますが、すでにたくさんの方々が参加しています。  
 会員は当会の山行実会に優先して参加できます。この山行実会を通じて正しい山歩きを、美しい山仲間たちと味わいませんか。  
 リーダー(※)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。  
 会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お送りします。  
 四季の自然に触れながら歩き、

若々しい心と健康をいつまでも持続するのは素晴らしいことです。これから始めてみたい人も、すでにベテランの人もみなさんご入会いただけます。  
 入会金 5000円(パジャマ代)  
 年会費 3000円(資料共)  
 入会の申し込み(随時)はこの雑誌に挿入の振替用紙をご利用ください。氏名(ふりがな)及び第何号からの送本かを忘れずに記入ください。  
 なお、定期購読をご希望される方も会員になっていただけます。振替宛先にお手元が届きますので便利です。  
 切手530円分をお送りになれば、「新ハイキング関西の山」見本誌1冊送ります。  
 ◎山行リーダー募集  
 リーダーは2ヶ月に1回程度、関西の山行実会を計画・実施していただきます。  
 無償の奉仕ですが、やりがいもあり、楽しいものです。経験のある方や、やってみたいと思われる方は、新ハイキング関西までご連絡ください。マニュアル(リーダー必読)をご参考に送りませう。

○新入会員(定期購読者)紹介  
 新しいお仲間のみなさんです。会員登録が5001番から50017番までです。  
 【愛知】 上井光正 十井美佐子  
 【三重】 福原雅哉  
 【滋賀】 生田恵子  
 【京都】 杉山隆久  
 【大阪】 後藤裕子 荒木光雄 郡山昌雄 出雲寺 敏 星友文字 道平さわか 徳友登子 金島泰久  
 【兵庫】 山口和則 村上純一 藤田 修 (17名)  
 【訂正とお詫び】  
 前7号(初秋)には多くの誤りがありました。お詫びします。  
 12ページ上段4行目「天上川」は「天井川」が正しい。  
 14ページ中段1行目「源光院」は「法隆寺」。「針葉樹の森林帯」は「常緑針葉樹の森林帯」が正しい。  
 17ページ上段3行目「コウシュ」は「コウケイ」が正しい。  
 17ページ上段10行目から20行目「新山」は「新山」が正しい。  
 25ページ下段16行目「高尾山」は「高尾」が正しい。

31ページ付近範囲「八雲の滝へ」は「八雲の滝へ」が正しい。  
 32ページ上段5行目「調敷」は「解敷」が正しい。同ページ下段18行目「ココタニ峠」は「ココタニ峠」が正しい。  
 33ページ上段1行目「琳明寺」は「琳明寺」が正しい。  
 36ページ上段4行目「中郎」は「中郎」が正しい。  
 37ページ中段15行目「ショウブソウ」は「ショウブソウ」が正しい。  
 51ページ上段8行目「時高川」は「高時川」が正しい。  
 51ページ上段10行目「時高川」は「高時川」が正しい。  
 83ページ上段11行目「釈迦院」は「釈迦院」が正しい。  
 89ページ下段20行目「ツキタリス」は「ツキタリス」が正しい。  
 90ページ中段10行目「コウシュ」は「コウケイ」が正しい。  
 94ページ下段8行目「奥山山系」は「奥山山系」が正しい。  
 94ページ下段10行目「奥山山系」は「奥山山系」が正しい。  
 94ページ下段11行目「奥山山系」は「奥山山系」が正しい。  
 (編集委員)